

志摩市人口ビジョン

(第 2 版)

平成 29 年 月 日

志 摩 市

目 次

I. 志摩市人口ビジョンについて

- 1. はじめに…………… p.1
- 2. 人口ビジョンの位置づけ…………… p.2
- 3. 対象期間…………… p.2

II. 志摩市の現状分析

- 1. 現在の人口について…………… p.3－28
 - (1) 志摩市の人口の推移…………… p. 3
 - (2) 人口を決める人の増減…………… p. 18
 - (3) まとめ…………… p. 28
- 2. 現在の地域経済について…………… p.29－52
 - (1) 志摩市の産業について…………… p. 29
 - (2) 志摩市の観光について…………… p. 41

III. 志摩市の将来人口の推計

- 1. 将来の人口について…………… p.53－57
- 2. 人口減少が地域に与える影響について…………… p.58－61

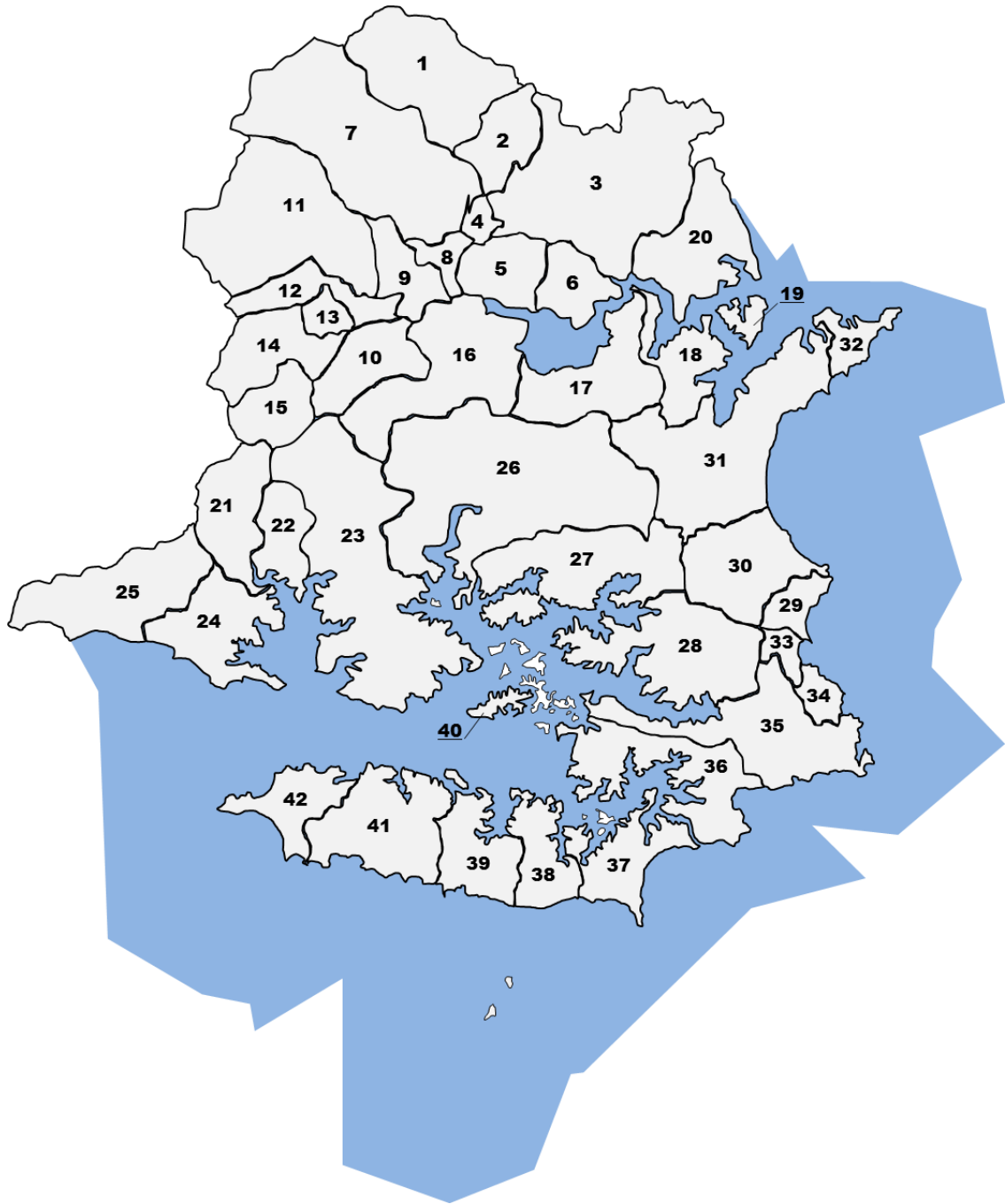
IV. 志摩市の将来展望

- 1. 志摩市の目指すべき将来の姿…………… p.62－67
- 2. 人口の将来展望…………… p.68－69

V. 巻末資料

- 1. 地区別・男女別人口及び地区別世帯数…………… p.71－73
- 2. 20～39 歳 男女別・地区別人口…………… p.74－75
- 3. 65 歳以上 男女別・地区別仁王…………… p.76－77
- 4. 20～39 歳・40～49 歳 男女別転入転出数…………… p.78

志摩市の42地区の位置図



◎ 磯部町 1) 五知 2) 沓掛 3) 山田 4) 上之郷 5) 下之郷 6) 飯浜
 7) 恵利原 8) 川辺 9) 迫間一 10) 迫間 11) 築地 12) 山原
 13) 栗木広 14) 夏草 15) 桧山 16) 穴川 17) 坂崎 18) 三ヶ所
 19) 渡鹿野 20) 的矢

◎ 浜島町 21) 桧山路 22) 塩屋 23) 迫子 24) 浜島 25) 南張

◎ 阿児町 26) 鵜方 27) 神明 28) 立神 29) 志島 30) 甲賀 31) 国府 32) 安乗

◎ 大王町 33) 畔名 34) 名田 35) 波切 36) 船越

◎ 志摩町 37) 片田 38) 布施田 39) 和具 40) 間崎 41) 越賀 42) 御座

I. 志摩市人口ビジョンについて

1. はじめに

平成 25 年 3 月に国立社会保障人口問題研究所が将来人口推計を公表しました。それによると、日本の総人口は、平成 22 年(2010 年)の 1 億 2,806 万人が、平成 62 年(2050 年)には 9,708 万人となり、平成 72 年(2060 年)には 8,674 万人、平成 112 年(2100 年)には 4,959 万人まで減少するとされています。さらに、平成 26 年 5 月には、政策提言機関である日本創生会議 人口減少問題検討分科会から「消滅可能性都市 896 リスト」が発表されました。これは、平成 22 年(2010 年)から平成 52 年(2040 年)の間に 20～39 歳の出産適齢期の女性の人口を全国の自治体別に推計し、その数が半数以下になる(減少率が 50%を超える)自治体を「消滅可能性都市」として抽出して 896 の自治体名を公表したもので、社会に大きな衝撃を与えました。

人口減少は近年になって始まったわけではありませんが、上記の報告等を受け、人口急減と超高齢化が日本の直面する大きな課題として改めて捉えられた結果、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくための施策を実施することなどを目的とした「まち・ひと・しごと創生法」が平成 26 年 11 月に制定されました。そして同年 12 月には、当該法に基づいて国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと総合戦略」が閣議決定されました。このなかで国は、平成 72 年(2060 年)に人口 1 億人程度を維持するという将来展望を示したうえで、国及び地方公共団体は、国民とともに問題意識を共有しながら、これまでにない危機感を持って、人口減少克服と地方創生に取り組む必要があるとしています。さらに、地方創生については特に地方の独自性を生かした取り組みが重要であるという考えから、国は全都道府県及び全市町村に「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定を求めました。

これを受けて、志摩市では平成 27 年 3 月に志摩市地方創生推進本部を設置し、志摩市の地方創生に向けた取り組みを開始しました。志摩市人口ビジョン(以下、「人口ビジョン」という。)は、志摩市の地方創生に向けた取り組みを検討するなかで、志摩市の現状と今後志摩市が目指す将来像をまとめたものです。

志摩市は「消滅可能性都市 896 リスト」に掲載された自治体の 1 つです。近年の急速な人口減少と高齢化がそのまま進行すると、志摩市の存続が危ぶまれることは間違いありません。人口ビジョンにまとめられた客観的な事実は、そのことを物語っています。

今よりも人口が減ることは避けられないのが現実ですが、よりよい志摩市を後世に残すためには、その現実を悲観的に捉えずに受け止めたうえで、人口が減少する未来を賢く生き抜くべく、人口減少に歯止めをかける不断の挑戦を続け、様々な地域課題を解決するための行動を、今の世代の私達が一刻も早く起こす必要があります。

2. 人口ビジョンの位置づけ

人口ビジョンは、「志摩市の人口や経済の現状分析」、「人口が減少する厳しい将来予測」、「今後志摩市が目指す将来像」の3点をまとめたものです。

人口ビジョンには、2つの位置づけがあります。

1つは、志摩市の地方創生のために策定する志摩市創生総合戦略（以下、「総合戦略」という。）が実現を目指す大きな方向性となる将来展望と、その実現に向けた施策を検討するための現状分析をまとめた基礎資料としての位置づけです。もう1つは、志摩市の人口や経済の現状分析、人口が減少する厳しい将来予測、そして今後志摩市が目指す将来像の3点について、広く市民に知っていただくための資料としての位置づけです。

活力ある志摩市を存続させるには、志摩市の現状を把握し、厳しい将来予測を知ったうえで、不断の挑戦を続ける市民や民間事業者の存在と力が不可欠です。人口ビジョンは、一人でも多くの市民や民間事業者の方々に、志摩市が置かれている現状と志摩市の目指す将来像に関する認識を共有していただくための資料になります。

なお、志摩市の将来展望を描く人口ビジョンは、市民を筆頭に地域に関わる多様な主体の意見を集めるとともに、国の長期ビジョン及び三重県の人口ビジョンを勘案することとなっています。客観的な事実を踏まえつつ、志摩市民の希望が描かれた人口ビジョンとなるよう、掲載情報については最新の情報を収集するとともに、記載内容の追加や修正については様々な機会を通じて意見交換をしながら、必要な改訂を行います。

3. 対象期間

人口ビジョンの対象期間は、国の長期ビジョンの期間に合わせて、45年後の平成72年（2060年）までとします。

Ⅱ. 志摩市の現状分析

1. 現在の人口について

(1) 志摩市の人口の推移

1-1. 総人口の推移

志摩市の人口の推移を示したグラフが、図1です。

大正9年に44,013人だった本市の人口は、第1次ベビーブーム(昭和22～24年)を経て、昭和22年には60,391人となり、昭和30年には66,628人となってピークを迎えました。その後、高度経済成長期の第1人口移動期(昭和35～48年)(※1)を経て人口が若干減少するものの、第2次ベビーブーム(昭和46～49年)を経て人口は若干増加します。その後、第2人口移動期(昭和55年～平成5年)(※2)には顕著な人口の減少は見られませんが、第3人口移動期(※3)に入る平成12年から急速な人口減少が続いています。

このように、若干の増減はありますが、本市の人口は半世紀以上前から減少を続けており、近年その減少に拍車がかかっています。

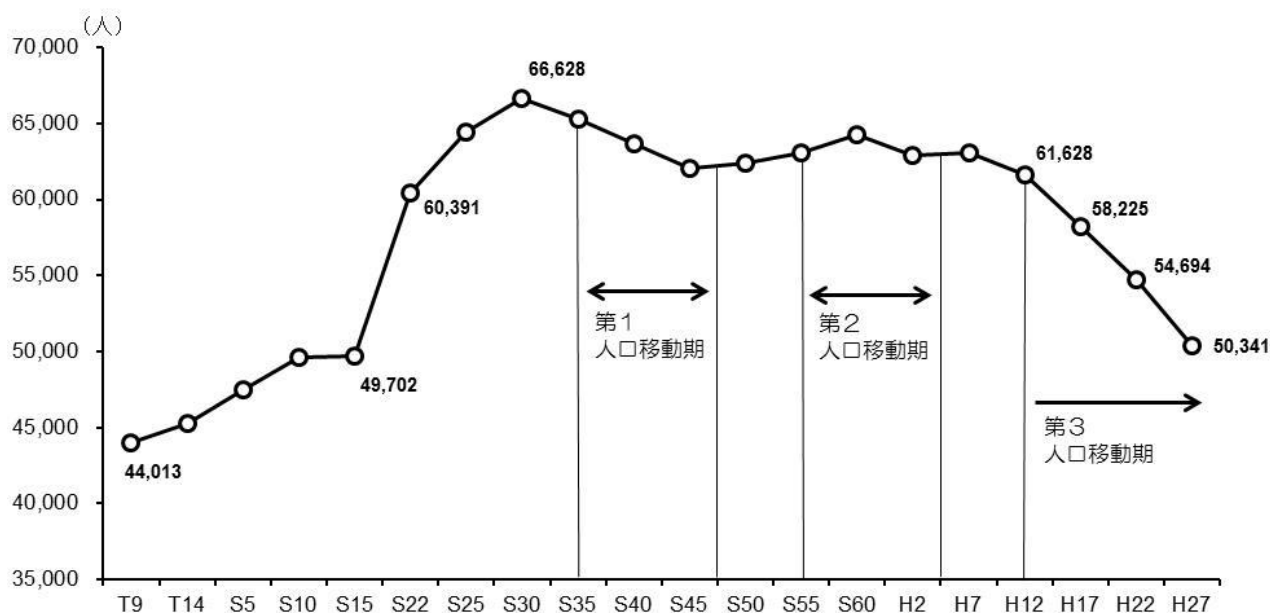


図1. 志摩市の人口推移 (資料出所：国勢調査)

- ※1 第1人口移動期…昭和35年～48年までの高度経済成長期に、地方の若者が集団就職により3大都市圏(東京圏、名古屋圏、関西圏)に集積した時期。雇用吸収力の増大に由来するプル型の人口移動。
- ※2 第2人口移動期…昭和55年～平成5年までのバブル経済期に、東京圏がサービス業及び金融業を中心に著しく成長を遂げる一方で、円高により地方に立地する工業が苦境を迎えたことで人口が東京圏に集積した時期。雇用吸収力の増大に由来するプル型の人口移動。
- ※3 第3人口移動期…平成12年～現在まで続く時期で、円高による製造業への打撃、公共事業の減少、人口減少等により、地方の経済や雇用状況が悪化し、若年層を中心に地方から東京圏に人口が集積している時期。地方の経済や雇用力の低下に由来するプッシュ型の人口移動。

年少層（0～14歳）、生産年齢層（15～64歳）及び老年層（65歳～）の年齢3階層別の人口の推移を示したグラフが、図2です。

年少層（0～14歳）の人口は、統計がとられた昭和35年以降、一貫して減少しています。総人口が減少する平成12年からの10年間で2,788人減少しています。

生産年齢層（15～64歳）の人口推移は、昭和35年以降、多少の増減は見られるものの平成7年までは40,000人を維持していましたが、その後は減少を始めて、平成22年までの15年間に10,000人程度も減少しています。これは、総人口の減少が顕著になる平成12年以前の平成7年から、生産年齢人口の減少が始まっていたことを示しています。

一方、老年層（65歳～）の人口は、昭和35年以降、一貫して増加しています。総人口が減少する平成12年からの10年間に3,163人増加しています。

以上を踏まえると、平成12年から起こっている総人口の急激な減少は、平成7年頃から始まる生産年齢層の人口減少を主な要因としていることが推察されます。また、平成7年頃から生産年齢層の人口減少が始まる理由については、志摩市が関西圏及び中部圏からの観光客で支えられている観光地であり、平成5年のバブル崩壊に伴う景気低迷によって観光客が減少した結果、都市部における景気低迷の影響が遅れて現れたということが考えられます。

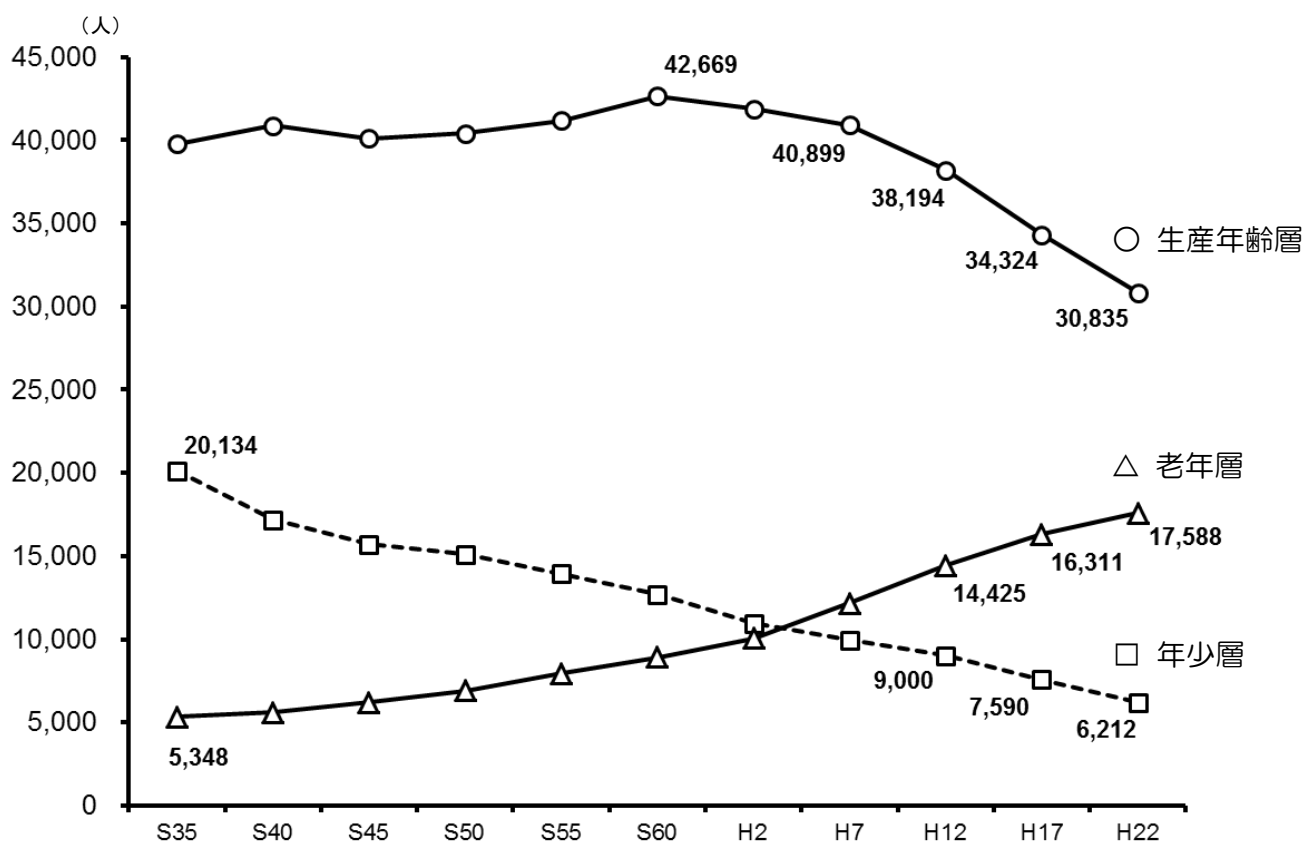


図2. 志摩市の年齢3階層別の人口推移（資料出所：国勢調査）

※ 図1の総人口には年齢不詳の人口が含まれているため、図2の3階層別人口の合計とは一致しません。

1－2. 生産年齢層の人口減少

生産年齢層の人口のなかでも、働き手世代（20～64 歳）の人口の推移を示したグラフが、**図 3** です。

統計がとられはじめた昭和 60 年以降、働き手世代の人口は減少していますが、その減り方には 2 つの段階があります。すなわち、緩やかな減少傾向を示している昭和 60 年から平成 7 年までの段階と、急速な減少傾向を示す平成 7 年以降の段階です。平成 7 年からの 15 年間では 8,967 人、平成 12 年からの 10 年間では 6,235 人が減少しています。

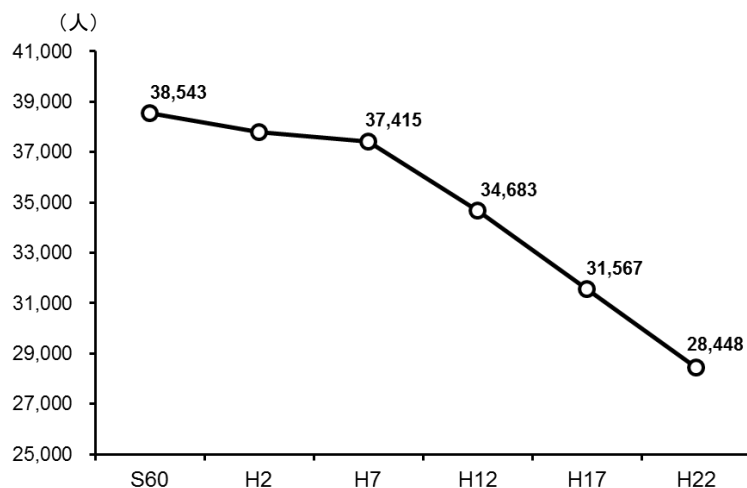


図 3. 志摩市の働き手世代（20－64 歳）の人口の推移（資料出所：国勢調査）

20 代、30 代、40 代及び 50 代の 4 世代の人口の推移を示したグラフが、**図 4** です。

各世代の人口の減少傾向にはそれぞれ特徴がみられますが、30 代の人口のみ昭和 60 年からの 5 年間で急速に減少しています。

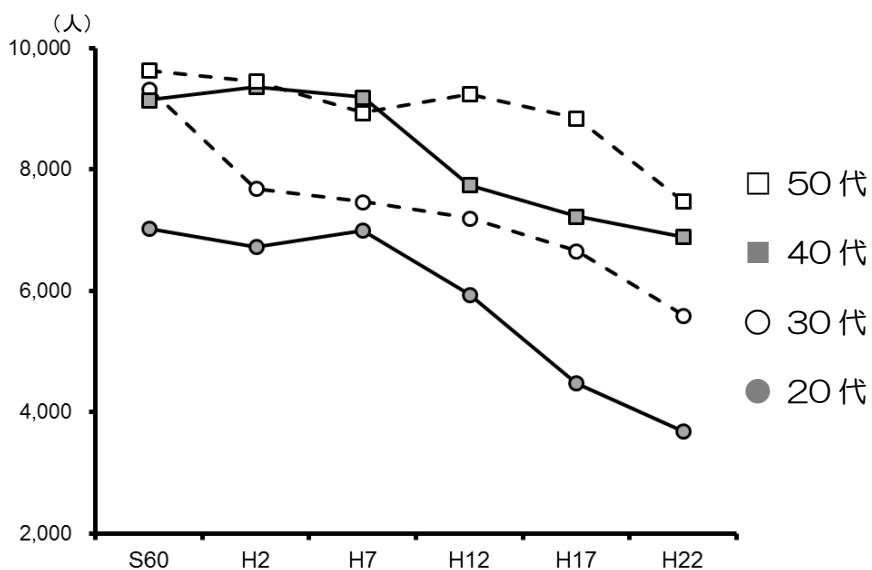


図 4. 20 代から 50 代の世代別の人口の推移（資料出所：国勢調査）

平成 7 年以降の働き手世代の人口減少についてまとめた表が、表 1 です。

特に 20 代の人口が急速に減少しており、平成 7 年と平成 22 年を比較すると 47%減、平成 12 年と平成 22 年を比較すると 38%減となっています。

図 4 に示したとおり、第 2 人口移動期（昭和 55 年～平成 5 年）に当時の 20 代後半や 30 代前半の人口が減少し、そこに追い打ちをかけるように、バブル崩壊（平成 5 年）に伴う景気低迷の影響で平成 7 年以降に 20 代を筆頭に働き手世代の人口が減少して、その後の第 3 人口移動期（平成 12 年～）にもその傾向は変わらずに、働き手世代の人口が減少し続けていると考えられます。

	H 7 人口	H12 人口	H22 人口	H 7 からH22までの減少		H12からH22までの減少	
				減少数	減少率	減少数	減少率
20代	6,995	5,944	3,685	-3,310	-47%	-2,259	-38%
30代	7,467	7,200	5,599	-1,868	-25%	-1,601	-22%
40代	9,192	7,743	6,890	-2,302	-25%	-853	-11%
50代	8,938	9,246	7,475	-1,463	-16%	-1,771	-19%

表 1. 平成 7 年から 22 年までの各世代の人口の減少数（資料出所：国勢調査）

1－3. 出産適齢期の女性の人口減少

20～39 歳の出産適齢期の女性の人口の推移を示したグラフが、図 5 です。

昭和 60 年以降、志摩市の出産適齢期の女性の人口は減少しており、図 4 に示した 20 代の人口推移と似た推移を示します。出産適齢期の女性の減少数は、総人口が急速に減少し始める平成 12 年からの 10 年間では 2,106 人で、生産年齢層の人口が減少し始める平成 7 年からの 15 年間では 2,856 人となっています。

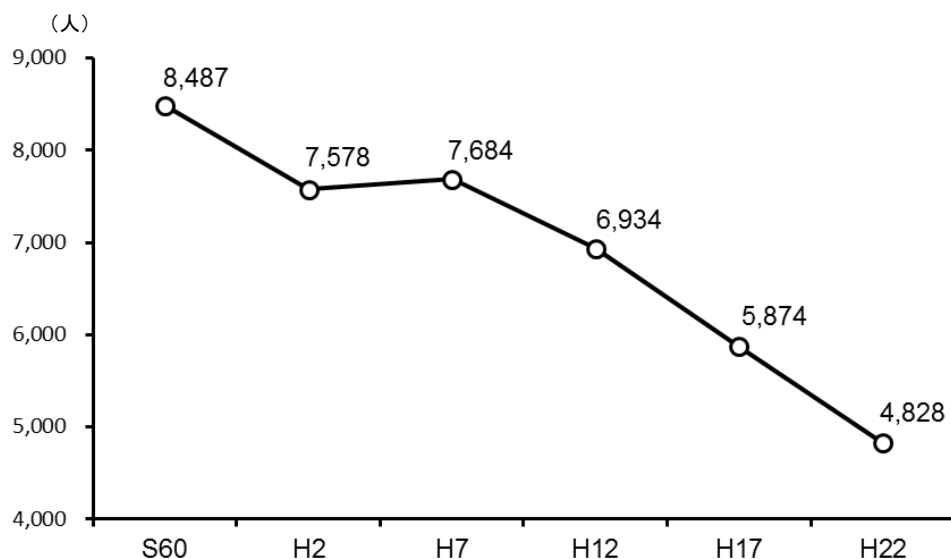


図 5. 志摩市の出産適齢期の女性の人口の推移（資料出所：国勢調査）

人口に占める出産適齢期の女性の人口の割合の推移を志摩市と三重県で比較したグラフが、図6です。

三重県全域の出産適齢期の女性の割合は、志摩市と同様に減少傾向を示していますが、志摩市は三重県のなかでも出産適齢期の女性の減り方が大きいことがわかります。

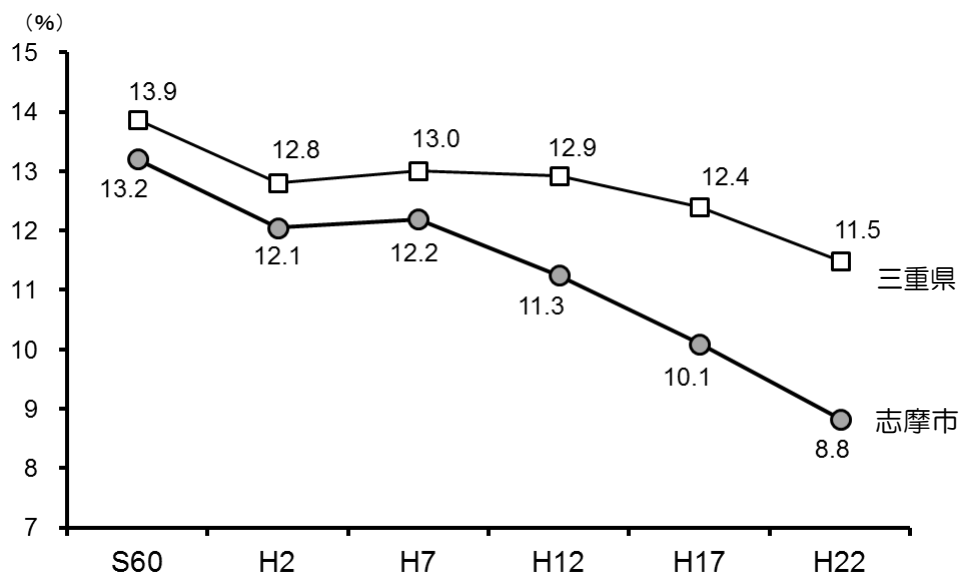


図6. 三重県と志摩市の全人口に占める出産適齢期の女性の割合の推移

(資料出所：国勢調査)

1－4. 児童・生徒数の推移

昭和 55 年度から国勢調査の実施年度ごとの市内児童数の推移を示した表が、表 2 です。

志摩市の児童数は、昭和 55 年度から平成 27 年度までの 30 年余りで約 65%減少しています。

志摩市発足以来、学校の統合を進めているため、学校数は昭和 55 年度の 20 校から平成 27 年度には 17 校に減少しています。

地区別	統合前	統合後	S55	S60	H 2	H7	H12	H17	H22	H27
浜島町	浜島小	浜島小	626	548	409	334	281	238	190	125
	南張小		45	43	25	19	14			
	迫塩小		69	48	45	69	68			
	小 計		740	639	479	422	363	285	190	125
大王町	畔名小	波切小	71	47	40	31	32	28	22	180
	波切小（分校含）		675	598	460	414	278	249	201	
	船越小		206	174	133	130	128	121	90	29
	小 計		952	819	633	575	438	398	313	209
志摩町	片田小		327	208	183	172	169	164	89	36
	布施田小		226	170	161	173	168	152	124	58
	和具小（分校含）		744	655	541	472	435	319	254	233
	越賀小		239	206	182	168	100	90	70	25
	御座小（H26年度から休校）		89	59	68	72	50	28	23	
	小 計		1,625	1,298	1,135	1,057	922	753	560	352
阿児町	鵜方小		755	688	647	677	647	634	567	511
	神明小		302	359	292	272	272	261	269	236
	立神小		166	119	112	121	90	101	86	54
	甲賀小		207	219	217	191	173	164	160	158
	志島小		96	109	76	61	61	44	44	44
	国府小		124	133	99	107	115	91	92	62
	安乗小		281	214	188	147	141	115	88	67
	小 計		1,931	1,841	1,631	1,576	1,499	1,410	1,306	1,132
磯部町	磯部小（分校含）		736	636	559	507	415	411	352	272
	的矢小		106	88	81	78	92	67	29	13
	成基小		67	56	50	73	47	41	30	27
	小 計		909	780	690	658	554	519	411	312
合 計			6,157	5,377	4,568	4,288	3,776	3,365	2,780	2,130

表 2 小学校別 児童数の推移（資料出所：志摩市）

昭和 55 年度から平成 27 年度までに児童数がどのように変化してきたかを各地区ごとに示したグラフが、**図 7**です。

志摩市の児童数は、昭和 55 年度を 100 とした場合、平成 27 年度までの 30 年余りで約 34.6% まで減少しています。地区別では、阿児町が 58.6% で唯一児童数が半減していない地区となっています。次いで、磯部町が 34.3%、大王町が 22.0%、志摩町が 21.7%、浜島町が 16.9% となっています。

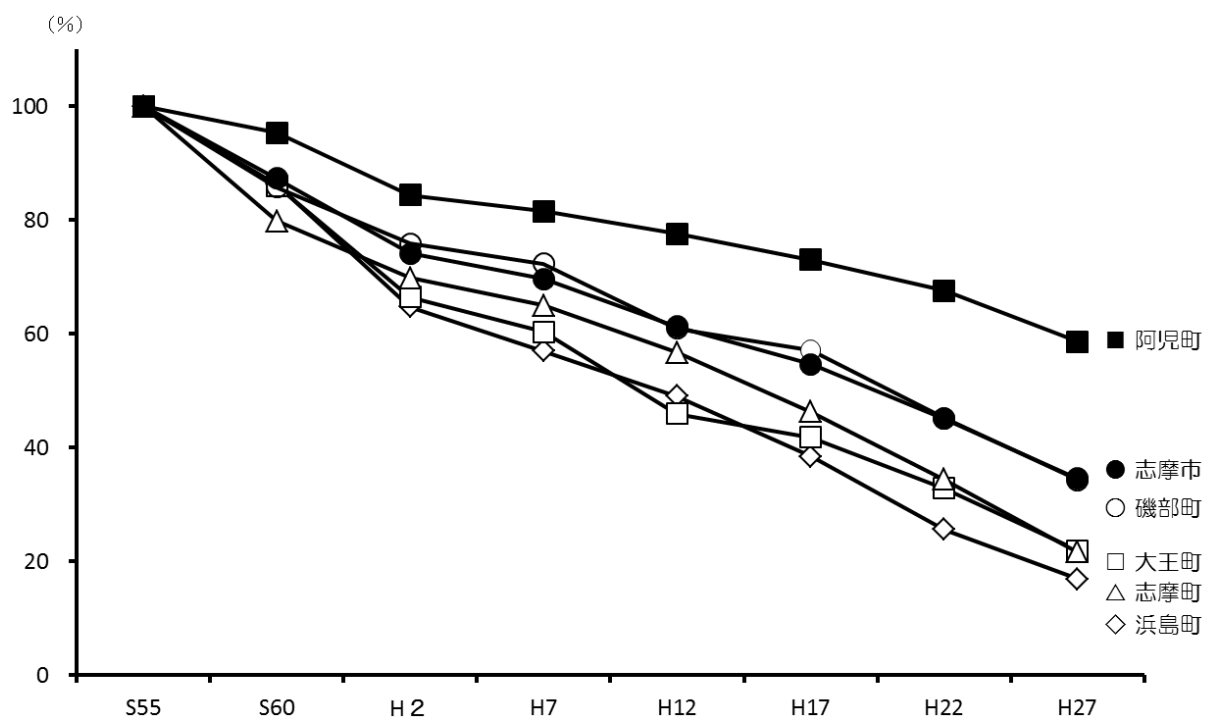


図 7. 町別の児童数の変化率（資料出所：志摩市）

昭和 55 年度から国勢調査の実施年度ごとの市内生徒数の推移を示した表が、表 3 です。
 志摩市の生徒数は、昭和 55 年度から平成 27 年度までの 30 年余りで約 53%減少しています。
 中学校の統合を進めた結果、学校数は昭和 55 年度の 11 校から平成 27 年度には 7 校に減少しています。

地区別	統合前	統合後	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27
浜島町	浜島中		339	338	298	228	188	170	145	87
	小　計		339	338	298	228	188	170	145	87
大王町	波切中	大王中	209	388	295	245	215	143	120	135
	船越中		111	94	76	60	59	59	54	
	小　計		320	482	371	305	274	202	174	135
志摩町	片田中	志摩中	193	161	100	85	81	71	69	256
	和具中		525	441	386	344	326	293	235	
	越賀中		125	159	122	130	118	68	55	
	小　計		843	761	608	559	525	432	359	256
阿児町	文岡中		452	542	515	483	473	444	440	469
	東海中		272	309	276	261	240	226	207	173
	安乗中		134	141	93	93	70	72	52	32
	小　計		858	992	884	837	783	742	699	674
磯部町	磯部中		412	410	348	308	276	209	227	187
	的矢中	文岡中	69	45	44	35	36	42	29	—
	小　計		481	455	392	343	312	251	256	187
合　計			2,841	3,028	2,553	2,272	2,082	1,797	1,633	1,339

表 3 中学校別 生徒数の推移（資料出所：志摩市）

昭和 55 年度から平成 27 年度まで生徒数がどのように変化してきたかを地区ごとに示したグラフが、**図 8** です。

志摩市の生徒数は、昭和 55 年度を 100 とした場合、平成 27 年度までの 30 年余りで 47.1% まで減少しています。地区別では、阿児町が 78.6% で唯一生徒数が半減していない地域となっています。次いで、大王町が 42.2%、磯部町が 38.9%、志摩町が 30.4%、浜島町が 25.7% となっています。

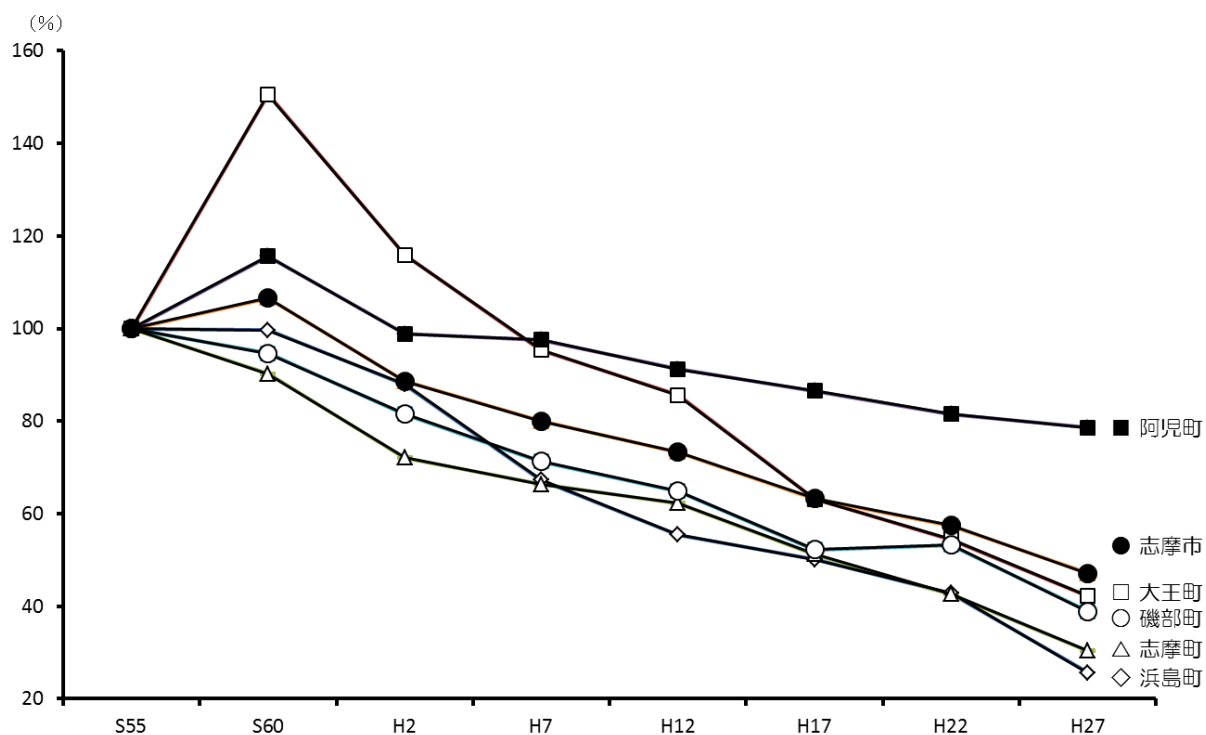


図 8. 町別の生徒数の変化率（資料出所：志摩市）

1-5. 地区ごとの人口の推移

平成12年の人口を基準に、平成27年までの15年間で人口がどのように変化してきたかを地区ごとに示したグラフが、図9です。

阿児町は、人口の減少が最も小さい地区で、平成27年の人口は、平成12年時点の95%程度を維持しています。総人口の減少とほぼ同じペースで人口減少が進んでいる地区が磯部町で、平成27年の人口は、平成12年時点の82%程度に減少しています。一方、浜島町、大王町及び志摩町の3地区については人口減少の進行が速く、平成27年度の人口は、平成12年時点の74%程度まで減少しています。

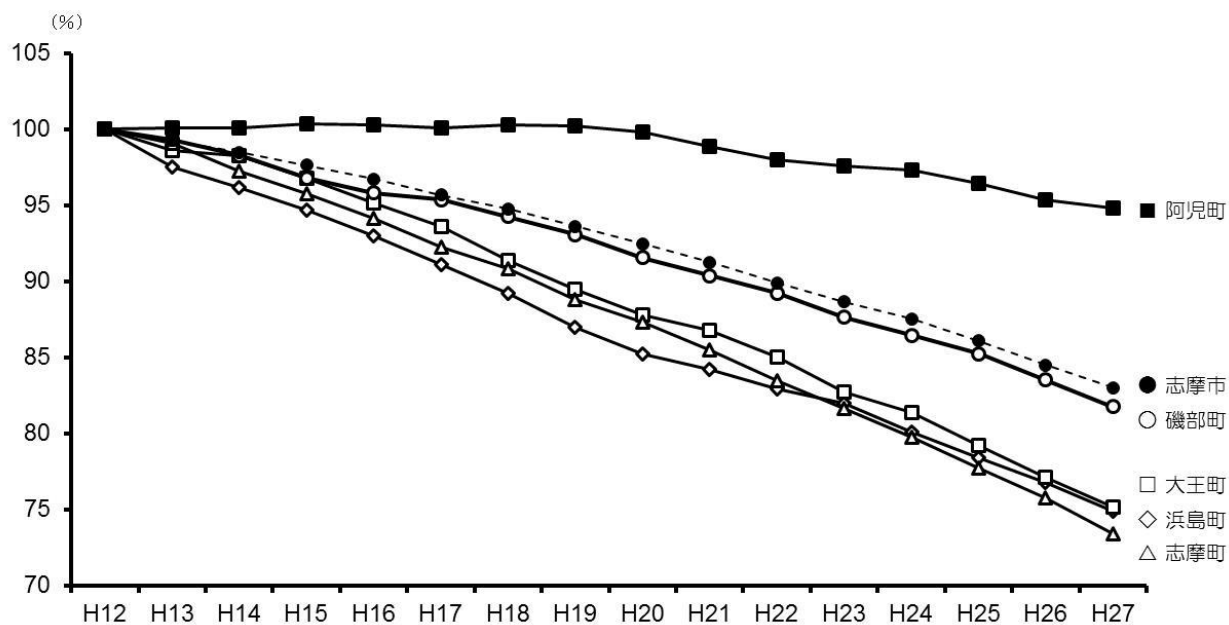


図9. 旧町別の人口の変化率（資料出所：志摩市 住民基本台帳）

平成 12 年からの市内各地区の人口推移を示した表が、表 4 です。

平成 12 年から平成 27 年まで人口の年間変化率は、浜島町で-1.8%、大王町で-1.8%、志摩町で-1.9%、阿児町で-0.3%、磯部町で-1.3%となり、市全体では-1.2%となっています。5 地区の平均年間変化率が-1.4 なのに対して、総人口の変化率は-1.2%となっており、総人口の方が変化（減少）の幅は小さくなっています。これは、5 地区の人口の平均変化率に、人口減少の進行が速い浜島町、大王町及び志摩町から阿児町への人口移動が含まれているためと考えられます。

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
浜島町	6,186	6,031	5,947	5,856	5,754	5,634	5,517	5,379	5,272	5,210	5,128	5,070	4,955	4,850	4,749	4,633
大王町	8,857	8,730	8,704	8,571	8,428	8,287	8,090	7,924	7,776	7,684	7,531	7,329	7,209	7,018	6,830	6,656
志摩町	15,240	15,101	14,818	14,590	14,341	14,062	13,837	13,537	13,305	13,027	12,724	12,437	12,152	11,847	11,549	11,190
阿児町	23,492	23,510	23,509	23,567	23,565	23,504	23,557	23,544	23,452	23,229	23,024	22,931	22,865	22,653	22,403	22,276
磯部町	9,652	9,586	9,485	9,343	9,248	9,204	9,097	8,983	8,837	8,721	8,613	8,457	8,345	8,227	8,061	7,890
総人口	63,427	62,958	62,463	61,927	61,336	60,691	60,098	59,367	58,642	57,871	57,020	56,224	55,526	54,595	53,592	52,645

表 4. 旧町別の人口の変化（資料出所：住民基本台帳）

「国勢調査」と「住民基本台帳」で総人口の数が異なる理由

※ 「国勢調査」…5 年ごとに全国で実施される調査で、各戸訪問によって調査がなされるため、そのときその場所に暮らしている人口が正確に把握されます。

※ 「住民基本台帳」…志摩市に住民登録をしている人の数となっており、進学や就労で市外に転出した方や、入院や施設入居などの目的で転出した方でも、住民票を移していない方であれば人口に含まれるため、実際の人口よりも多くなります。

志摩市内の 42 地区における平成 12 年と平成 27 年の人口の変化率を示したグラフが、図 10 です。15 年間でどれだけ人口が変化しているかを示しており、100%に満たない場合は、人口が減少しているということになります。

志摩市の総人口については、83%程度に減少しているのに対して、全地区の半数を超える 28 地区で人口が 80%以下まで減少しています。

特に人口の減少が大きい地区は、間崎（41%）、渡鹿野（53%）、御座（65%）の順となっており、離島や半島の突端という地理的条件の厳しい地区での人口減少が急速に進行していることがわかります。

一方で、平成 27 年の人口が平成 12 年時点に比べてほとんど変わらないか、微増している地区が、鵜方（103%）、築地（103%）、神明（102%）、的矢（100%）の 4 地区です。神明及び鵜方については、阿児町への人口集中によるものと考えられます。また、築地及び的矢における人口の微増は、平成 10 年代に入ってから始められた宅地開発や分譲マンションの販売による効果だと考えられます。

なお、電車の停車駅がある地区は 7 地区（五知、沓掛、上之郷、川辺、穴川、鵜方及び神明）ありますが、人口減少が見られない地区は鵜方と神明の 2 地区のみで、他の 5 地区は人口が減少しています。

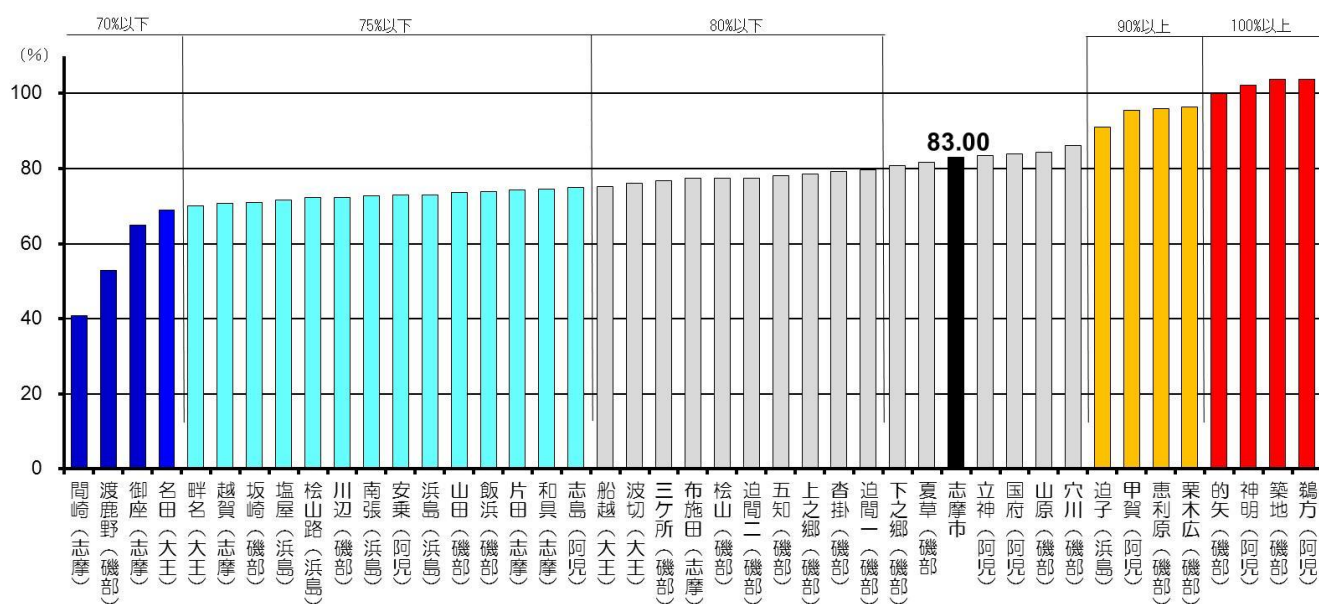


図 10. 志摩市各地区の人口の変化率（H12 と H27）（資料出所：住民基本台帳）

1－6. 高齢化率の推移

志摩市の高齢化率の推移を示したグラフが、図 11 です。

高齢化率とは、ある集団の全人口に占める 65 歳以上の人口の割合のことです。高齢化率が 7 %を超えると「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」、20%を超えると「超高齢社会」といわれます。

志摩市の高齢化率をみると、昭和 35 年当時で高齢化率は 8 %を超えており、その時点で既に高齢化社会であったことがわかります。その後、平成 2 年に高齢化率が 16%となって高齢社会に、平成 12 年には高齢化率が 23%を超えて超高齢社会になり、その後も高齢化率は上昇しています。

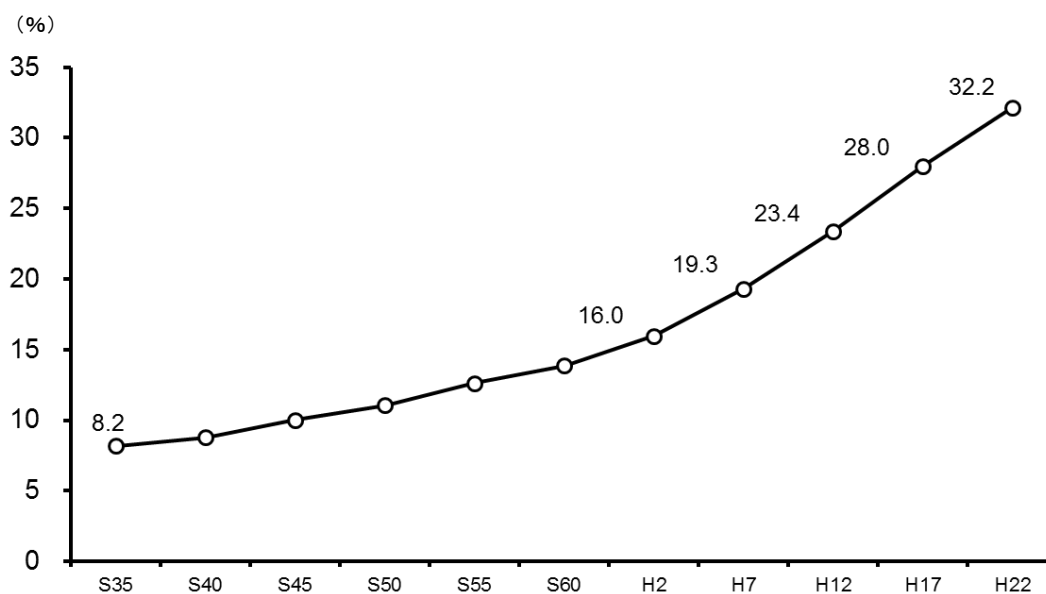


図 11. 志摩市の高齢化率の推移（資料出所：国勢調査）

市内各地区の高齢化率の推移を示したグラフが、図 12 です。

人口減少の進行が速い浜島町、大王町及び志摩町の 3 地区では、高齢化率が 40%を超えており、他の地区よりも速く高齢化が進行していることがわかります。磯部町の高齢化率は 36%程度となっており、志摩市全体とほぼ同じ水準となっています。一方、阿児町の高齢化は他の 4 地区より低いものの平成 27 年度に 30%を超えました。

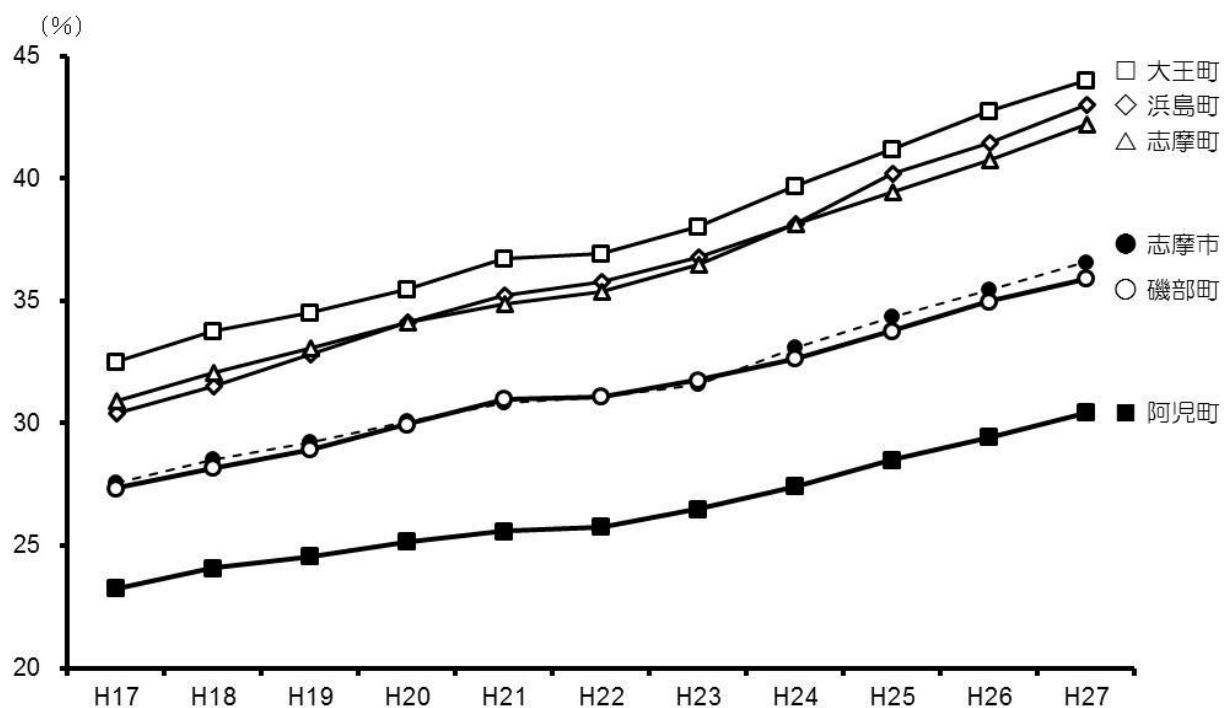


図 12. 旧町別の高齢化率の推移（資料出所：住民基本台帳）

志摩市内の 42 地区における平成 27 年度の高齢化率を示したグラフが、図 13 です。

36 地区で高齢化率が 30%を超えており、そのうち 20 の地区では高齢化率が 40%を超えています。間崎（73.3%）や渡鹿野（53.7%）といった離島の高齢化率が特に高くなっています。一方で、高齢化率が 30%未満の地区は 6 地区あり、鵜方（25.7%）、築地（28.4%）、神明（29.0%）といった人口減少をしていない地区が含まれます。しかし、42 地区の人口の変化率を示した図 11 と比較すると、桧山や沓掛など、人口は志摩市の平均的な水準で減少しているものの高齢化率が低い地区や、的矢や迫子など人口を比較的維持しているものの高齢化率が高い地区もあります。

これらのことから、人口減少が進行しやすい地理的条件が厳しい地区では高齢化の進行が速く、人口が集中する地区では高齢化の進行が遅くなるという傾向はあるものの、必ずしも人口減少と高齢化が同時に起こっているわけではないことが示唆されます。顕著な人口減少をしていない地区で、高齢化率に改善が見られれば、転入者などにより地区の若返りが図られている可能性があり、人口減少が顕著ではない地区であっても、高齢化率が高ければ、今後急速な人口減少が起こる可能性が高いと考えられます。

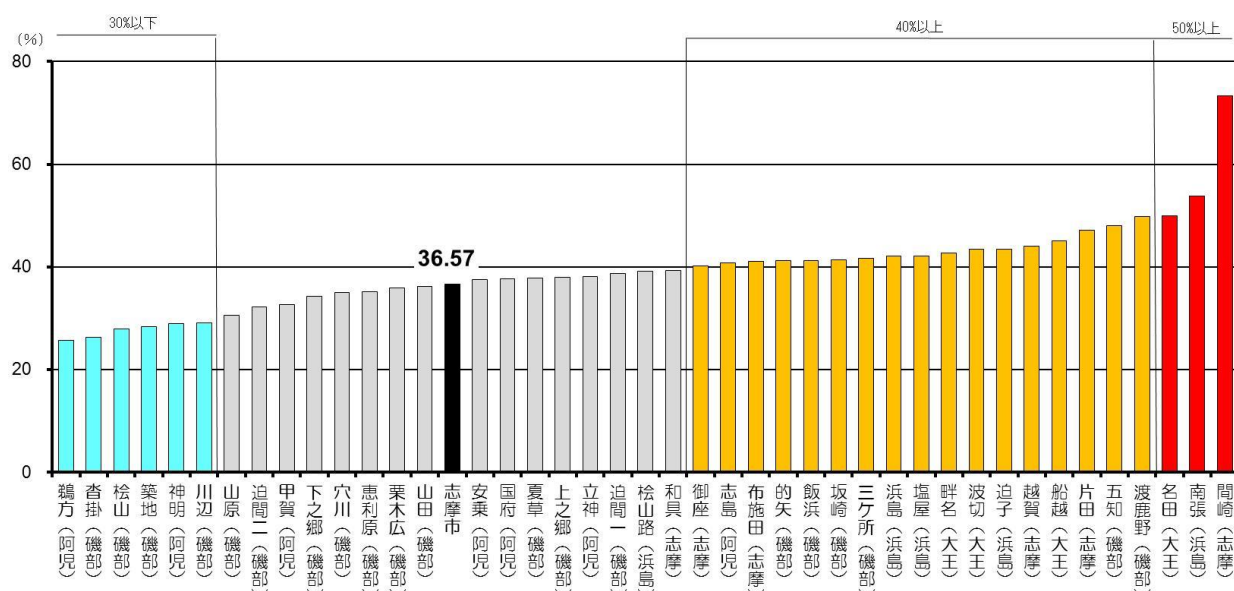


図 13. 志摩市各地区の高齢化率（資料出所：住民基本台帳）

(2) 人口を決める人の増減

2-1. 生まれてくる人数と亡くなる人数

人口は、増えた人の数と減った人の数で決まります。その増減のうち、新たに生まれることにより増えた人の数（出生数）と、亡くなることにより減った人の数（死亡数）による増減を「自然増減」と呼びます。志摩市の自然増減を示したグラフが、**図 14** です。

昭和 59 年から平成元年頃までは出生数が死亡数を上回る自然増の状況でしたが、その後出生数と死亡数が均衡し、平成 7 年頃に自然減の状況に転じてからは、自然減に数が増加しています。平成 20 年からの **7 年間**では、平均 **482 人**／年の自然減となっています。

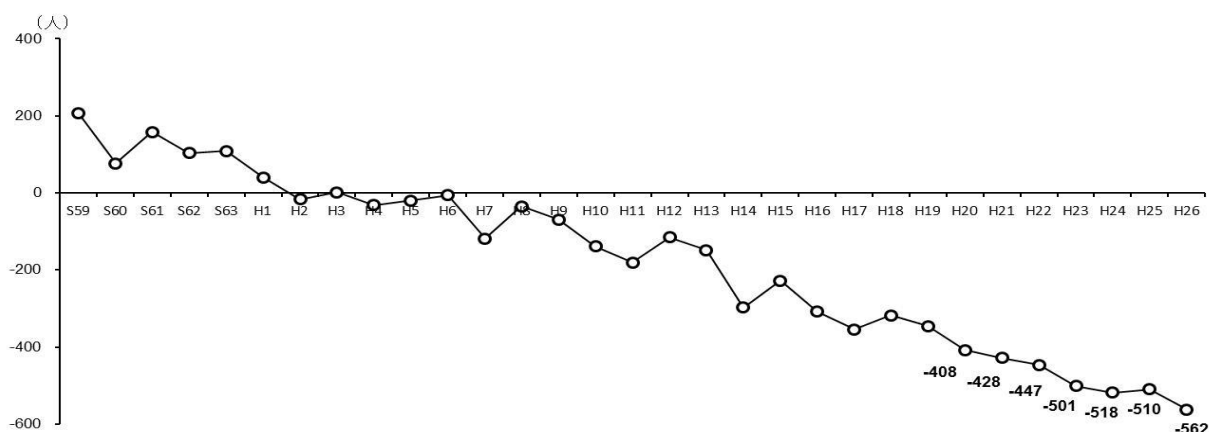


図 14. 志摩市における自然増減の推移（資料出所：三重県月別人口調査）

出生数と死亡数の推移を示したグラフが、**図 15** です。

昭和 59 年に 719 人であった出生数は、平成 26 年には 240 人にまで減少しています。平成 20 年からの **7 年間**の平均年間出生数は **294 人**です。一方、昭和 59 年に 513 人であった死亡数は、平成 26 年に 802 人に増加しています。平成 20 年からの **7 年間**の平均年間死亡数は **776 人**です。出生数が 400 人以上減少したのに対して、死亡数は 200 人以上の増加となっており、出生数の減少が自然減を強める要因となっています。

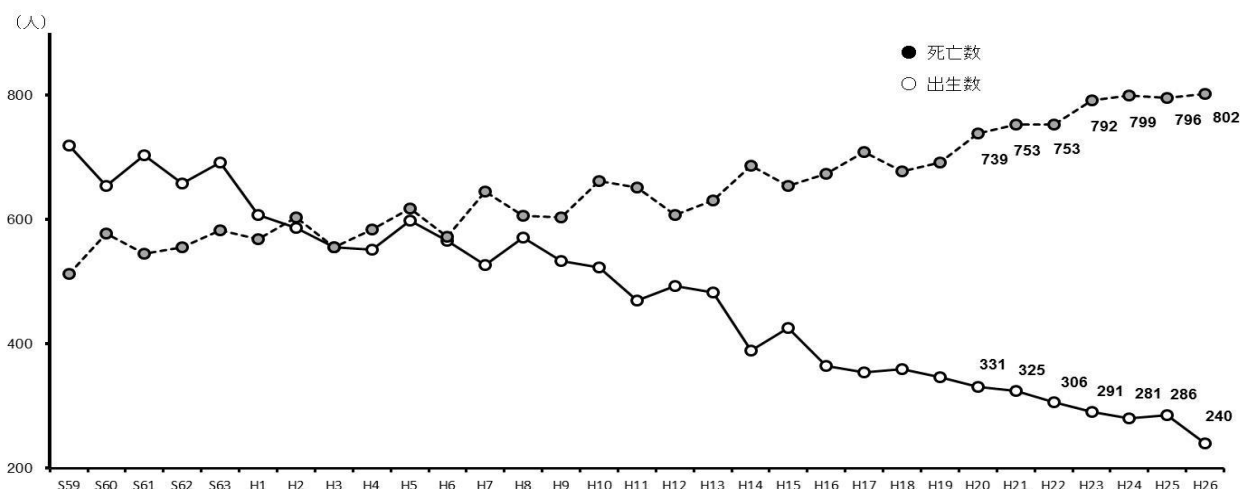


図 15. 志摩市における出生数と死亡数の推移（資料出所：三重県月別人口調査）

出生数には、1人の女性が生涯に産む子供の数（合計特殊出生率）と、出産適齢期の女性の人口の2点が、大きく影響します。志摩市の合計特殊出生率の推移について、全国及び三重県とも比較したグラフが、図16です。

志摩市の平成26年時点の合計特殊出生率は1.60となっており、全国の1.42、三重県の1.45と比較すると高い値となっていますが、平成20年からの7年間の平均値を比較すると、全国、三重県、志摩市の順に1.40、1.45、1.42となっており、大きな差は見られません。図5及び6で示したとおり、志摩市の出産適齢期の女性の人口は減少しており、人口に占める割合も小さくなっています。したがって、志摩市における出生数が減少している要因は、出産適齢期の女性の人口が減少しているためだと考えられます。

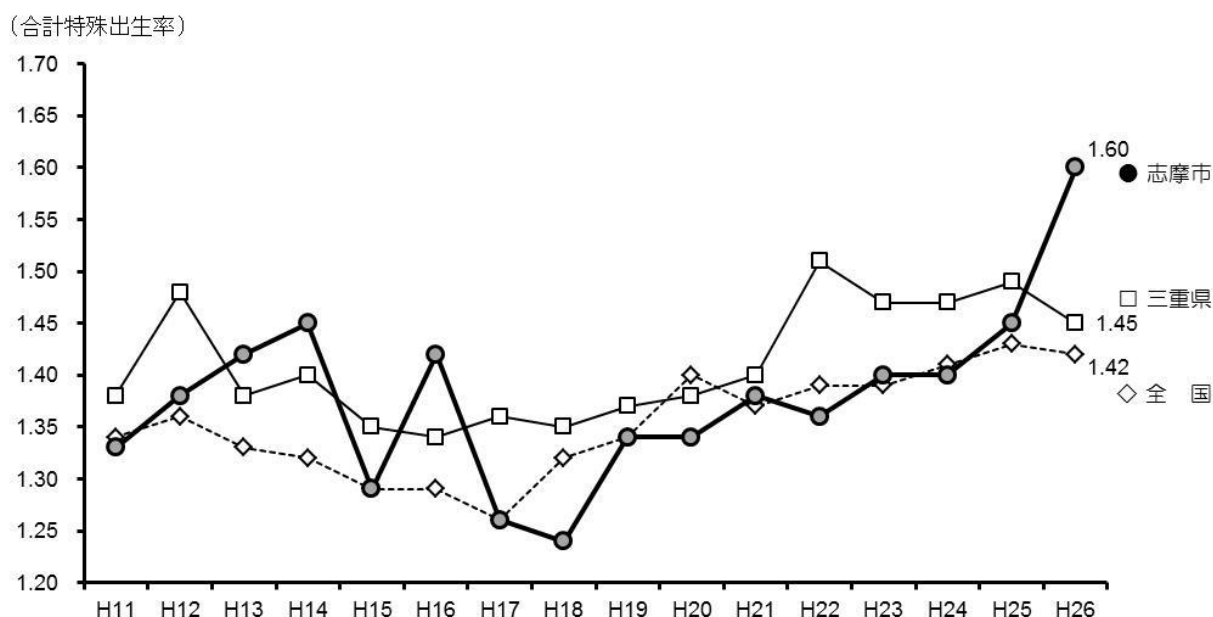


図16. 志摩市、三重県及び全国の合計特殊出生率の推移

(資料出所：衛生統計年報(平成11年～平成15年)、三重県資料(平成16年以降))

志摩市の 20～39 歳の男女の未婚率の推移を示したグラフが、図 17 です。また、20～39 歳の男女別の未婚率の推移を 5 歳区切りでまとめた表が、表 5 です。

平成 22 年では、20～39 歳の男女ともに半数以上が未婚であり、男性では 30～39 歳、女性では 25～39 歳の未婚率が特に上昇しています。こうした未婚率の上昇と晩婚化も、少子化に拍車をかける要因として考えられます。

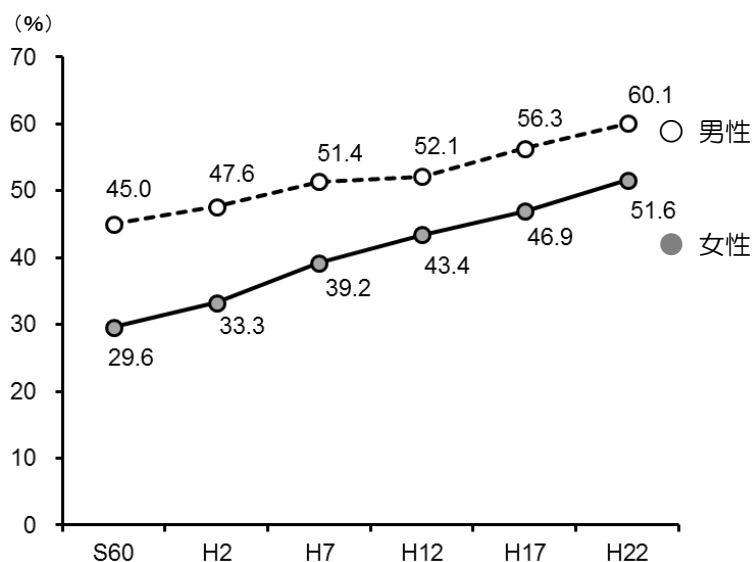


図 17. 20～39 歳の男女別未婚率の推移（資料出所：国勢調査）

		S60	H2	H7	H12	H17	H22
男	20～24歳	89.5	90.0	89.7	87.8	89.6	92.8
	25～29歳	55.2	53.9	60.8	60.5	65.5	68.5
	30～34歳	24.3	29.3	32.9	36.6	41.7	45.1
	35～39歳	11.0	17.4	22.2	23.5	28.6	34.0
女	20～24歳	76.6	81.6	86.1	84.2	84.9	88.0
	25～29歳	27.8	34.2	43.4	49.6	55.1	61.5
	30～34歳	8.1	11.8	18.1	25.5	29.6	35.0
	35～39歳	6.0	5.7	9.2	14.3	18.2	22.0

表 5. 20～39 歳の 5 歳区切りの男女別未婚率の推移（資料出所：国勢調査）

2-2. 志摩市に引っ越してくる人と志摩市から出ていく人

人口を決める人の増減のうち、志摩市に引っ越してくる人の数（転入数）と志摩市から出ていく人の数（転出数）による増減を「社会増減」と呼びます。志摩市の社会増減を示したグラフが、**図 18** です。

昭和 59 年から平成 3 年までの期間は、年平均 200 人程度の転出者超過（社会減）が続き、その後は平成 5 年に転入者超過（社会増）を迎えますが、平成 7 年から平成 10 年にかけて年平均 120 人程度の社会減となります。平成 11 年に一時的に社会増になりますが、平成 12 年以降には年平均 400 人程度の社会減に転じ、それ以降、現在もそのまま社会減が続いています。平成 20 年からの **7 年間**では、**平均 428 人／年**の社会減となっています。

なお、平成 5 年頃に大きく社会増に転じていますが、これは志摩スペイン村の開業（平成 6 年 4 月）に向けて転入者が増加したことによると考えられます。

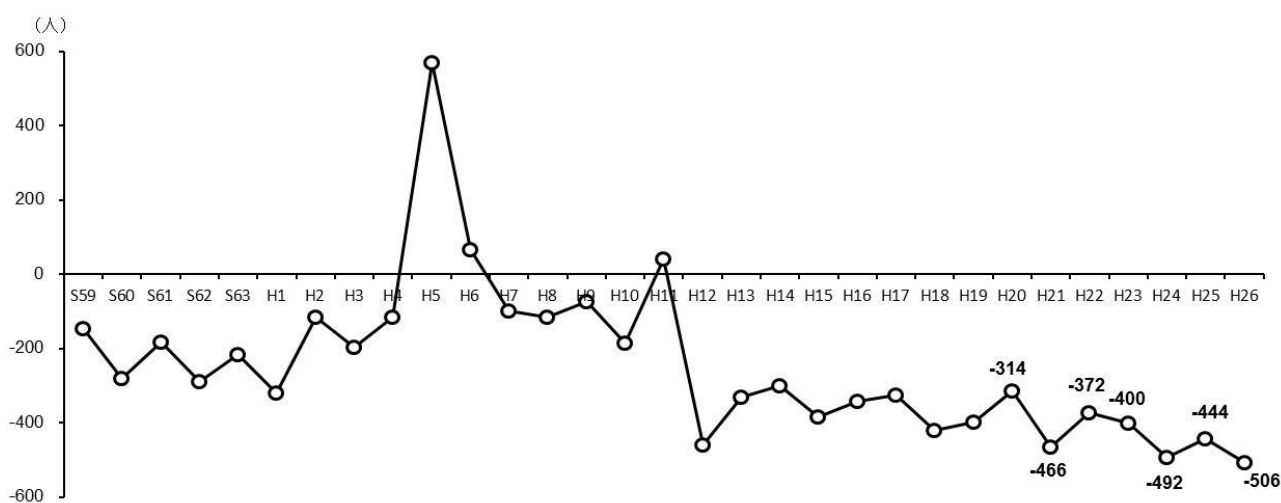


図 18. 志摩市における社会増減の推移（資料出所：三重県月別人口調査）

転入数と転出数の推移を示したグラフが、**図 19** です。

5 町が合併する前の平成 15 年までの転入数と転出数には旧町間の移動者数が含まれますが、合併後の平成 16 年以降は旧町間の移動者数を含みません。そのため、平成 15 年以前の転入数と転出数は、平成 16 年以降に比べて多くなっています。平成 16 年以降の転入数は、平成 20 年まで 1,200 人程度で推移していましたが、平成 21 年以降には 1,000 人程度に減少し、現在もその傾向が続いています。一方、平成 16 年以降の転出数は、1,700 人弱から 1,400 人程度まで緩やかに減少し、平成 21 年以降 1,400 人程度で推移しています。平成 20 年以降の転入数と転出数を比較すると、年平均 **1,033 人** の転入と年平均 **1,461 人** の転出があり、結果として年間 400 人程度の社会減になっています。

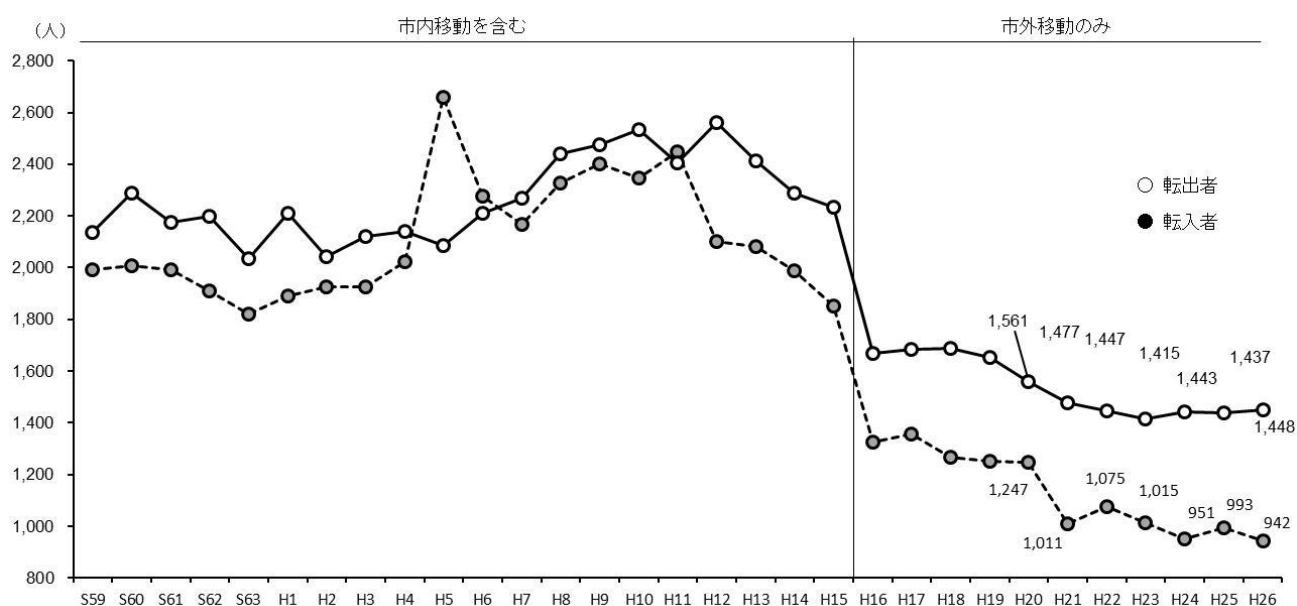


図 19. 志摩市の転入者と転出者の推移（資料出所：三重県月別人口調査）

平成 25 年から平成 27 年までの 3 年間の住民基本台帳の情報から、転入者がどこから来ているかをまとめたグラフが、図 20 です。

転入者の 40.4%が三重県内からの転入となっています。県外については愛知県、大阪府及び関西 3 府県（兵庫県、京都府、奈良県）からの転入者が 29.9%を占めています。なお、東京都からの転入者は 4.4%となっています。県内の転入者については、伊勢市、鳥羽市及び南伊勢町からの転入が 42.2%、津市及び松阪市からの転入が 25.1%となっています。

県内からの転入が多く、県外からの転入も比較的近隣の府県からの転入が多くなっています。また、県内からの転入についても比較的近隣の市町からの転入が多くなっています。

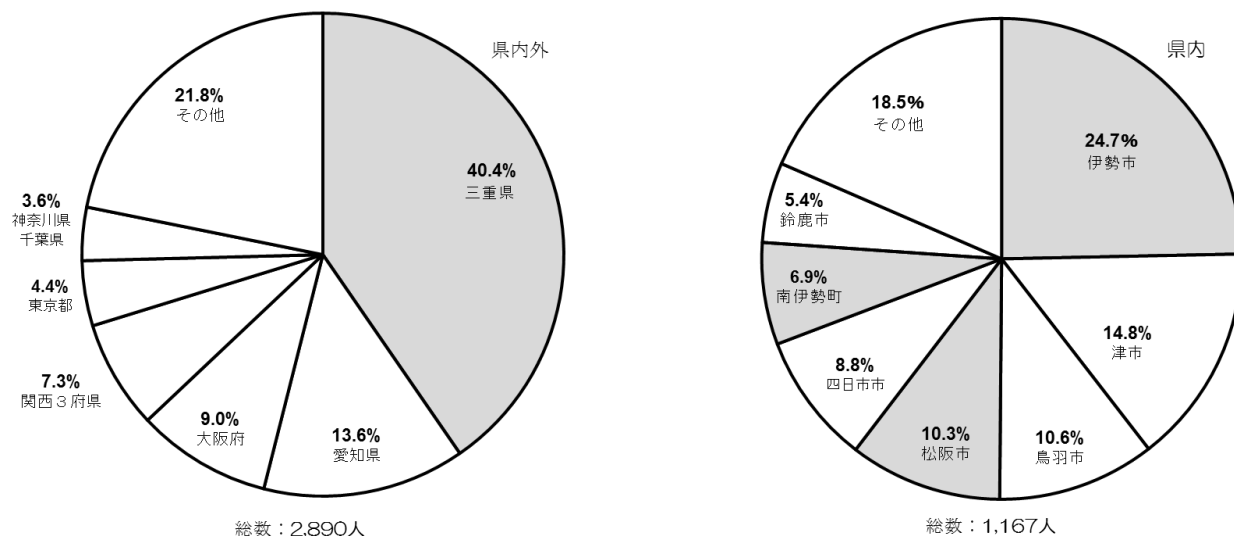


図 20. 平成 25 年から平成 27 年に志摩市へ転入してきた人の前住所

(資料出所：志摩市 住民基本台帳)

平成 28 年の転入者が志摩市に転入する前の住所をまとめたグラフが、**図 21** です。

県内からの転入者が 40%程度と依然として高い割合を占めていますが、平成 25 年から平成 27 年の割合と比較すると減少しています。県外からの転入については、愛知県及び関西 3 府県で若干の減少がみられる一方、大阪府、東京都等が微増となっています。

県内からの来訪元についても県内外と同様に平成 25 年から平成 27 年の平均と大きな変動は見られません。

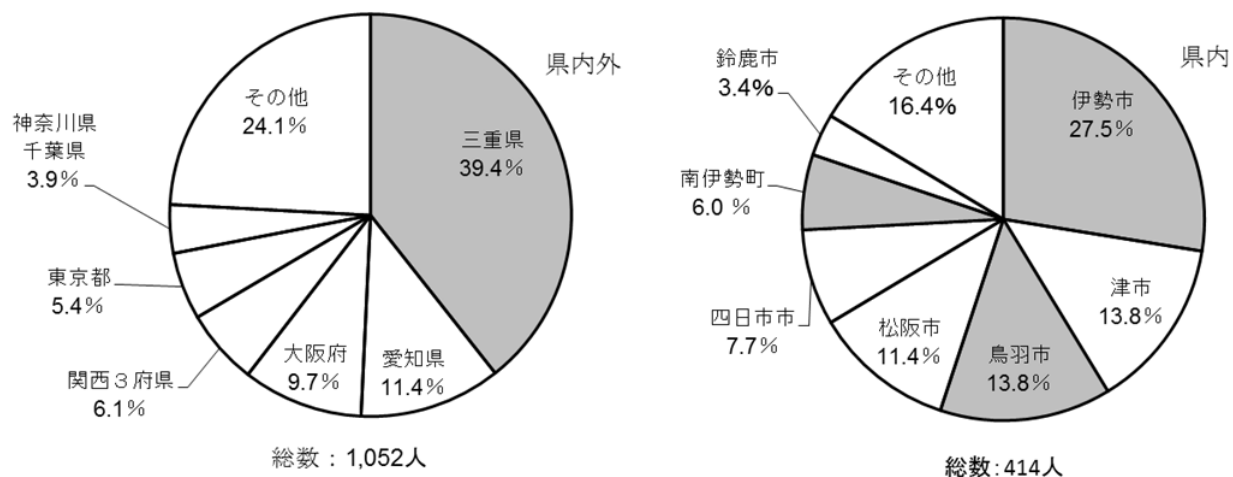


図 21. 平成 28 年に志摩市へ転入してきた人の前住所

(資料出所：志摩市 住民基本台帳)

転入者と同様に、平成 25 年から平成 27 年までの 3 年間の住民基本台帳の情報から、転出者がどこに行っているかをまとめたグラフが、図 22 です。

転出者の 47.2%が三重県内への転出となっています。県外については愛知県、大阪府及び関西 3 府県（兵庫県、京都府、奈良県）への転出者が 27.6%を占めています。東京都への転出は 4.9%となっています。県内への転出者については、伊勢市及び鳥羽市への転出が 45.6%、津市及び松阪市への転出が 26.1%となっています。

県内への転出が多く、県外への転出も比較的近隣の府県への転出が多くなっており、転入者と同じ傾向が見られます。また、県内への転出についても比較的近隣の市町への転出が多くなっており、こちらも転入者と同じ傾向が見られます。

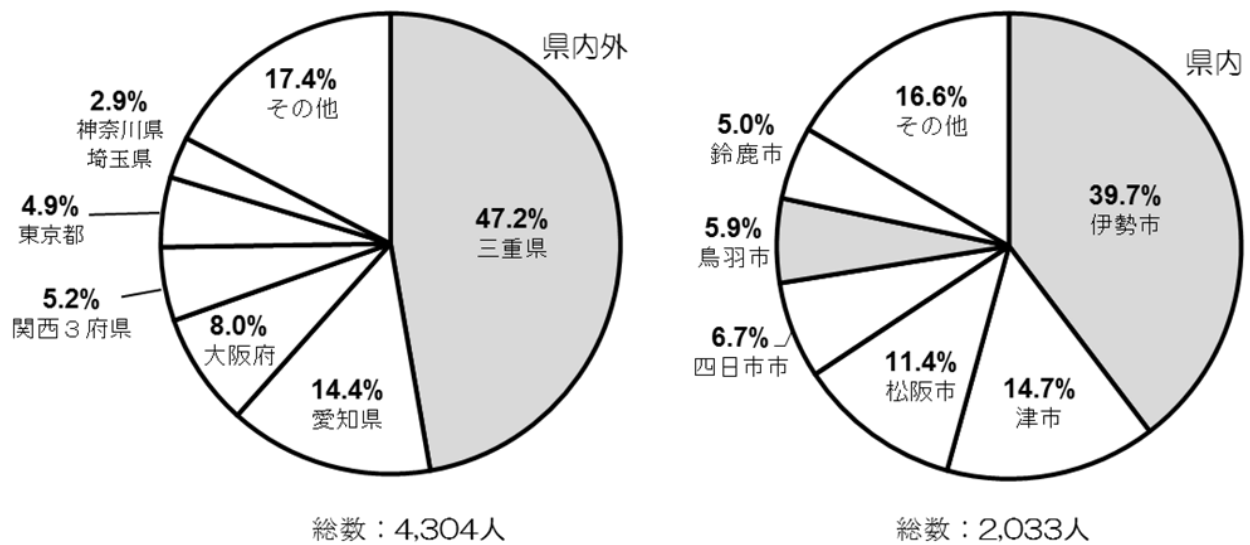


図 22. 平成 25 年から平成 27 年に志摩市から転出した人の行き先

(資料出所：志摩市 住民基本台帳)

平成 28 年に志摩市から転出した人が、どこへ行ったかをまとめたグラフが、図 23 です。転出先として最も多かったのが、三重県内への転出で 47.0%となっており平成 25 年から平成 27 年の平均とほぼ同じ割合となっています。次いで愛知県、大阪府となっています。東京都への転出は 3.8%と過去 3 年間の平均より微減しています。

三重県内への転出先は、平成 25 年から平成 27 年の転出先割合と順位の変動はなく、また、割合に多少の増減はありますがこちらも大きな変動はありません。

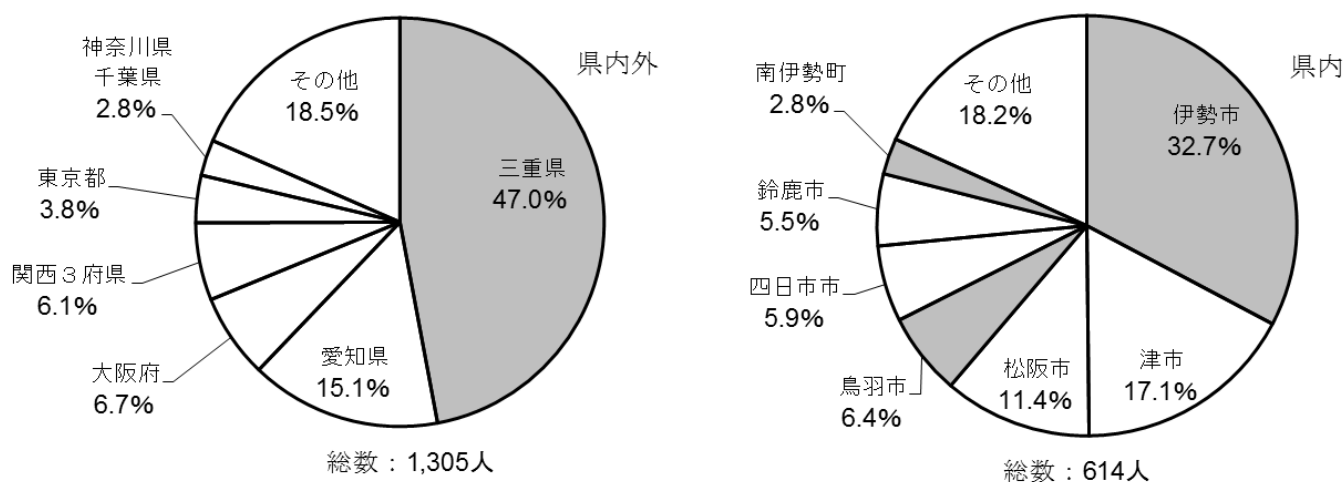


図 23. 平成 28 年に志摩市から転出した人の行き先
(資料出所：志摩市 住民基本台帳)

志摩市の社会増減の半数近くが県内の移動で占められており、それも近隣市町間の人の移動が多いことがわかります。また、県域をまたがる移動についても、愛知県や大阪府など比較的近隣の府県との間の移動が占めていることがわかります。県内の転出先となっている市町においても社会減が発生していることから、転出者が転出先からさらに転出していることが考えられますが、志摩市からの転出者はあまり離れたところには出て行っていないうえ、出て行った先から戻ってきてくれている可能性が示唆されます。

志摩市の社会増減の状況を示すために年齢層別に転入数と転出数をまとめたグラフが、**図 24** です。各年齢層の転入数と転出数は、平成 25 年から平成 27 年の 3 年間の住民基本台帳の情報から算出した平均値となっています。

転入数については、20～39 歳が最も多くなっており、転入数全体の 51.3% を占めています。次いで 0～14 歳及び 40～49 歳の転入数が多く、それぞれ転入数全の 11.5% 及び 11.4% を占めています。

一方、転出数についても、20～39 歳が最も多くなっており、転出数全体の 55.6% を占めています。次いで、15～19 歳、40～49 歳及び 0～14 歳の順で転出数が多くなっており、それぞれ転出数全体の 9.8%、9.5% 及び 8.8% を占めます。

転入と転出の差が大きく、転出超過が顕著な年齢層は、15～19 歳（-95 人）と 20～29 歳（-254 人）となっています。他の年齢層については、転出超過とはなっているものの転入数と転出数の差が三ケタになるような大きな差はありません。また、60～69 歳では転入超過となっています。

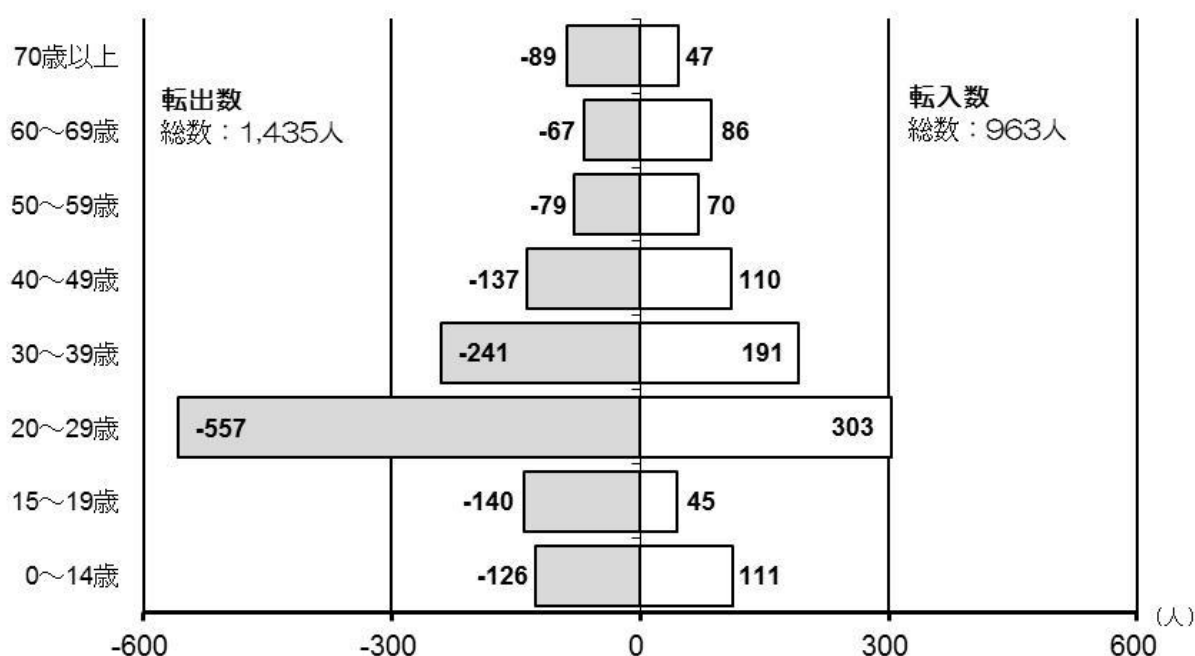


図 24. 年齢層別の転出数と転入数（平成 25 年から平成 27 年の平均値）

（資料出所：志摩市 住民基本台帳）

以上のことから、志摩市の人口減少をもたらしている社会減は、進学及び就職にともなう多くの若者が転出することが大きな要因になっていると示唆されます。しかし、20～39 歳の転入数も最も多くなっており、若者の転出数は多いものの、志摩市に転入してくる若者も少なくないと言えます。さらに、60～69 歳では転入超過になっており、退職等による第二の人生を志摩市で過ごそうとする人が転入してきているものと考えられます。

平成 28 年の年代別の転入者数と転出者数をまとめたグラフが、**図 25** です。

平成 25 年から平成 27 年までの 3 年間の平均値が 473 人の転出超過の状況であったものが、平成 28 年は 253 人の転出超過となっています。

社会減の最も大きな年代である 20～29 歳の状況をみると、転入者数は大きな違いは見られません。一方、転出者数は、過去 3 年平均が 557 人に対し平成 28 年は 496 人となっており、転出超過の縮減の最も大きな要因となっています。また、これまで転入超過の年代が 60～69 歳だけであったものが、40～49 歳が 15 人、50～59 歳が 19 人、60～69 歳が 18 人の転入超過となっています。

依然として、志摩市の人口減少の要因となっている社会減は、進学及び就職に伴い多くの若者が転出しているためといえます。しかし、平成 28 年については、その年代の転入を維持しつつ、転出の減少が見られ、また、40～69 歳の年代で転入超過となっています。

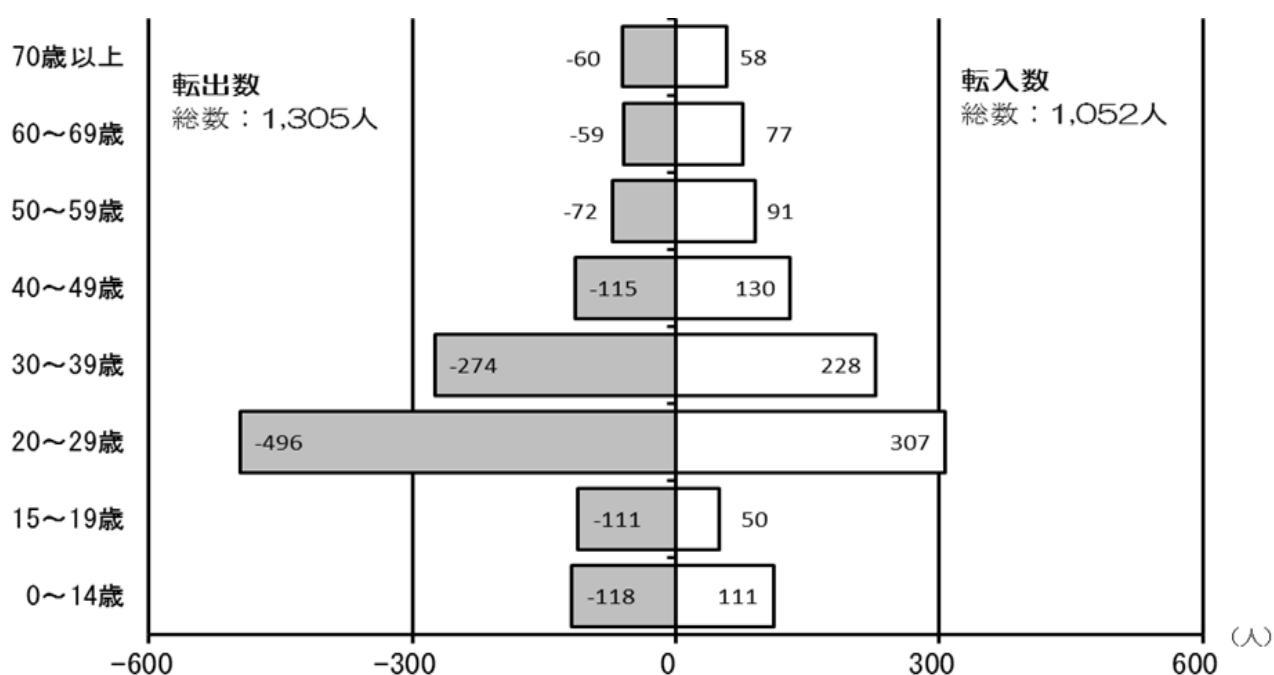


図 25. 平成 28 年の年齢層別の転出者数と転入者数

（資料出所：志摩市 住民基本台帳）

(3) まとめ

志摩市の総人口は平成 12 年頃から顕著に減少しており、その原因は生産年齢層、とくに 20 代及び 30 代の人口が平成 7 年から減少していることにあると考えられます。また、20 代及び 30 代の人口減少は、出産適齢期の女性の人口減少を招いており、志摩市は三重県内でも出産適齢期の女性の人口が少ない地域となっています。

旧町別に見ると、阿児町では人口減少が緩やかなのに対して、浜島町、大王町及び志摩町で急速に人口減少が進んでおり、これが総人口の減少を牽引していると推察されます。ただし、平成 12 年以降の人口を市内 42 地区の地区単位で見ると、必ずしもすべての地区で人口が減少しているわけではなく、人口を維持または人口が微増している地区もあります。鵜方や神明では、市内の他地区から人が集まっているものと考えられます。

平成 12 年に超高齢社会となった後も、志摩市の高齢化率は増加を続け、平成 26 年には 35% を超えています。旧町単位で急速に人口減少が進んでいる地区は、志摩市全体に比べて早く高齢化が進行しています。ただし、42 地区別に見ると、人口減少が比較的緩やかな地域であっても高齢化が進行している地区もあります。

人口を決定する志摩市の自然増減と社会増減については、近年ともに年間 400 人以上の減少となっており、合計で年間 880 人程度の人口が減少しています。自然減の原因は、死亡数の増加と出生数の減少ですが、特に出生数の減少が大きく影響しています。この出生数の減少は、志摩市の合計特殊出生率が全国的に極端に低いわけではないため、出産適齢期の女性の人口減少によるものと考えられます。また、未婚率の上昇や晩婚化の影響も考えられます。

一方、社会減については、15～39 歳の若者の転出数が大きな割合を占めており、進学や就職にともなう転出が大きく影響しているものと考えられます。ただし転出者の行き先と転入者の来訪元が県内や愛知県、大阪府など比較的近くで、同じ地域となっていることから、出て行った先から人が戻って来ている可能性があります。また、転入者に占める 20～39 歳の割合が高いことから、若者の転入を増やせる可能性もあります。

2. 現在の地域経済について

(1) 志摩市の産業について

1-1. 志摩市の産業別従業者数

志摩市の労働者人口に占める産業別従業者数の割合の変遷を示したグラフが、**図 26**です。

昭和 40 年には労働者人口の 40%弱を漁業者が占めていましたが、その後の 10 年間で漁業者の割合は急速に減少し、昭和 50 年にはサービス業に従事する人の割合が漁業者の割合を上回ります。その後も、漁業者の減少とサービス業従事者の増加は続き、近年はサービス業に従事する人が労働者人口の 40%以上を占めています。一方、漁業者の割合は 7%程度まで減少しています。農林業者も、漁業者と同様に減少を続け、昭和 40 年には労働者人口に占める割合が 20%以上ありましたが、近年は 2%の水準まで減少しています。卸売業・小売業に従事する人の割合は、昭和 40 年の 10%程度から平成 12 年の 19%程度まで増加しましたが、平成 12 年以降は減少しています。また、製造業に従事する人の割合も、平成 2 年をピークに減少しています。建設業に従事する人の割合については、概ね 10%程度で推移しています。

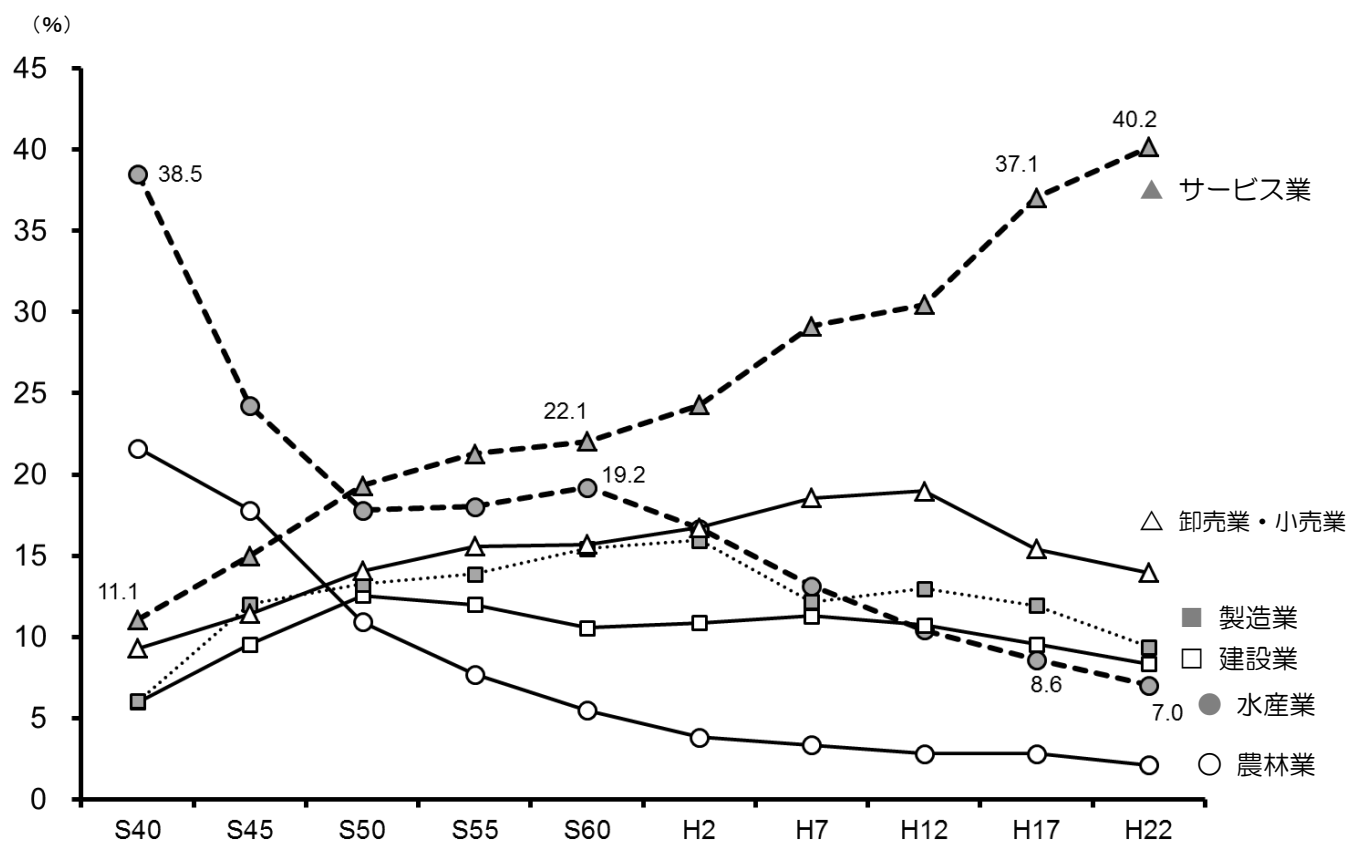


図 26. 労働人口に占める産業別の従事者数の割合の変遷（資料出所：国勢調査）

産業別従事者数の推移をまとめた表が、表 6 です。

労働者人口は平成 7 年をピークに年々減少していますが、完全失業者については昭和 40 年以降、ほぼ一貫して増加しています。特に、バブル崩壊後の平成 7 年以降は、完全失業者の数が 4 ケタのまま推移しています。

	農業・林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	卸売・小売業	運輸・通信業	サービス業	その他の第3次産業	公務	完全失業者	労働者人口
S40	6,960	12,392	14	1,929	1,943	2,992	1,320	3,559	294	438	317	32,179
S45	5,418	7,370	6	2,907	3,663	3,477	1,575	4,566	411	479	566	30,438
S50	3,285	5,343	9	3,769	3,983	4,228	1,733	5,795	502	643	685	30,020
S55	2,500	5,862	19	3,897	4,510	5,065	1,746	6,920	526	671	774	32,498
S60	1,880	6,590	8	3,628	5,300	5,383	1,722	7,566	488	648	1,078	34,309
H2	1,289	5,610	14	3,664	5,371	5,630	1,681	8,176	606	666	904	33,657
H7	1,169	4,595	19	3,953	4,258	6,497	1,681	10,192	560	701	1,324	34,983
H12	909	3,366	13	3,470	4,190	6,131	1,574	9,836	625	731	1,426	32,298
H17	847	2,579	10	2,861	3,576	4,618	1,277	11,098	576	704	1,718	29,952
H22	575	1,914	10	2,272	2,556	3,802	1,152	10,944	600	652	1,867	27,241

表 6. 産業別の従事者数の変遷（資料出所：国勢調査）

※ 労働者人口の人数には、分類不能の産業に従事する人数も含むものとなっているため、各産業別従事者数及び完全失業者の合計は、労働者人口の人数とは一致しません。

1－2. 志摩市の産業生産（経済活動別市町内総生産）

志摩市の産業生産の推移を示したグラフが、図 27 です。本市の産業生産は、若干の増減はしながらも、平成 13 年から平成 19 年にかけて減少し、さらに平成 19 年から平成 20 年の 1 年で大きく減少しています。一方で、平成 21 年以降はわずかながら増加傾向にあります。

平成 13 年から平成 21 年までは、バブル崩壊後の経済期である「いざなみ景気」と呼ばれる期間にあたり、非正規雇用、個人や地域間の格差拡大及びワーキングプアといった問題が、社会問題として惹起した時期です。特に平成 19 年から平成 21 年にかけては、アメリカのサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機及び原油価格や原材料の高騰に伴う企業の業績悪化が起こった「リーマンショック」と呼ばれる経済危機が発生した時期であり、日本では、同時期に建築基準法の改正に伴う不況（建基法不況）が発生しています。

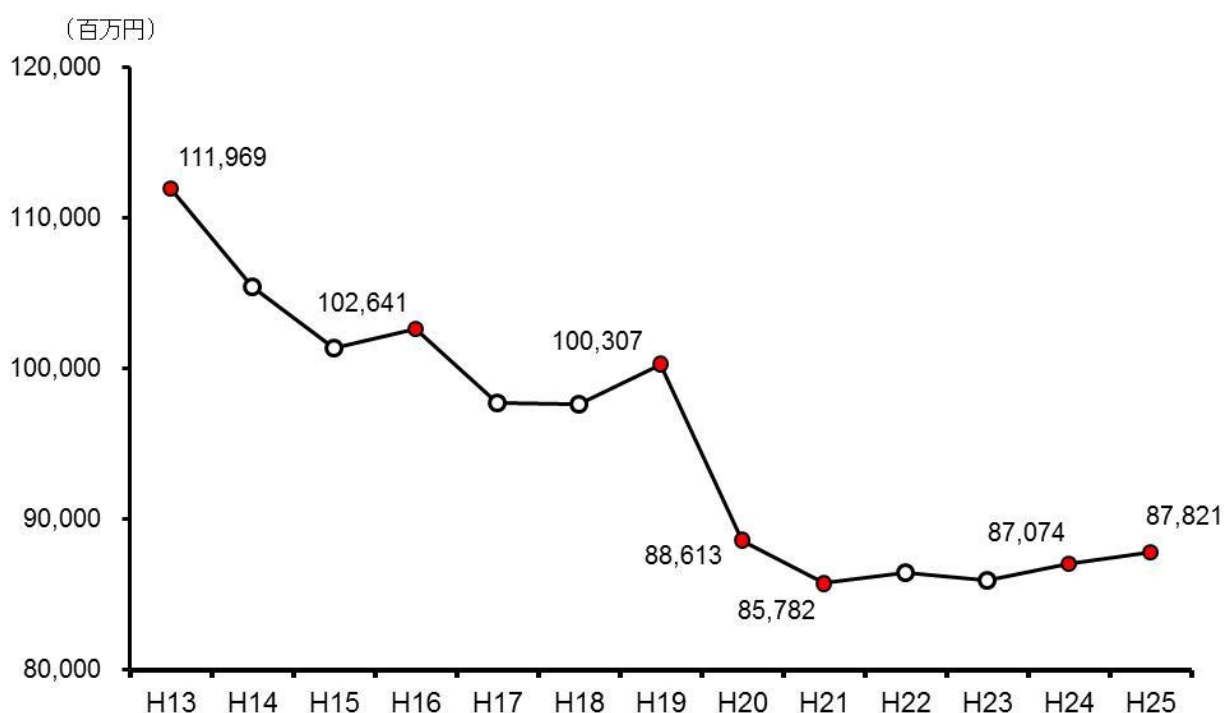


図 27. 志摩市の産業生産の推移

（資料出所：県民経済計算 経済活動別市町内総生産 三重県）

各産業の産業生産額の推移をまとめた表が、表 7 です。

本市における産業生産額の推移を見ると、平成 13 年から平成 19 年にかけて各産業における産業生産額は徐々に減少しています。また、特に平成 19 年から平成 20 年にかけては、建設業、サービス業、金融・保険業、製造業及び不動産業の順で産業生産額が急減しており、建基法不況や全国的な企業業績の悪化の影響がみられます。このように、平成 13 年と平成 25 年の 2 つの時期の産業生産額を比較すると、不動産業以外の産業生産額は減少しています。

しかし、平成 21 年から平成 25 年の産業生産額の推移をみると、農業、水産業、建設業、卸売業・小売業、情報通信業及びサービス業においては産業生産額が増加しています。

生産額 (百万円)	産 業 総生産	農林水産業				製造業	建設業	電気・ガス 水道業	卸売・ 小売業	金融・ 保険業	不動産業	運輸業	情報 通信業	サービス業
		農 業	林 業	水産業										
平成13年	111,969	7,722	1,531	80	6,111	9,072	17,303	7,568	13,769	6,531	5,374	3,757	5,004	35,869
平成14年	105,416	7,436	1,668	65	5,703	9,748	12,249	6,721	13,779	7,041	6,462	3,620	3,933	34,427
平成15年	101,372	7,653	1,703	78	5,872	7,016	11,049	6,671	13,866	6,976	7,631	3,483	3,403	33,624
平成16年	102,641	6,943	1,414	74	5,455	9,227	11,475	6,451	13,083	6,959	8,900	3,566	2,996	33,041
平成17年	97,720	6,501	1,300	74	5,127	9,952	9,104	5,795	12,216	7,212	10,146	3,464	2,788	30,542
平成18年	97,649	6,206	1,275	77	4,854	8,278	10,646	5,303	11,503	7,070	11,905	3,430	2,621	30,687
平成19年	100,307	6,552	1,177	64	5,311	9,373	12,991	5,050	11,982	6,949	10,028	3,788	2,721	30,873
平成20年	88,613	5,737	1,145	69	4,523	7,613	8,897	4,184	12,032	5,428	8,821	3,817	2,735	29,349
平成21年	85,782	5,258	997	56	4,205	6,037	8,602	4,824	12,378	5,267	7,978	3,513	2,806	29,119
平成22年	86,458	5,583	980	54	4,549	6,169	8,350	4,528	12,563	5,224	8,336	3,464	2,938	29,303
平成23年	85,947	5,697	1,027	57	4,613	6,442	7,471	3,915	12,736	4,953	8,593	3,343	3,115	29,682
平成24年	87,074	5,712	1,075	49	4,588	4,431	10,004	4,135	12,768	4,621	8,021	3,323	3,196	30,863
平成25年	87,821	5,437	1,051	52	4,334	3,701	9,942	3,876	13,571	4,620	7,981	3,179	3,362	32,152

表 7. 志摩市の産業生産額の推移

(資料出所：県民経済生産 経済活動別市町内総生産 三重県)

※ 経済活動別市町内総生産は、内概念（属地概念）に基づく経済計算方法で把握されています。

内概念は、行政区域内で生み出された付加価値額などをその生産に携わった人の居住地にかかわらずに把握する方法です。つまり、表中の産業生産額の全てが志摩市に事業所を有する事業者による生産によるものとは限らないということです。

産業総生産額に占める各産業生産の割合の推移を示したグラフが、図 28 です。

サービス業が、産業総生産額の 35%程度を占める産業となっています。その他の産業については、卸売業・小売業が 15%弱、建設業が 11%程度、不動産業が 9%程度、製造業及び水産業がそれぞれ 5%程度を占めており、サービス業を含む 6つの産業で産業総生産額の 80%程度が占められています。また、これらの産業生産が産業総生産額に占める割合については、平成 13 年以降ほぼ同じ水準で推移しています。ただし、平成 13 年に産業総生産額の 5%程度を占めていた不動産業は、平成 18 年に 10%を超えてから近年は 10%弱を占めるようになっています。

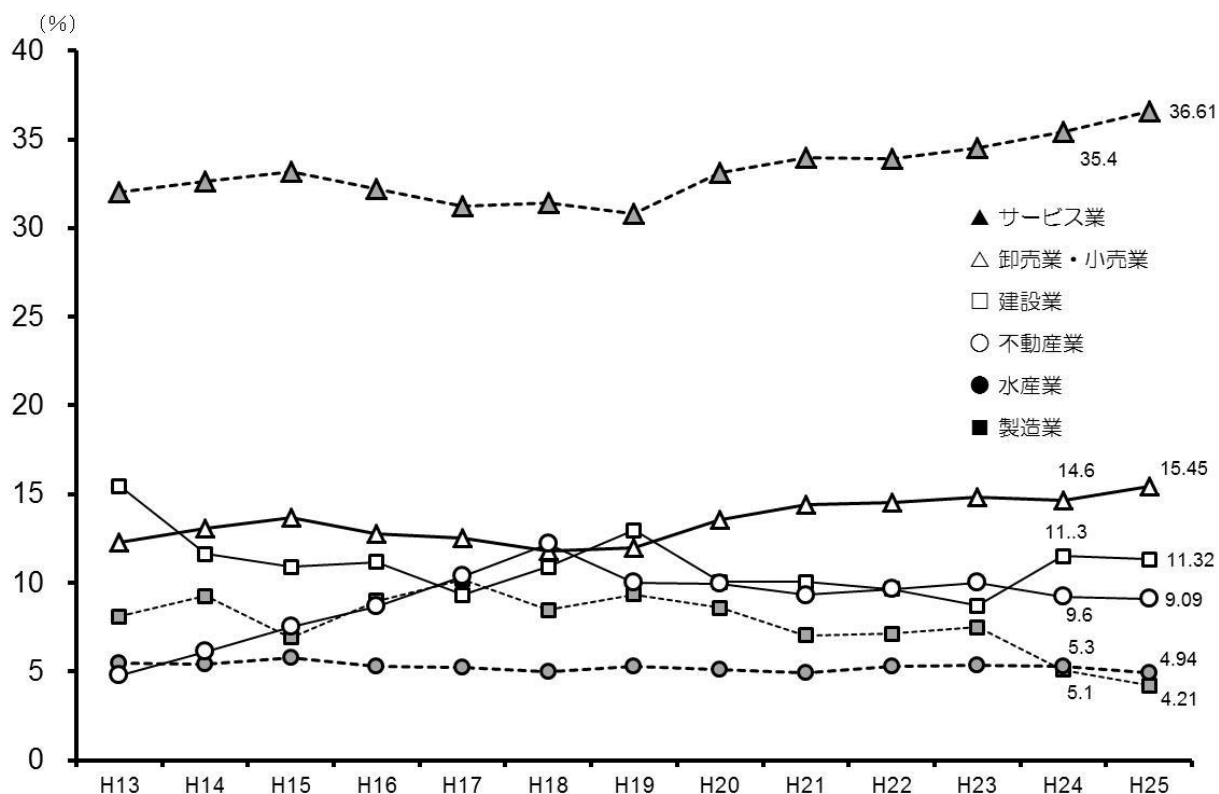


図 28. 志摩市の産業生産に占める産業ごとの産業生産の割合

(資料出所：県民経済生産 経済活動別市町内総生産 三重県)

1－3. 志摩市の産業構造

志摩市の産業構造の特徴を示す産業・雇用創造チャートが、図 29 です。産業・雇用創造チャートは、地域の産業を雇用の観点から2つの軸で整理したものです。

これによると本市の雇用を担う産業の上位5位は、宿泊業、保険・福祉・介護事業、娯楽業、飲食店及び食料品小売業となっており、図 26 で示されるサービス業に従事する人が多いという状況を裏付けるものとなっています。一方、地域に特徴的な産業については、水産養殖業、漁業、宿泊業、水運業及び娯楽業となっています。昭和40年から漁業者の数は大きく減少しているものの地域の自然資源を生かした産業として今でも地域に特徴的な産業であることがわかります。そして、志摩市の雇用を担いつつ地域に特徴的な産業は、宿泊業と娯楽業の2つとなっています。これは、志摩市の代表的な産業が観光関連産業であるためだと考えられます。

なお、本市の娯楽業は、公園・遊園地、遊戯場及びスポーツ施設提供業であり、具体的には志摩スペイン村、パチンコ店及びゴルフ場が娯楽業の雇用を担っています。

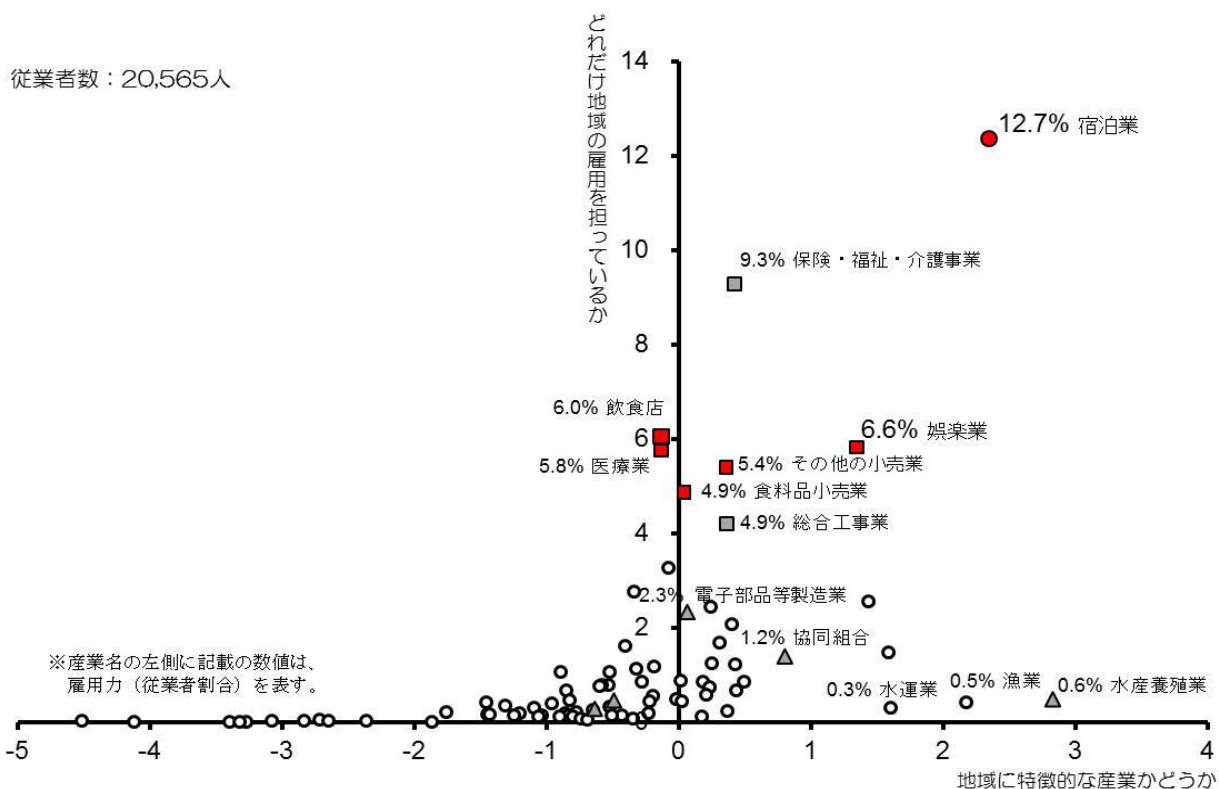


図 29. 志摩市の産業・雇用創造チャート（平成26年経済センサス）

（資料出所：総務省統計局 産業・雇用創造チャート）

※ 縦軸…地域内の雇業者数全体に占める個々の産業の雇業者数の割合。

どれだけ地域の雇用を担っているかを評価する軸です。

※ 横軸…地域内の雇業者数に占める個々の産業の雇業者数の割合が、全国的に多いか少ないかという指標。

地域に特徴的な産業かどうかを評価する軸。指標が1以上の産業が、地域に特徴的な産業とされます。

※ 注意…どの産業がどれだけ稼いでいるのかを示すものではありません。

産業・雇用創造チャート比較

産業・雇用創造チャートのうち、産業分野別に平成 21 年と平成 26 年の経年比較を示したものが図 30 から図 34 になります。

① 一次産業

一次産業については、農業は大きな変化は見られず、地域に特徴的な産業ということはありません。一方、漁業及び水産養殖業は、雇用力は低下していますが、地域に特徴的な産業となっています。

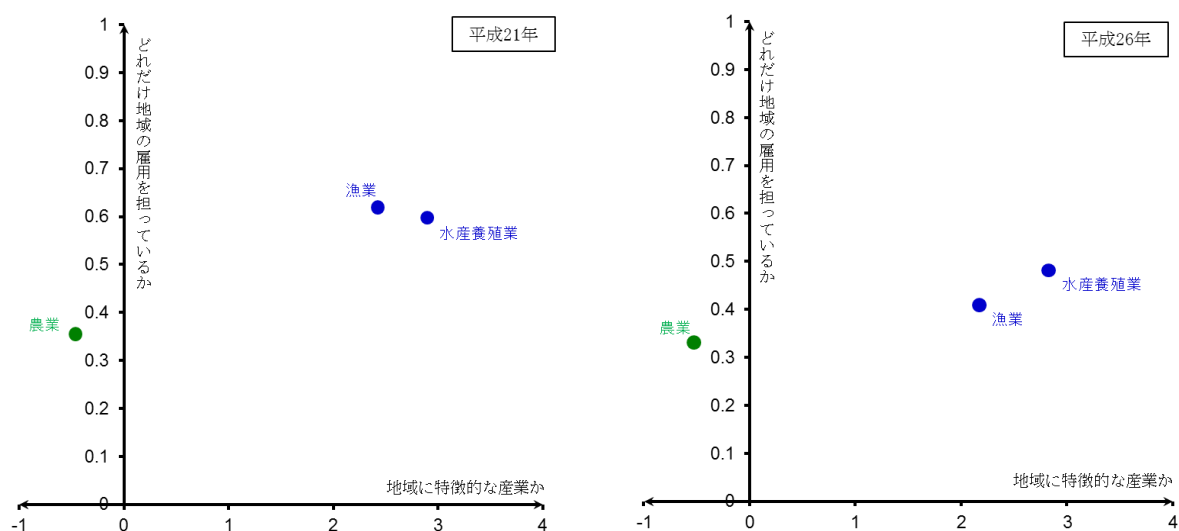


図 30. 志摩市の産業・雇用創造チャート（一次産業）

（資料出所：平成 21 年、平成 26 年経済センサス基礎調査）

② 建設業

建設業については、土木工事業、建築工事業等の総合工事業が、引き続き市内の雇用を支えている産業といえ、また地域に特徴的な産業となっています。一方、大工、鉄骨・鉄筋工、左官業等の職別工事業は雇用力が低下しており、これら産業の弱体化が懸念されます。

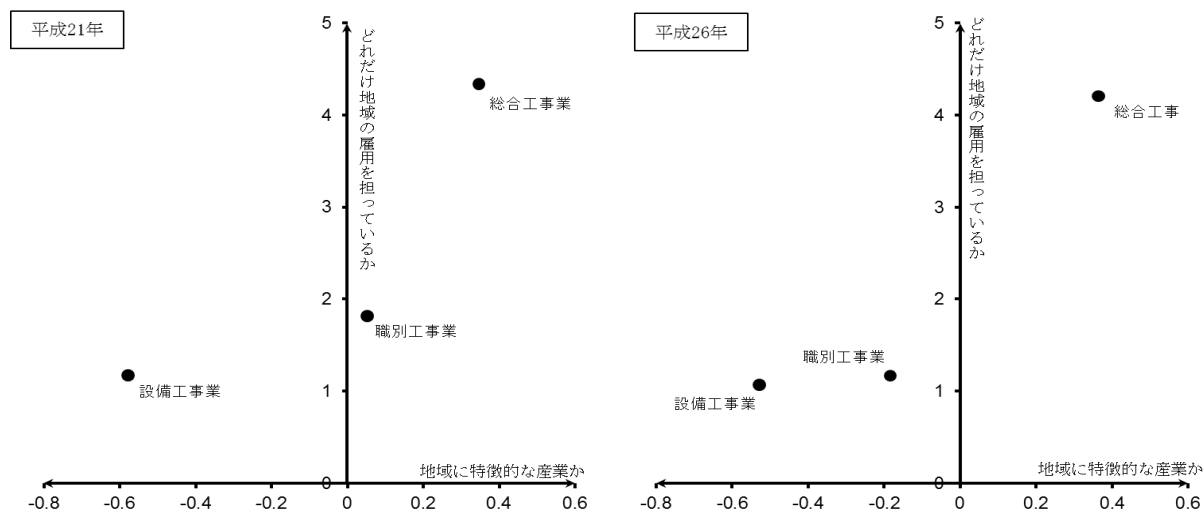


図 31. 志摩市の産業・雇用創造チャート（建設業）

（資料出所：平成 21 年、平成 26 年経済センサス基礎調査）

③ 卸売・小売業

卸売・小売業については、飲食料品小売業が、雇用力及び地域に特徴的な産業としての指数が低下していますが、総合スーパー等の各種商品小売業の雇用力が大きくなるとともに地域に特徴的な産業としての指数も伸びています。このことから、大きなスーパー等が買い物の中心となり地域の小売店が減少している状況を反映していると推測されます。一方、店舗を持たず通信販売等を行う無店舗小売業については、雇用力が大きくなるとともに、地域に特徴的な産業としての指数も増加しています。

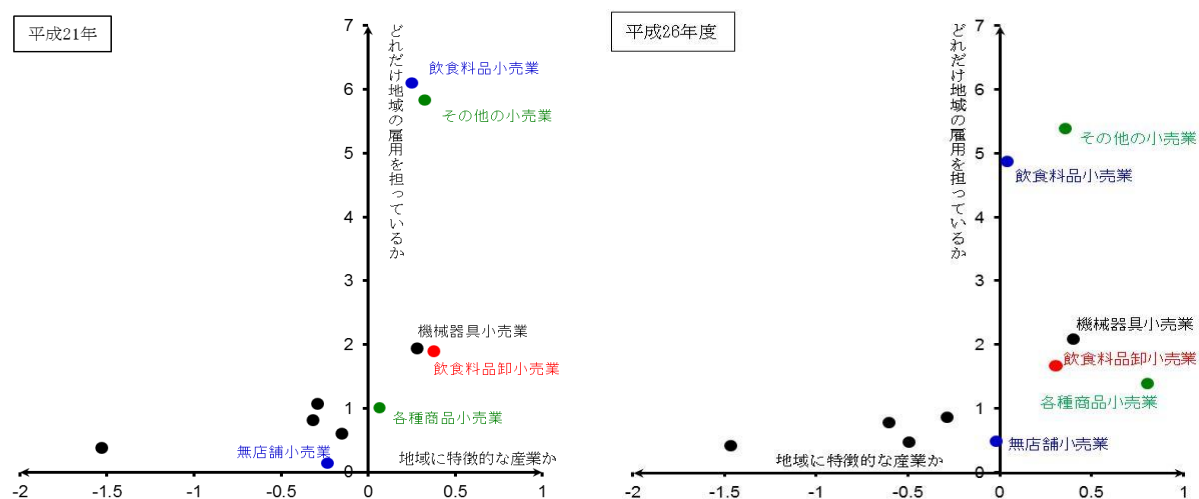


図 32. 志摩市の産業・雇用創造チャート（卸売・小売業）

（資料出所：平成 21 年、平成 26 年経済センサス基礎調査）

④ サービス業（宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業）

サービス業については、宿泊業及び遊園地やゴルフ場等の娯楽業の雇用力及び地域に特徴的な産業としての指数は高く、その傾向は強まっており、志摩市の基幹産業であると言えます。一方、飲食店については、大きな変化は見られませんが、比較的高い雇用力を維持しています。持ち帰り・配達飲食サービス業は、わずかながら雇用力及び地域に特徴的な産業としての指数が高まっています。

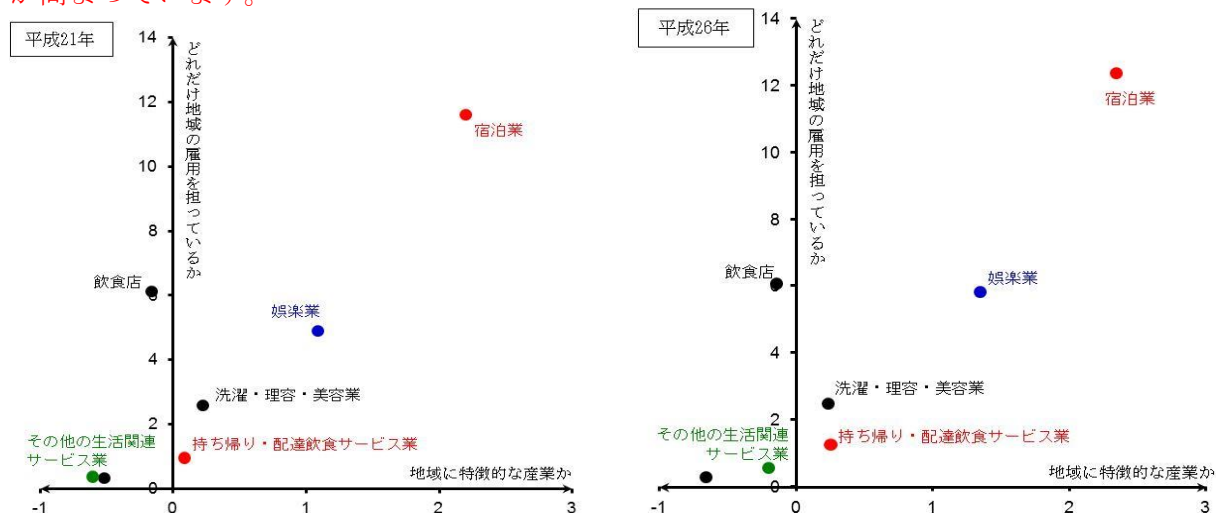


図 33. 志摩市の産業・雇用創造チャート（サービス業）

（資料出所：平成 21 年、平成 26 年経済センサス基礎調査）

⑤ 製造業

製造業については、電子部品等製造業が、市内における雇用力及び地域に特徴的な産業としての指数が比較的高くなっています。また、真珠製品製造等が含まれるその他の製造業、陶磁器製造業等の窯業製品製造業及び木材・木製品製造業については、わずかながら雇用力が高まり、地域に特徴的な産業としての指数が高まっています。

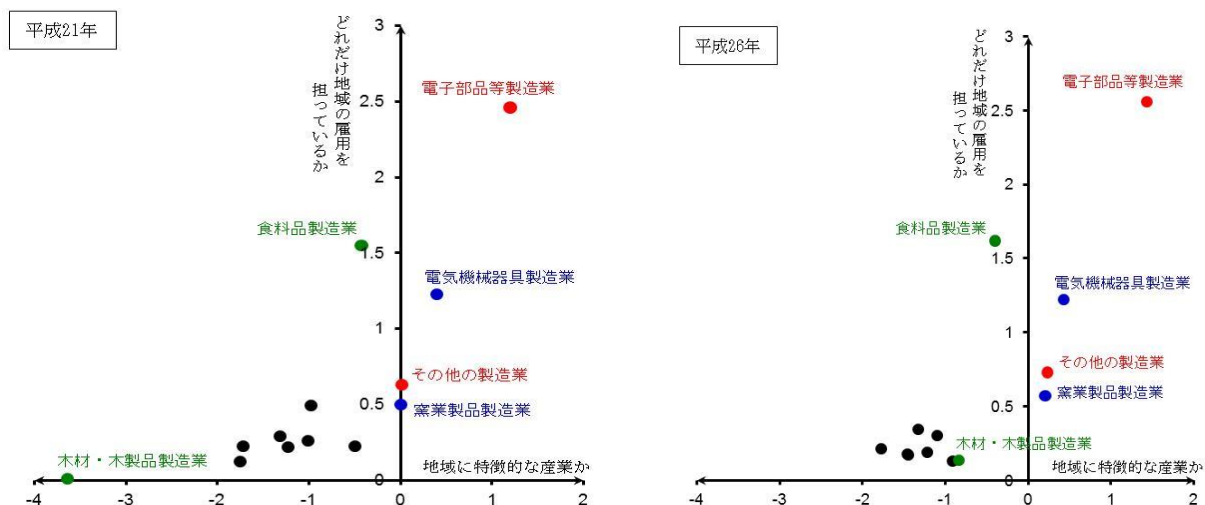


図 34. 志摩市の産業・雇用創造チャート（製造業）

（資料出所：平成 21 年、平成 26 年経済センサス基礎調査）

1－4. 志摩市の産業別の付加価値額

志摩市において、各産業の企業が地域の所得をどれだけ生み出しているかを示す値が、産業の付加価値額です。付加価値額は、生産活動によって新たに生み出された価値であり、「売上高－費用総額＋給与総額＋租税公課」で計算されます。

平成 24 年の志摩市における付加価値額の合計に占める各産業別の付加価値額の割合を示したグラフが、図 35 です。

総付加価値額の 21%程度を占める卸売業・小売業を筆頭に、生活関連サービス業・娯楽業、医療・福祉、製造業、建設業、宿泊業・飲食サービス業及びサービス業（他に分類されないもの）の 7つの産業で総付加価値額の 89%が占められています。つまり、これらの産業が地域の所得を維持するためには重要な産業であるといえます。

なお、サービス業（他に分類されないもの）に含まれる産業は、自動車整備業、廃棄物処理業、職業紹介・労働者派遣事業、その他の事業サービス業などが含まれます。

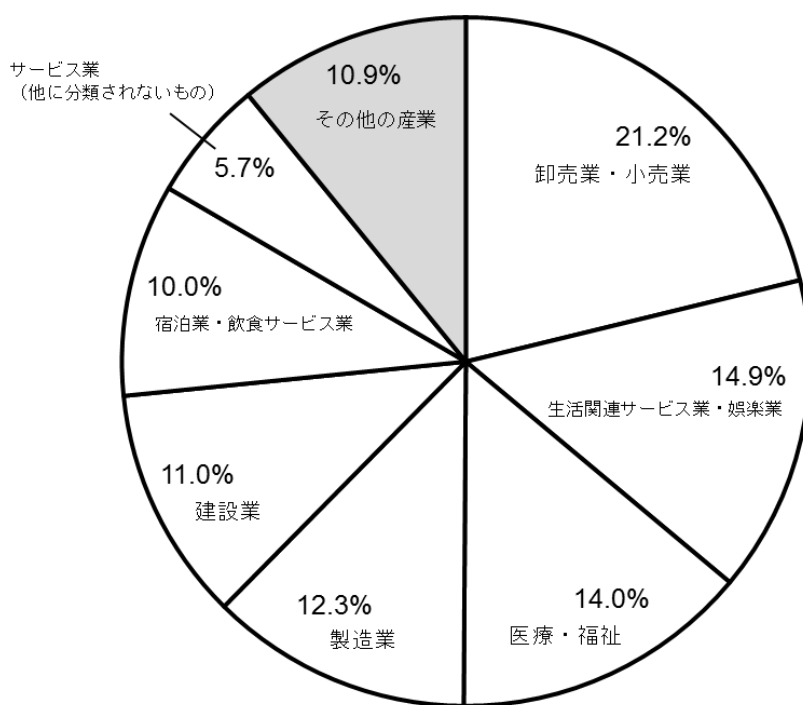


図 35. 志摩市の総付加価値額に占める各産業の付加価値額の割合

（資料出所：RESAS 全産業花火図/平成 24 年経済センサス）

※ RESAS による市内の付加価値額及び売上高は、市内に事業所を有する企業の付加価値額及び売上高を把握したものです。そのため、市町内総生産による産業生産額とは数値が異なります。

産業別の労働生産性、売上高、付加価値額などをまとめた表が、表 8 です。

売上高に占める付加価値額の割合が高い産業ほど、利益率が高く、労働生産性が高い産業となります。そこで、便宜的に売上高に占める付加価値額の割合を 30%未満、30%以上 50%未満、50%以上の 3 段階に分けて、本市の総付加価値額の大半を占める 7 つの産業についてみると、労働生産性が高いと評価される産業は、医療・福祉及びサービス業（他に分類されないもの）の 2 つのみであることがわかります。そして、宿泊業・飲食サービス業及び製造業の労働生産性は中程度となっており、生活関連サービス業・娯楽業、卸売業・小売業及び建設業の 3 産業については、労働生産性が低いと評価されます。

産業分類 大分類	企業数	従業者数	労働生産性 (%)	売上高 (百万円)	付加価値額 (百万円)	1人あたりの 付加価値額 (千円)
			B/A × 100	A	B	
医療・福祉	135	2,975	58.0	8,507	4,938	1660
サービス業（他に分類されないもの）	140	1,357	57.2	3,508	2,006	1478
教育・学習支援業	78	1,013	56.9	385	219	216
学術研究・専門技術サービス業	47	309	54.8	766	420	1359
金融業・保険業	6	331	40.0	50	20	60
不動産業・物品賃貸業	92	327	39.3	876	344	1052
漁業	19	238	37.9	2,736	1,038	4361
宿泊業・飲食サービス業	472	3,930	36.0	9,762	3,515	894
運輸業・郵便業	32	573	32.6	2,496	814	1421
農業・林業	5	84	31.1	470	146	1738
製造業	183	1,844	30.6	14,144	4,333	2350
複合サービス事業	4	342	27.5	2,748	756	2211
生活関連サービス業・娯楽業	258	2,008	23.3	22,446	5,237	2608
卸売業・小売業	629	3,902	22.6	33,049	7,463	1913
建設業	295	1,526	21.7	17,887	3,874	2539
情報通信業	5	66	17.3	565	98	1485
合計	2,400	20,825	29.3	120,395	35,221	(平均 1,709)

表 8. 志摩市の産業別の労働生産性、売上高、付加価値額等

(資料出所：RESAS 全産業花火図/平成 24 年経済センサス)

1-5. まとめ

志摩市の産業の中心であった一次産業は昭和 50 年までに急速に衰退し、昭和 50 年以降はサービス業が志摩市の雇用を担う産業に成長しました。サービス産業に従事する人の増加に同調して卸売業・小売業及び製造業に従事する人が増加した時期は見られるものの、基本的にはサービス産業に従事する人の割合が増加し、一次産業に従事する人の割合が減少して、他の産業に従事する人の割合は大きく変化することなく推移してきました。割合としてはそのような推移を示していますが、各産業に従事する人の数は減少しています。その原因は、人口減少で本市の労働者人口そのものが減少したことにあると考えられます。さらに、平成 13 年から平成 20 年までの産業生産の低下は、全国的な経済状況の悪化と同時に起こっているため、労働者人口は減少しながらも、市内の完全失業者数は増加するという状況が発生しています。つまり、高度経済成長期に地域の産業構造が変化し、バブル崩壊後の日本の経済状況の悪化にともなって産業生産は低迷して、近年は完全失業者数も増加しているのが現状と言えます。

とはいえ、本市の産業生産を支える産業は、平成 13 年以降一貫してサービス業となっています。また、卸売業・小売業、建設業、製造業及び農林水産業も本市の産業生産を下支える産業です。地域の雇用を担う産業も、サービス産業である宿泊業、保険・福祉・介護事業、娯楽業、飲食店及び食料品小売業といった産業となっています。一方、地域に特徴的な産業は、水産養殖業や漁業といった過去に地域を支えた地域の資源を生かした産業となっており、依然として水産養殖業や漁業は地域にとって重要な産業と言えます。そして、平成 21 年以降に注目すると、本市の産業生産と雇用を担うサービス産業や本市に特徴的な産業である水産業では、産業生産の若干の増加傾向が見受けられます。これらのことから、恵まれた観光資源と豊かな水産資源が本市の産業の基礎となっており、それらの資源を活用した産業の成長が、地域経済の成長にとっては重要であると考えられます。

今後は、地域の資源を生かした産業の産業生産額の増加傾向を維持し、さらにその生産額を増やしていくことが必要です。加えて、本市の産業構造が国内の経済状況の影響を大きく受ける構造にあると考えられるため、全国的な経済状況を注視しつつ、少しでもその影響が軽減されるような産業構造を構築することも望まれます。具体的には、域内における付加価値額を生み出している 7 つの産業分野の労働生産性を落とさずに売上高を伸ばすとともに、それらの産業のなかでも比較的労働生産性の低い 5 つの産業分野の付加価値額を増やすために、それぞれの産業で労働生産性を向上させるよう努めることが必要です。また、各産業における現在の域内調達率を高めるよう努めることで、生産・加工・販売の各段階で発生する付加価値をできるだけ域内にもたらしようにすることが必要だと考えられます。さらに、今後の社会情勢の変化やニーズを捉えた異業種間連携を促進し、新しいサービスの構築などを通じて、全国的な経済状況の影響を受けにくい産業構造を目指すことも必要です。

（２）志摩市の観光について

２－１．志摩市を訪れる観光客数

志摩市の雇用や産業生産を支える産業は、観光関連産業として成立しているものと考えられるため、地域経済を把握するうえで観光について特記します。

志摩市を訪れる観光客数は、平成 17 年より全国観光統計基準に合致する市内 19 の調査対象地点への入込客数として、日帰り客と宿泊客に分けて集計されています。平成 28 年の集計結果を示した表が、表 9 です。

これによると、年間 387 万人程度の観光客が本市を訪れていることになります。

なお、19 の調査地点は、年間の入込客数が 5 万人以上または特定時期（月間）の入込客数が 5 千人以上となる観光地点という基準に合致する地点やイベントが対象となっていることに加え、入込者数の総数は調査地点を訪れた人が重複されてカウントされた延べ数となっています。そのため、当該調査で得られる入込客数は、実態を強く反映しているものの志摩市を訪れる観光客の実数を把握するものではないことに留意する必要があります。

地区別	調査地点	日帰り	宿泊	入込客数
磯部町	磯部旅館街	31,687	422,935	2,069,511
	渡鹿野島	5,023	61,820	
	志摩スペイン村	1,208,000		
	道の駅「伊勢志摩」	249,484		
	伊雑宮	77,851		
	志摩市観光農園	8,363		
	志摩ロードパーティ	4,348		
阿児町	阿児旅館街	19,624	541,258	1,038,095
	英虞湾景観	153,974		
	志摩マリンランド	163,421		
	賢島エスパーニャクルーズ	159,818		
浜島町	浜島温泉街	31,317	326,860	412,596
	磯体験施設「海ほおずき」	19,419		
	伊勢えび祭	35,000		
大王町	ともやま公園	39,834	102,698	212,120
	大王埼灯台	48,338		
	年末海族市	21,250		
志摩町	志摩旅館街	11,598	62,510	141,174
	御座白浜海水浴場	67,066		
合計		2,355,415	1,518,081	3,873,496

表 9．平成 28 年の志摩市における観光入込客数（資料出所：志摩市）

平成 17 年からの全国観光統計基準に基づく志摩市への入込客数について、日帰り客と宿泊客に分けて、その数の推移を示したグラフが、**図 36** です。

志摩市への入込客は、平成 17 年から平成 22 年までは 400 万人以上を維持してきましたが、日帰り客が徐々に減少して平成 23 年に 400 万人を下回り、近年は 380 万人程度で推移しています。日帰り客数については、ほぼ一貫して減少傾向にありますが、宿泊客数については、**120～130 万人で推移した後、平成 25 年からは 140～150 万人で推移しています。**

平成 17 年に 33%だった入込客数に占める宿泊客数の割合は、**減少する傾向**にありましたが、平成 25 年に 38%に増加してからは**平成 28 年**も同水準を維持しています。

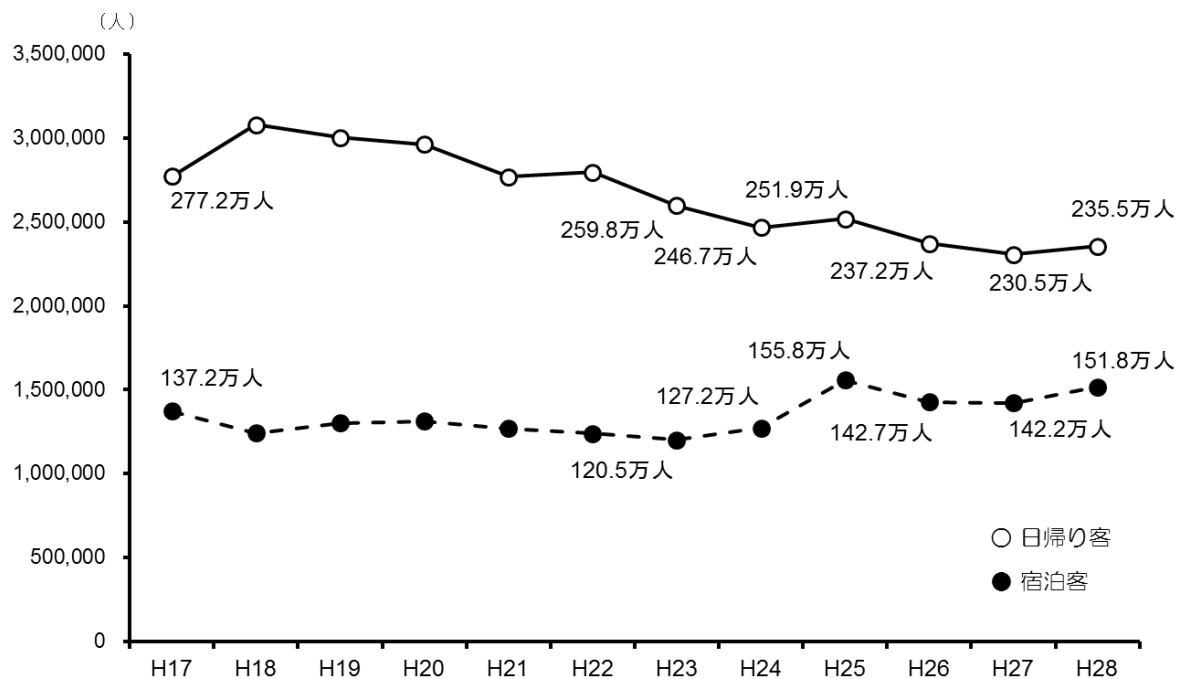


図 36. 志摩市を訪れる日帰り客と宿泊客の推移 (資料出所：志摩市)

2-2. 志摩市を訪れる観光客の来訪先

志摩市の日帰り客に占める各地区の日帰り客の割合を示した表が、表 10 です。

日帰り客のおよそ 70%が訪れている地区が、磯部町です。これは、志摩スペイン村を訪れる観光客によるものと考えられます。その他に比較的来訪者が多い地区は、日帰り客のおよそ 20%が訪れている阿児町です。これは、観光施設が集まっている賢島や志摩市内で最も利用者の多い鵜方駅があるためと考えられます。一方、浜島町、大王町及び志摩町は、比較的に日帰り客が少ない地区です。

(%)	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
磯部町	68.33	64.20	65.04	64.57	67.26	62.04	65.38	66.88	71.17	72.43	70.83	67.28
阿児町	9.86	15.24	15.42	15.48	15.12	15.41	15.34	15.64	16.24	15.05	17.22	21.09
大王町	4.43	3.70	4.71	5.73	4.78	6.59	6.86	5.06	5.10	5.36	4.80	4.65
浜島町	11.26	11.10	9.12	7.98	7.97	9.82	8.82	8.39	3.76	3.67	3.55	3.64
志摩町	6.12	5.76	5.71	6.25	4.88	6.15	3.61	4.02	3.73	3.48	3.60	3.34

表 10. 各地区の日帰り客が全日帰り客に占める割合（資料出所：志摩市）

志摩市の宿泊客に占める各地区の宿泊客の割合を示した表が、表 11 です。

宿泊客の約 35%は阿児町に、約 30%は磯部町に、約 20%は浜島町に宿泊しており、3地区で宿泊客全体の 89%が占められています。大王町及び志摩町については、日帰り客に加えて、宿泊客も少ない傾向にあると言えます。

(%)	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
阿児町	31.42	32.45	36.73	34.86	36.27	36.28	35.20	33.13	35.36	35.14	35.60	35.65
磯部町	31.08	31.00	29.25	30.51	29.42	32.74	30.86	30.73	30.28	29.76	29.58	31.93
浜島町	23.31	24.12	24.28	21.74	21.75	18.75	20.11	22.76	22.86	23.76	23.13	21.53
大王町	8.79	7.48	5.05	8.34	8.00	7.93	8.66	8.49	7.69	7.09	7.38	6.76
志摩町	5.40	4.95	4.68	4.56	4.56	4.31	5.17	4.89	3.80	4.25	4.30	4.12

表 11. 各地区の宿泊客が全宿泊客に占める割合（資料出所：志摩市）

2-3. 志摩市内の宿泊施設と収容人員

志摩市内の宿泊施設数と収容人員を各地区別に示した表が、表 12 です。

市内各地区における宿泊施設数は、阿児町で最も多く、次いで志摩町の順となっており、浜島町は最も少なくなっています。一方、市内各地の収容人員数については、阿児町で最も多く、次いで磯部町、大王町、浜島町及び志摩町の順となっています。このことから、志摩町は、宿泊施設は比較的多いものの規模の小さな旅館や民宿が多い地区であり、磯部町及び浜島町は、宿泊施設は少ないものの規模の大きな旅館やホテルがある地区であると言えます。

		志摩市					
			阿児町	志摩町	大王町	磯部町	浜島町
国際観光ホテル整備法 登録ホテル	施設数	8	3	-	1	3	1
	収容人員	2,612	593	-	352	1,561	106
国際観光ホテル整備法 登録旅館	施設数	11	5	-	1	2	3
	収容人員	2,929	1,632	-	350	330	617
日本旅館協会	施設数	5	3	1	-	1	-
	収容人員	349	187	80	-	82	-
普通旅館 (ビジネスホテル含む)	施設数	61	27	8	9	13	4
	収容人員	4,397	1,328	342	584	1,029	1,114
民宿	施設数	49	15	21	7	1	5
	収容人員	1,269	317	665	155	20	112
ユースホステル	施設数	1	-	-	-	1	-
	収容人員	80	-	-	-	80	-
保養所	施設数	11	9	-	-	-	2
	収容人員	245	184	-	-	-	61
ペンション	施設数	9	5	1	1	-	2
	収容人員	192	124	20	16	-	32
オートキャンプ場 キャンプ場・バンガロー	施設数	14	1	11	1	1	-
	収容人員	1,483	13	518	600	352	-
施設数の合計		169	68	42	20	22	17
		%	40.24	24.85	11.83	13.02	10.06
収容人員の合計		13,556	4,378	1,625	2,057	3,454	2,042
		%	32.30	11.99	15.17	25.48	15.06

表 12. 志摩市の各地区別の宿泊施設数と収容人員数（資料出所：志摩市）

表 11 と表 12 を比較すると、市内各地区の宿泊施設の稼働状況を概観できます。

浜島町では、宿泊施設及び収容人員が少ないにもかかわらず、多くの宿泊客が訪れていることがわかります。これは、比較的大きなホテルや旅館の稼働率が他地区に比べて高いためだと考えられます。一方で、大王町及び志摩町では、宿泊施設及び収容人員は少なくありませんが、宿泊客が少ない傾向にあります。これは、民宿や旅館を訪れる観光客が少ないことに加えて、キャンプ場などの利用者が収容人員の規模よりも少ないためだと考えられます。阿児町及び磯部町については、それぞれの地区の収容人員の割合と同程度の割合で宿泊客数が訪れていることがわかります。これは、本市の潜在的な宿泊客の収容力に見合った割合で、宿泊客が分散しているためだと考えられます。

2-4. 志摩市を訪れる観光客の来訪時期

平成 27 年の志摩市の観光客数の月別割合を、近隣の鳥羽市及び伊勢市と比較したグラフが、図 37 です。図中の括弧内の数字は、総入込客数です。

志摩市と鳥羽市の入込客数については、7月に増加をしまして8月に大きなピークを迎え、3月及び5月に小規模なピークがあり、10月から11月にかけても緩やかに増加するという傾向がみられます。ただし、志摩市では鳥羽市よりも夏場（特に8月）に極端なピークを迎えています。

一方、伊勢市では1月にピークを迎えた後は、主だったピークは見られず、比較的安定して推移していることが分かります。

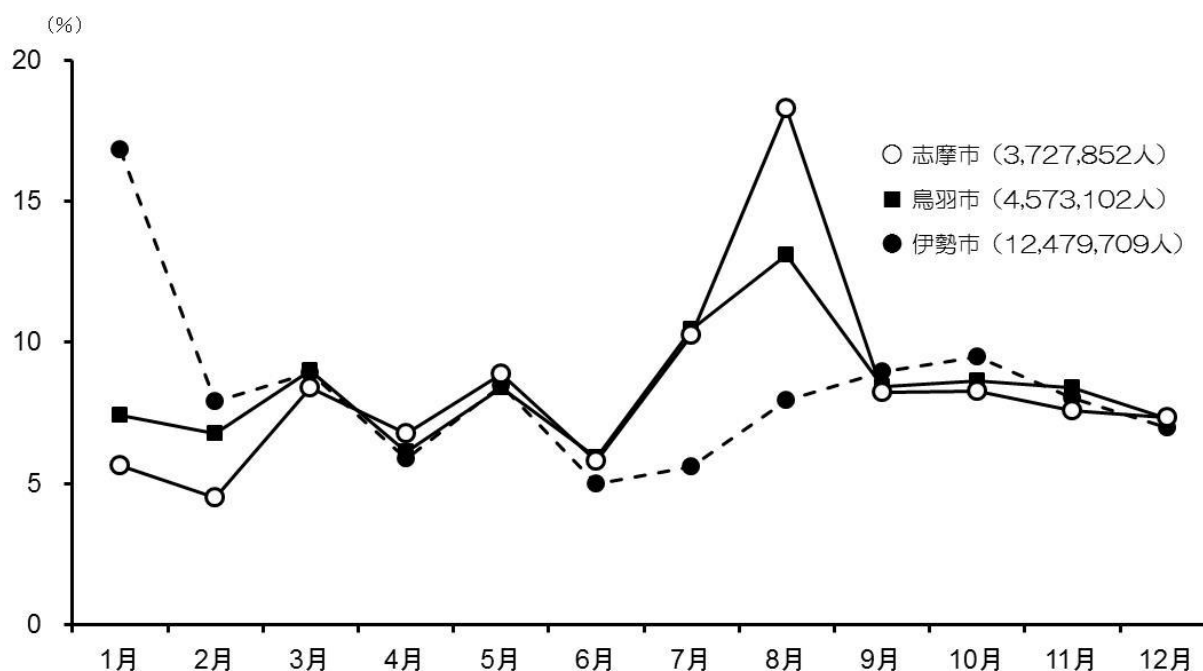


図 37. 平成 27 年の志摩市、鳥羽市及び伊勢市の観光客数の月別割合

(資料出所：平成 27 年 観光レクリエーション入込客数推定書 三重県)

2-5. 志摩市を訪れる観光客の来訪元

観光客がどこから来ているかの概況を把握するために、休日における市内の滞在人口に占める県民と県外の人を志摩市、鳥羽市及び伊勢市で比較した表が、表 13 です。

鳥羽市及び伊勢市に比べると、県民が休日の滞在人口に占める割合が高いのが志摩市の特徴といえます。

%	県民	県外の人
志摩市	92.21	7.79
鳥羽市	83.10	16.90
伊勢市	88.85	11.15

表 13. 平成 26 年の志摩市、鳥羽市及び伊勢市における休日の滞在人口に占める県内外者の割合

(資料出所：RESAS From-to 分析／株式会社 Agoop「流動人口データ」)

志摩市の休日の滞在人口の内訳を示した表が、表 14 です。

滞在人口に占める割合は、志摩市民が 70%以上と最も多くなっており、次いで近隣の市町の住民が多くなっています。また、県内その他の市町からの住民も 8 %以上を占めています。

	人数	%
志摩市	57,000	71.61
伊勢市	5,300	6.66
鳥羽市	2,400	3.02
南伊勢町	1,900	2.39
その他の県内市町	6,800	8.55
県外	6,200	7.79

表 14. 平成 26 年の志摩市における休日の滞在人口の内訳

(資料出所：RESAS From-to 分析／株式会社 Agoop「流動人口データ」)

RESAS From-to 分析による滞在人口における「滞在」の定義と「注意点」

※ 「滞在」…午前 4 時時点で滞在している自治体を出発地とし、2 時間以上特定の地域（場所）にとどまること。

※ 「注意点」…「滞在」の定義から、志摩市や鳥羽市に宿泊して翌日志摩市内を観光する観光客は、志摩市内の移動や鳥羽市からの移動としてカウントされるため、滞在人口に占める市民や県民の人数は過大評価されと考えられます。

志摩市の休日の滞在人口に占める県外の人々の来訪元を県別に割合で示したグラフが、**図 38**です。

志摩市の休日の県外からの滞在者に占める割合は、愛知県が 32.3%と最も多く、次いで大阪府を筆頭に広く関西圏が多くなっており、愛知県と関西圏で 80.7%が占められていることがわかります。

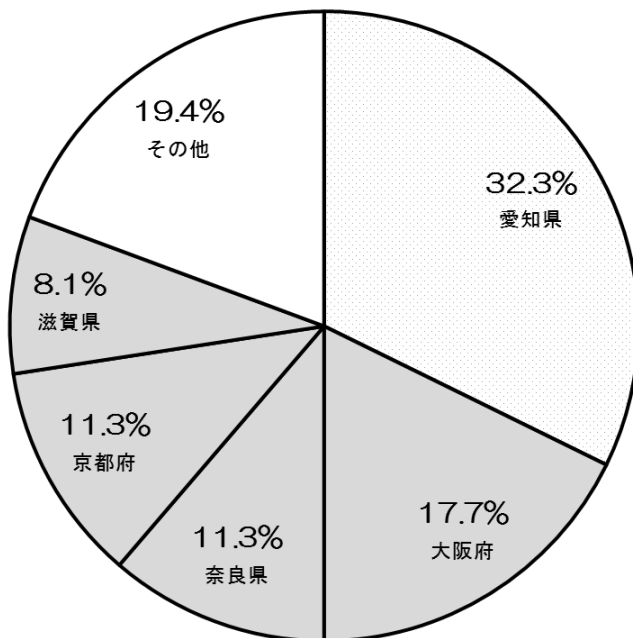


図 38. 平成 26 年の志摩市における休日の滞在人口に占める県外者の県別割合
(資料出所：RESAS From-to 分析／株式会社 Agoop「流動人口データ」)

2-6. 志摩市を訪れる観光客の平均消費額

志摩市を訪れる観光客の観光消費額を概観するために、伊勢志摩地域を訪れる観光客の平均利用額の推移を滞在種別に示した表が、表 15 です。また、宿泊客の宿泊費、飲食費及び土産代の推移、並びに、日帰り客の飲食費及び土産代の推移を示した表が、それぞれ表 16 及び表 17 です。

平成 21 年度以降の宿泊客及び日帰り客の利用額は、宿泊客で 30,000 円～35,000 円、日帰り客で 9,000 円～10,000 円で推移しています。

平成 21 年以降では、宿泊客が宿泊、飲食及びお土産に支払う料金は 27,000 円程度となっており、日帰り客が飲食及びお土産に支払う料金は 5,700 円程度となっていて、宿泊客と日帰り客では 20,000 円以上も利用額に差があります。

	(円)							
	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
宿泊客	44,978	33,030	30,648	35,646	33,019	35,831	32,394	34,280
日帰り客	12,587	9,254	8,719	9,010	10,025	10,022	8,740	8,508
未記入	20,891	13,880	3,843	11,800	0	0	0	0

表 15. 伊勢志摩地域を訪れる観光客の滞在種別平均利用額の推移

(資料出所：観光客実態調査報告書 三重県)

※ 「未記入」…日帰り客、宿泊客の別について記載がなかったデータ。

	(円)							
	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
宿泊費	18,475	13,844	11,739	14,543	16,505	15,958	16,538	16,310
飲食費	6,835	5,026	4,511	5,211	5,191	5,714	4,783	5,732
土産代	8,870	5,940	7,451	8,644	4,540	6,622	4,534	5,972
合計	34,180	24,810	23,701	28,398	26,236	28,294	25,855	28,014

表 16. 伊勢志摩地域を訪れる宿泊客の宿泊費、飲食費及び土産代の推移

(資料出所：観光客実態調査報告書 三重県)

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
飲食費	2,987	2,850	2,511	2,254	2,959	3,015	2,430	2,733
土産代	4,056	2,013	2,442	3,628	2,850	4,100	2,609	2,180
合計	7,043	4,863	4,953	5,882	5,809	7,115	5,039	4,913

表 17. 伊勢志摩地域を訪れる日帰り客の飲食費及び土産代の推移

(資料出所：観光客実態調査報告書 三重県)

2-7. 志摩市を訪れる外国人観光客

志摩市、鳥羽市及び伊勢市を訪れる外国人宿泊客の推移を示したグラフが、**図 39**です。
伊勢志摩地域においては、志摩市に宿泊する外国人が多く、またその増加幅も大きくなっています。

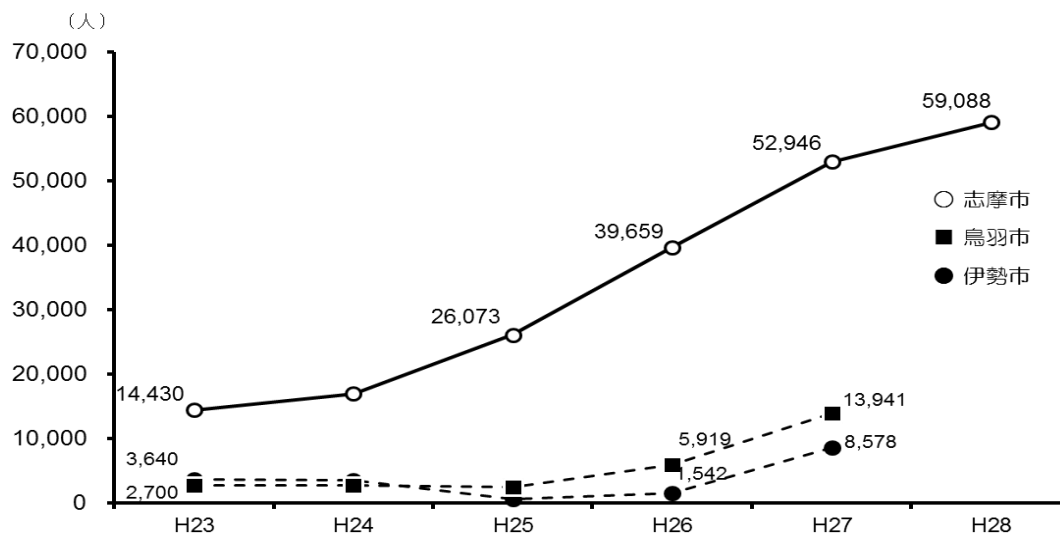


図 39. 志摩市、鳥羽市及び伊勢市を訪れた外国人宿泊客数の推移

(資料出所：外国人宿泊統計集計 観光庁・三重県)

平成 27 年に志摩市を訪れた外国人宿泊客の来訪元を割合で示したグラフが、**図 40**です。
志摩市を訪れる外国人観光客のうち、87%が中国及び台湾を中心とした東アジアからの観光客となっています。一方、シンガポール、タイなどの東南アジアからの観光客は 6.5%であり、欧州や北米からの観光客はわずか 2.6%にとどまっています。平成 26 年は、台湾からの宿泊客が 46.0%を占めていましたが、平成 27 年は中国からの宿泊客が約 38%となっています。

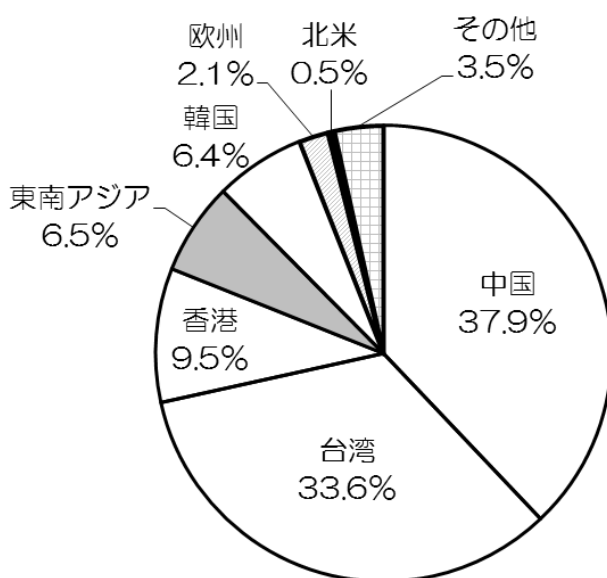


図 40. 平成 27 年に志摩市を訪れた外国人宿泊客の来訪元

(資料出所：外国人宿泊統計集計 観光庁・三重県)

志摩市を訪れる外国人宿泊客数について来訪元別にその推移を示した表が、表 18 です。

統計がとられた平成 23 年当初より、本市には台湾、中国、香港、韓国など東アジアからの観光客が多く訪れており、近年は、シンガポール、タイ、ベトナムなど東南アジアを中心にその数が伸びています。このことから、東アジアからの観光客は安定して増加を示している一方、さらなる増加が期待されるのは東南アジアからの観光客であると考えられます。

また、欧州からの観光客については近年増加する傾向にありますが、北米からの観光客については顕著な増加傾向にあるとは言えません。

	H23	H24	H25	H26	H27
東アジア	13,790	14,600	22,690	33,817	44,567
台湾	5,570	7,870	10,494	17,702	17,138
中国	5,280	3,190	5,369	10,863	19,317
香港	1,880	2,650	5,137	3,759	4,845
韓国	1,060	890	1,690	1,493	3,267
東南アジア	10	380	429	2,262	3,325
シンガポール	0	250	234	1,217	1,830
タイ	10	130	195	1,045	942
ベトナム	-	-	0	0	553
欧州	130	470	468	784	1,056
ドイツ	20	140	342	431	47
イギリス	80	20	39	246	63
フランス	30	310	86	106	946
北米	280	730	479	398	240
アメリカ	280	720	460	370	216
カナダ	0	10	19	28	24
その他	190	730	1,815	1,155	1,769
合計	14,400	16,910	25,881	38,415	50,957

表 18. 志摩市を訪れた外国人宿泊者数の国別推移

(資料出所：外国人宿泊統計集計 観光庁・三重県)

2-8. 志摩市を訪れる外国人観光客の来訪時期

平成 28 年の志摩市の外国人宿泊客数の月別割合を示したグラフが、図 41 です。

4 月にピークを迎え、春から初夏にかけて外国人宿泊客が多く訪れる傾向にあり、志摩市を訪れる観光客が最も多くなる 7 月、8 月は減少しています。9 月以降は同程度の割合で推移しており、志摩市を訪れる観光客の割合と同程度となっています。

前年は、月ごとによる変動が大きい傾向が見られましたが、平成 28 年は年間を通して平準化しています。

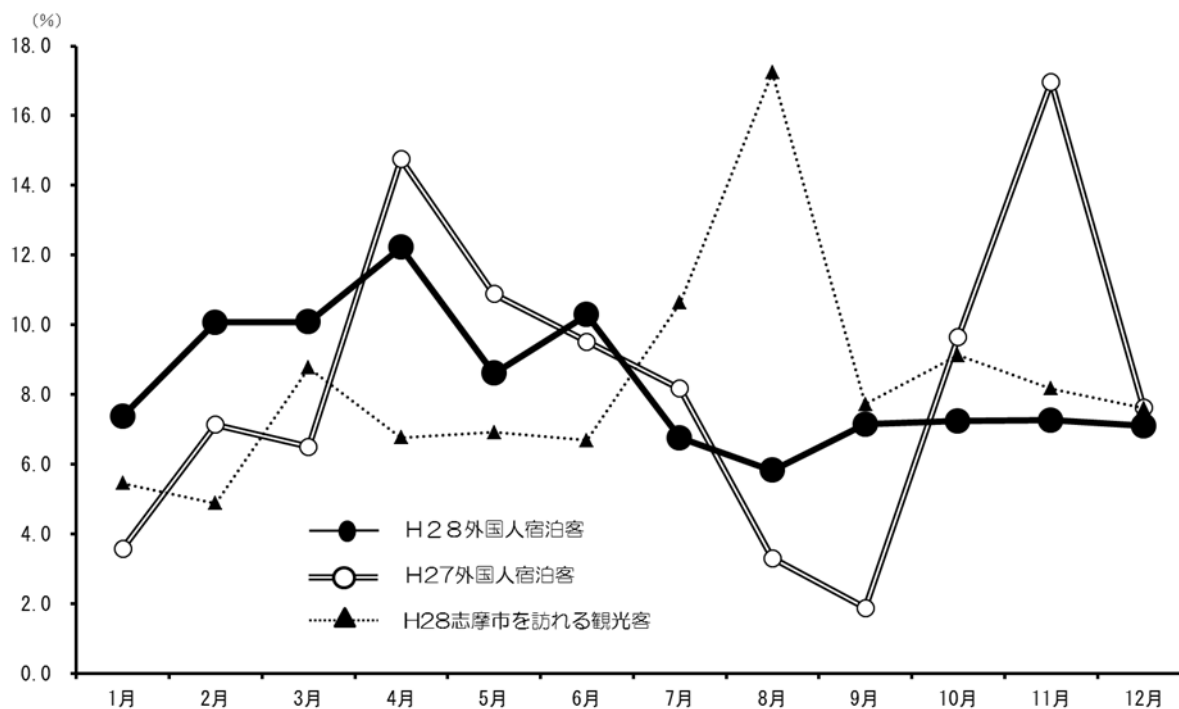


図 41. 平成 28 年の志摩市を訪れた外国人宿泊者数の月別割合

(資料出所：外国人宿泊統計集計 観光庁・三重県)

2-9. まとめ

志摩市を訪れる観光客数は、近年 380 万人程度で推移しています。日帰り客数はほぼ一貫して減少する傾向にありますが、宿泊客数はほぼ横ばいで推移し、近年は若干増加して入込客数に占める宿泊客の割合は 38% 程度となっています。

日帰り客については、志摩スペイン村を有する磯部町に特に集中しており、強い誘客力を持つ市内の観光施設として志摩スペイン村は重要な存在だと言えます。一方で、入込客数の調査地点が各地区に均等に分布しているわけではなく、場所やイベントなど調査対象も異なることから、単純に日帰り客数を比較することはできませんが、浜島町では日帰り客が減少しており、志摩町及び大王町では日帰り客が少ない状態が続いていると推察されます。

宿泊客については、阿児町、磯部町及び浜島町の宿泊客で宿泊客全体の 90% 程度が占められています。なかでも浜島町は、宿泊施設と収容人員が比較的少ない地区であるにも関わらず、宿泊客数が多くなっており、誘客力及び稼働率が高い地区と言えます。一方で、志摩町及び大王町においては、既存の宿泊施設を有効に運用しきれていないことが推察されます。

観光客が本市を訪れる時期については、8月に大きなピークがあり、3月、5月及び11月に小さなピークがあります。一方で、伊勢神宮を有する伊勢市の観光客は、1月にピークを迎えており、それ以外の時期も安定した数で推移しています。このことから、本市の観光客が少ない時期でも伊勢市には多くの観光客が訪れていることがわかります。

県外からの観光客の来訪元については、大部分が愛知県と関西圏で占められており、志摩市は比較的近隣の地域の方が訪れる観光地であると言えます。逆に、東京都を中心とした関東地方からの観光客は少なく、北海道・東北地方、中国四国地方及び九州・沖縄地方からの観光客はさらに少なくなっています。

一方で、休日であっても県民、特に市民や近隣市町の住民の割合が比較的高いということが、本市の特徴として示唆されました。このことから、観光消費だけでなく、地域住民による消費も域内消費としては重要であると推察されます。

今後、志摩市の産業を支える観光関連産業を成長させていくには、入込客数と一人あたりの観光消費額をそれぞれ増加させることが必要となります。つまり、日帰り客と宿泊客を増やし、観光客の滞在時間の長期化と消費機会の増加を図って、観光消費を増やす状況を生み出すことが必要だと考えられます。

具体的には、すでに多くの方が訪れている地区の入込客数を減らさずに、日帰り客が減少している浜島町及び日帰り客が少ない志摩町及び大王町の3町に特化して、訪れる日帰り客を増やすことを通じて、市内の観光客が滞在できる場所の多様化を図り、滞在時間の長期化につなげていくことが考えられます。また、宿泊客を増やすためには、宿泊街として特化している地区の魅力をさらに向上させて宿泊客の維持と増加を図るとともに、宿泊施設の数が比較的多い志摩町及び大王町における宿泊者数を増やしていくことが必要です。そして、観光消費を増加させるには、滞在時間を長期化させるとともに、観光客が望むものだけではなく、地域住民が望むものであり、かつ観光客も望む商品を提供することで、市民で賑わう活力を観光客も楽しめるような状況を地域に創り出し、域内消費を喚起することが効果的だと考えられます。

本市を訪れる外国人観光客は伊勢志摩地域のなかでも特に多く、年々増加傾向にあるうえ、日本人観光客が少ない時期に多くの外国人観光客が来訪する傾向もあることから、本市の観光関連産業を成長させるうえで外国人観光客は重要なターゲットだといえます。ただし、来訪元となる国及び地域は台湾、中国及び香港に偏っており、来訪する外国人観光客の数は、それらの国や地域における観光需要の動向に大きく左右されやすい構造にあると考えられます。一方で、東南アジアからの観光客は近年急速に増加する傾向が見られるとともに、欧州からの観光客についても増加傾向が見られます。

今後は、外国人観光客の大半を占める国や地域からの観光客を顧客として維持しながらも、来訪者数が増加している国や地域からの観光客を増加させることも重要だと考えられます。それを実現するためには、既存の観光関連産業における外国人観光客の受け入れ態勢の充実のもとより、ターゲットとなる国や地域のニーズに応じた体験型商品や安心安全に過ごして頂くための滞在時のサポートの確立などが必要になると考えられます。また、志摩市だけでなく、近隣市町が一体となって、国際観光地としての「伊勢志摩」の確立を目指すことが望まれます。

Ⅲ. 志摩市の将来人口の推計

1. 将来の人口について

1-1. 6パターンのシミュレーション

志摩市の将来人口を予測するにあたって、「現状の人口推移がそのまま続く」、「自然増減が改善する」及び「自然増減及び社会増減が改善する」という3タイプについて、それぞれ2パターンずつ計6つのシミュレーションを行いました（表19）。

タイプ		パターン		自然増減の仮定	社会増減の仮定
1	現状がそのまま続く	1	国立社会保障人口問題研究所の人口推計の仮定が平成72年（2060年）まで続くと仮定	合計特殊出生率は、平成22年国勢調査時点の水準で全国推計を補正。 （平成22年の1.36前後の水準が続く）	平成22年国勢調査で算出された移動率が、平成32年に半減して、あとは一定。
		2	合計特殊出生率及び社会減が現状のまま平成72年（2060年）まで続くと仮定	合計特殊出生率は、1.45で一定。	平成22年国勢調査で算出された移動率のまま一定。
2	自然増減が改善する	3	パターン1の合計特殊出生率が段階的に2.1まで改善すると仮定	国の長期ビジョンで示している水準まで改善。 平成32年に1.6、平成42年に1.8、平成52年までに2.1。	平成22年国勢調査で算出された移動率が、平成32年に半減して、あとは一定。
		4	パターン2の合計特殊出生率が段階的に2.1まで改善すると仮定	国の長期ビジョンで示している水準まで改善。 平成32年に1.6、平成42年に1.8、平成52年までに2.1。	平成22年国勢調査で算出された移動率のまま一定。
3	自然増減と社会増減が	5	合計特殊出生率が段階的に2.1まで改善し、平成37年（2025年）までに社会減が解消されると仮定	国の長期ビジョンで示している水準まで改善。 平成32年に1.6、平成42年に1.8、平成52年までに2.1。	平成22年国勢調査で算出された移動率が、平成37年に均衡して、あとは一定。
		6	合計特殊出生率が段階的に2.1まで改善し、平成37年（2025年）までに社会増に転じると仮定	国の長期ビジョンで示している水準まで改善。 平成32年に1.6、平成42年に1.8、平成52年までに2.1。	平成22年国勢調査で算出された移動率が、平成37年に逆転して、あとは一定。

表 19. 3タイプ計6パターンの人口シミュレーション

現状がそのまま続くタイプのシミュレーションでは、「国立社会保障人口問題研究所の人口推計の仮定が平成 72 年（2060 年）まで続くと仮定したパターン」（以下、パターン 1 という。）と「合計特殊出生率及び社会減が現状のまま平成 72 年（2060 年）まで続くと仮定したパターン」（以下、パターン 2 という。）の 2 つのパターンのシミュレーションを行いました。

自然増減が改善するタイプのシミュレーションでは、「パターン 1 の合計特殊出生率が段階的に 2.1 まで改善すると仮定したパターン」（以下、パターン 3 という。）と「パターン 2 の合計特殊出生率が段階的に 2.1 まで改善すると仮定したパターン」（以下、パターン 4 という。）の 2 つのパターンのシミュレーションを行いました。

自然増減及び社会増減が改善するタイプのシミュレーションでは、「合計特殊出生率が段階的に 2.1 まで改善し、平成 37 年（2025 年）までに社会減が解消されると仮定したパターン」（以下、パターン 5 という。）と「合計特殊出生率が段階的に 2.1 まで改善し、平成 37 年（2025 年）までに社会増に転じると仮定したパターン」（以下、パターン 6 という。）の 2 つのパターンのシミュレーションを行いました。

なお、計 6 つのパターンのシミュレーションについては、国立社会保障人口問題研究所によるシミュレーション（パターン 1）を基本として、合計特殊出生率及び社会増減の数値を変化させてシミュレーションをしています。国立社会保障人口問題研究所では、人口推計にあたって平成 22 年度の国勢調査の人口における年齢不詳の人口を、男女別また年齢別の人口に案分して、四捨五入した値を人口として推計に使用しています。そのため、推定に用いられる人口の値は、国勢調査の公表結果と一致しない場合があります。

1-2. 現状がそのまま続いた場合の将来人口

パターン1とパターン2による志摩市の将来人口の推計結果を示したグラフが、図42です。

パターン1では、平成72年(2060年)の人口が19,613人となり、45年後の人口は2万人を下回るという推計結果になります。これは、合計特殊出生率が1.36程度の水準で推移し、平成32年(2020年)には社会増減が半減しているという仮定に基づいた結果です。

一方、パターン2では、平成72年(2060年)の人口が13,456人となり、45年後の人口は13,500人以下という厳しい推計結果になります。これは、合計特殊出生率が現在の1.45で推移し、社会増減については現在発生している400人程度の社会減が続くという仮定に基づいた結果です。

どちらの推計でも45年後の総人口は平成26年度の阿児町地区の人口(22,400人)を下回る規模になります。さらに現在4,000人程度と推定される出産適齢期の女性の人口は、45年後にはパターン1だと1,095人、パターン2だと401人になると推計されます。また、45年後の高齢化率については、パターン1では50%に、パターン2では68.5%に上昇すると推定されます。いずれの推計結果からも、現状がそのまま続くと、急速な人口減少と高齢化が進行することがわかります。

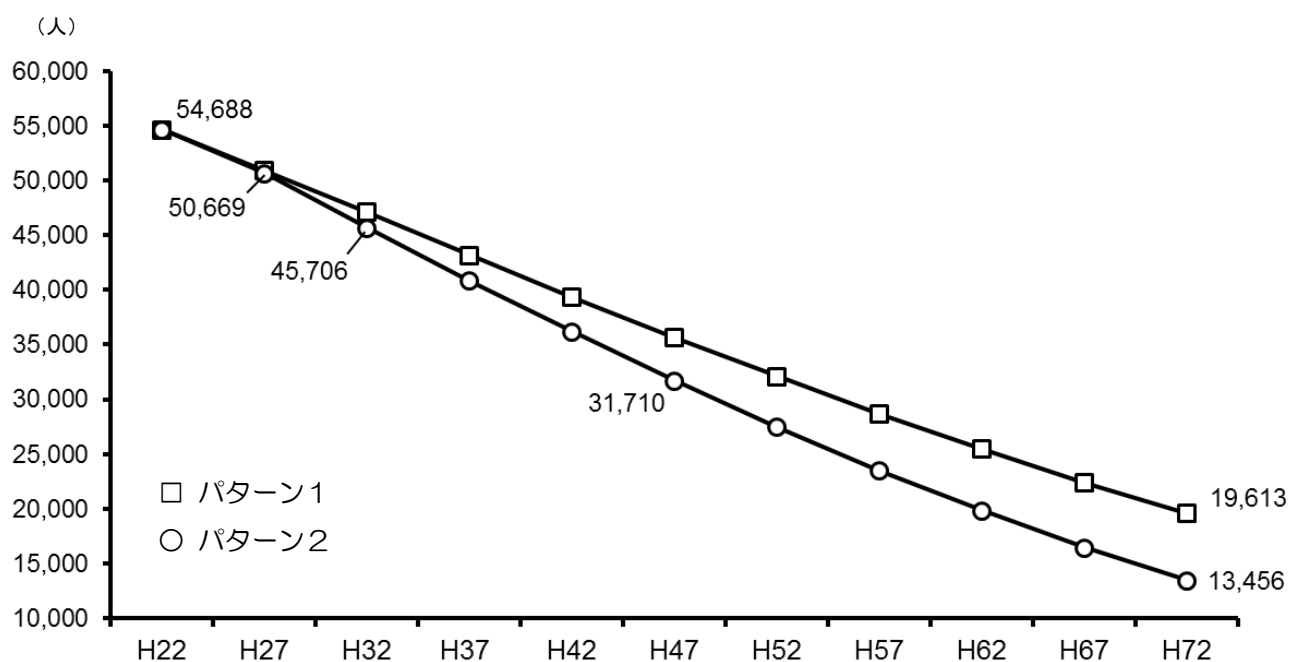


図42. パターン1及び2による志摩市の人口推計

1-3. 将来人口に及ぼす自然増減の影響

パターン1からパターン4による将来人口の推計結果を示したグラフが、図43です。

パターン3及びパターン4は、それぞれパターン1及びパターン2の合計特殊出生率を平成52年(2040年)までに段階的に2.1まで改善させるという仮定に基づく推計です。言い換えると、現状の合計特殊出生率を国が示す目標通りに改善させた場合に、人口がどのように変化するかを示しています。2つのシミュレーションによる45年後の推定人口は、パターン3が24,212人、パターン4は14,278人です。

パターン1とパターン3を比較すると4,599人の増加となっているのに対して、パターン2とパターン4を比較するとわずか822人の増加です。同じように合計特殊出生率を改善させても、2つのパターンで大きな差が出る理由は、パターン1とパターン2で社会減の仮定が異なり、出産適齢期の女性の人口に差があるためです。また、合計特殊出生率を改善させると人口は増加するものの、それだけでは人口減少に歯止めがかからないこともわかります。

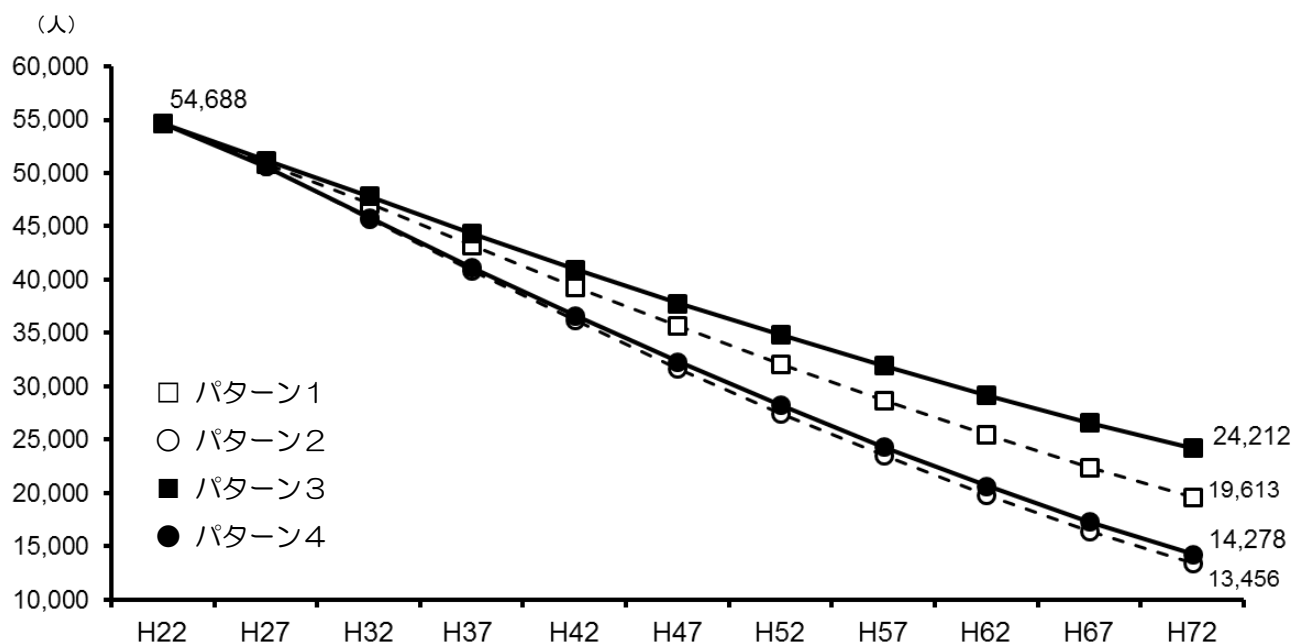


図43. パターン1、2、3及び4による志摩市の人口推計

1-4. 将来人口に及ぼす社会増減の影響

パターン4からパターン6までの将来人口の推計結果を示したグラフが、図44です。

パターン5は、パターン4で想定している400人程度の社会減を平成37年（2025年）までに均衡させるという仮定に基づく推計です。一方、パターン6は、パターン4の社会減の想定を平成32年（2020年）までに均衡させ、平成37年（2025年）にはさらに400人程度の社会増に反転させるという仮定に基づく推計です。

パターン5による45年後の推定人口は30,575人となり、出産適齢期の女性人口は3,054人で、高齢化率は32%になります。総人口については現在の6割程度に減少しますが、高齢化率は今よりも下がり、現状がそのまま続く場合に比べて、人口減少に歯止めがかかった状態となります。一方、パターン6による45年後の推定人口は52,011人となっており、出産適齢期の女性人口は7,467人で、高齢化率は19%になります。この推計だと、5万人程度を維持できますし、超高齢社会から抜け出すこととなりますが、10年後に400人の社会増を実現することが前提となり、実状を踏まえると現実的に想定することはできません。つまり、現在と同程度の人口規模を45年後にも維持しようとする、非現実的な目標を設定せざるを得ないということです。

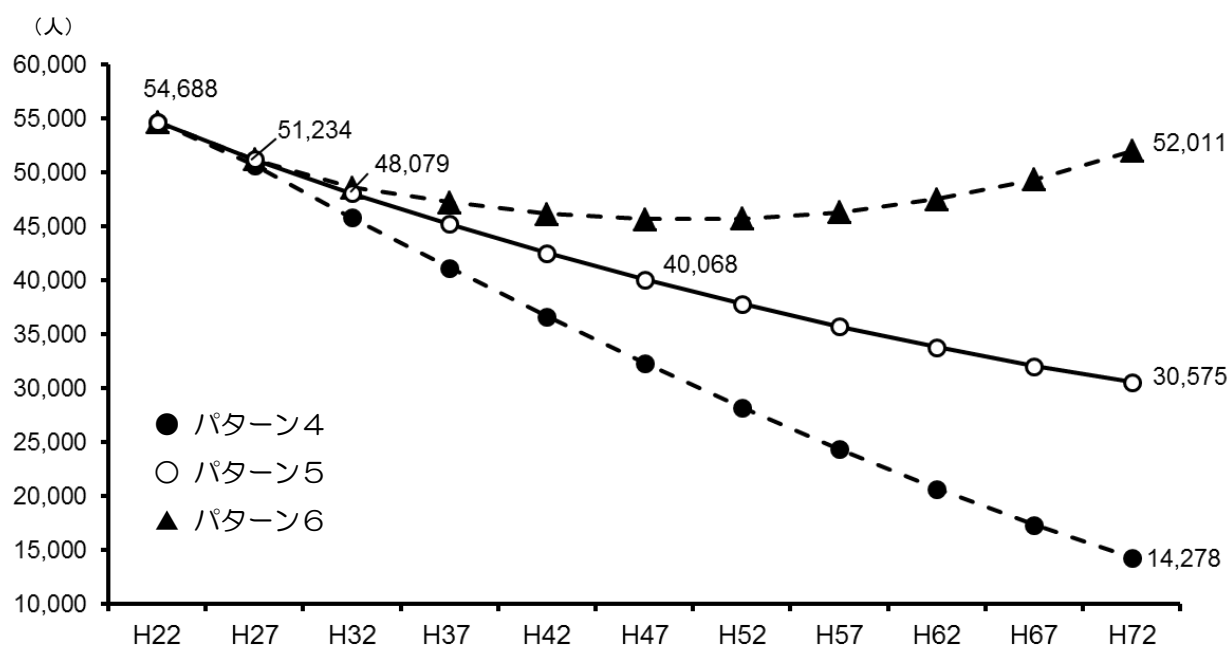


図44. パターン4、5及び6による志摩市の人口推計

1-5. まとめ

6つのシミュレーション結果を比較すると、志摩市の人口を決定する要因としては、自然増減よりも社会増減の方が、はるかに影響が大きいことがわかります。人口移動によって、若者、とくに出産適齢期の女性人口が減少することで、合計特殊出生率が維持できたとしても、子どもの数は減少します。したがって、少子化対策などの自然減対策を進めながらも、仕事づくりや地域で活躍する若者の育成などの社会減対策を重点的に取り組む必要があると考えられます。

2. 人口減少が地域に与える影響について

2-1. 3つの年齢層の人口推移

人口減少が地域に与える影響を把握するために、現状のまま人口減少が進行することを想定したパターン2と、45年後も人口を30,000人程度は維持することを想定したパターン5のシミュレーションにおいて、働き手世代（20～64歳）、出産適齢期の女性（20～39歳）及び高齢者（65歳以上）の人口が、それぞれどのような推移をたどるかを分析しました。

2-2. 働き手世代の人口の推移

2つのパターンのシミュレーションで働き手世代の人口がどのように推移するかを示したグラフが、**図45**です。

パターン2によるシミュレーションでは、働き手世代の人口は急速な減少を続け、45年後には3,383人まで減少すると推定されます。これは、平成22年度の12%弱まで産業生産や域内消費を担う人口が減少することを意味します。一方、パターン5によるシミュレーションでは、働き手世代の人口は減少するものの徐々に減少の速度は落ち着き、平成57年頃に15,000人程度になってからは顕著な減少に歯止めがかかり、45年後には14,563人になると推定されます。しかし、それでも平成22年度と比較するとおよそ半数まで働き手世代の人口は減少します。

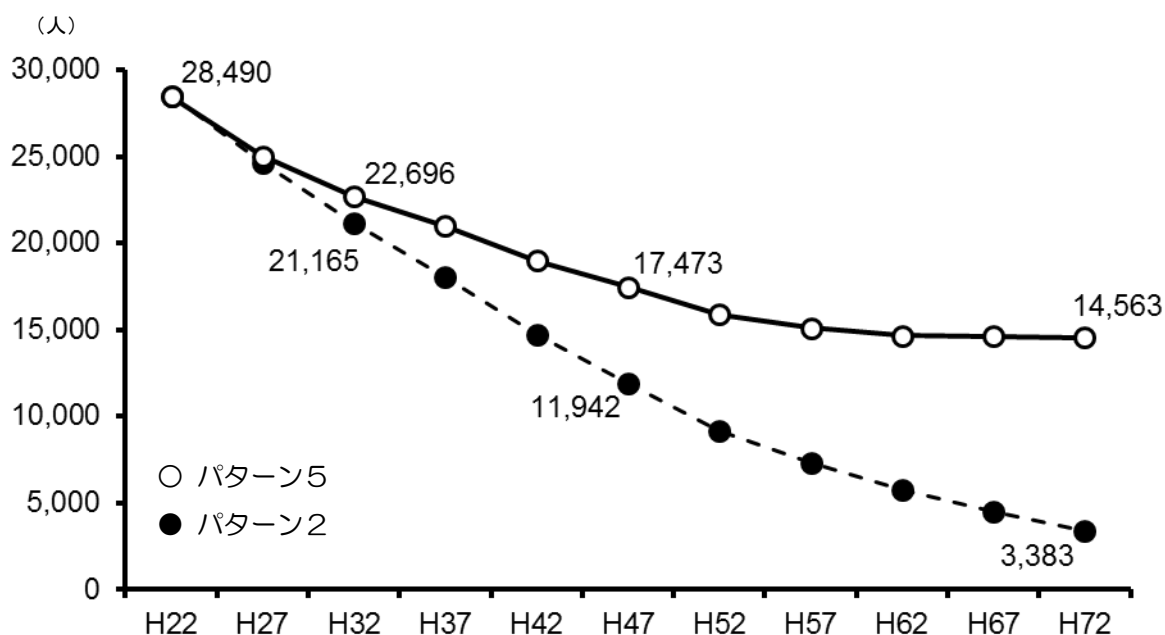


図45. パターン2及び5による志摩市の働き手世代の人口推定

2-3. 出産適齢期の女性の人口の推移

2つのパターンのシミュレーションで、出産適齢期の女性の人口がどのように推移するかを示したグラフが、図 46 です。

パターン2では、出産適齢期の女性の人口は急速な減少を続け、45年にはわずか401人まで減少すると推定されます。一方、パターン5では、減少するものの3,000人を下回ることなく、45年後にも3,054人は維持されると推定されます。これは、平成22年度と比較して60%程度の規模で出産適齢期の女性の人口が維持されるということです。

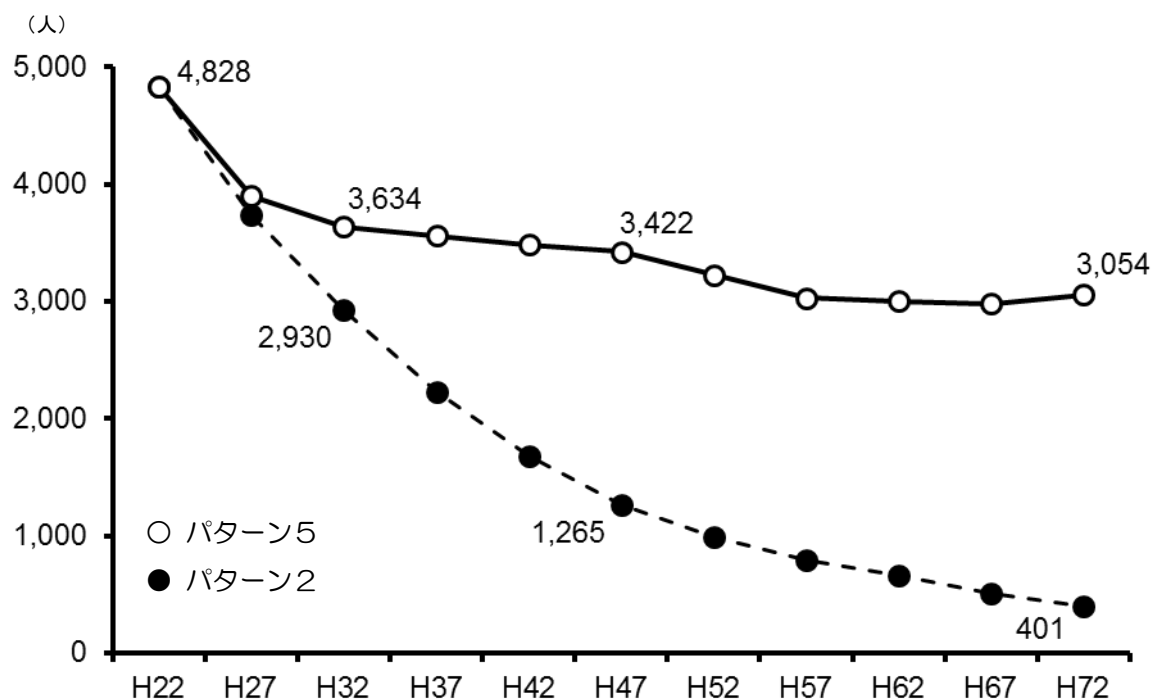


図 46. パターン2及び5による志摩市の出産適齢期の女性の人口推移

2-4. 高齢者の人口の推移

2つのパターンのシミュレーションで、高齢者の人口がどのように推移するかを示したグラフが、図47です。

働き手世代及び出産適齢期の女性の人口推移とは異なり、2つのパターンで顕著な違いはみられません。平成32年をピークに高齢者の人口は減少を始め、45年後には10,000人を下回ると推定されます。これは、本市の雇用を支える付加価値の高い産業の1つである医療・福祉にかかる域内需要が、平成32年を境に低下していくことを意味します。

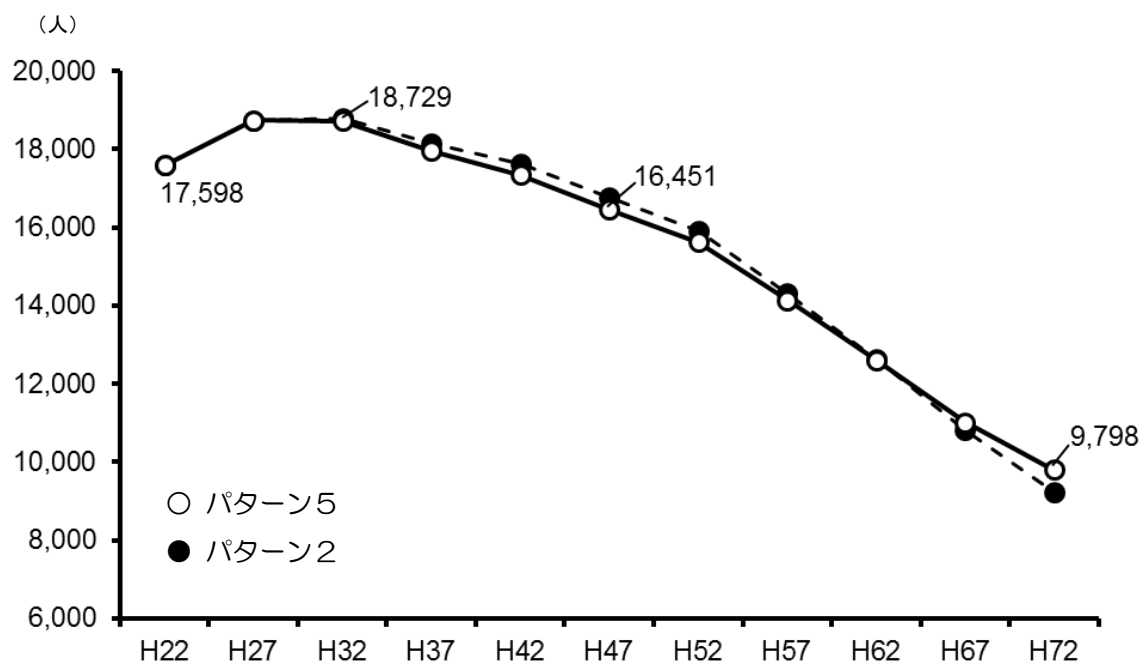


図47. パターン2及び5による志摩市の高齢者の人口推移

2-5. まとめ

人口減少が継続すると、地域経済の縮小を招き、さらなる人口減少と地域経済の縮を引き起こすという負の連鎖に陥ります。

もしも、パターン2のような厳しい推計が、現実になるならば、高齢化率は現在の2倍近い69%、出産適齢期の女性の人口は現在の10%ほどの400人程度となり、志摩市の地域経済を担う働く世代の人口は現在の14%ほどの3,400人程度になってしまいます（図48）。こうなると、経済活動はもちろん、地域の人口を維持することも、現状の公共サービスを維持することすら難しい状況になるとが考えられます。

また、たとえパターン5のように30,000人を維持することができたとしても、高齢化率が40%を超える期間が長期にわたり、20,000人以上の人口が減少する中で、いくつもの限界集落が生まれることが予想されます。

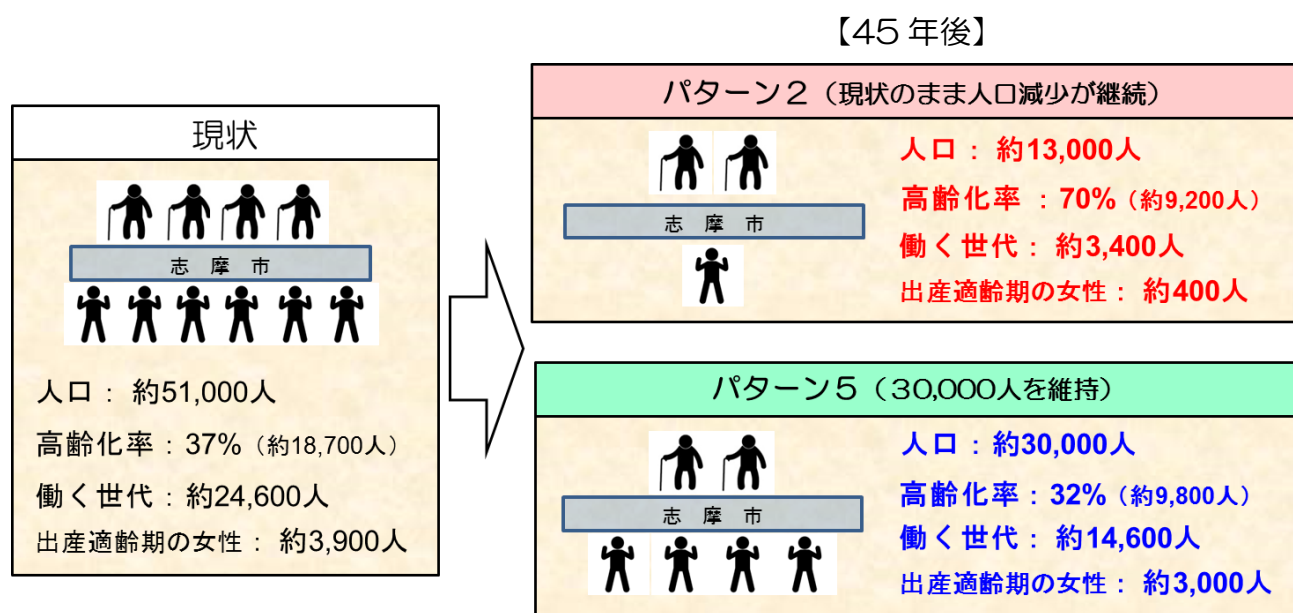


図 48. 人口減少が地域の社会構造に与える影響のイメージ

IV. 志摩市の将来展望

1. 志摩市の目指すべき将来の姿

1-1. 将来像の検討に向けた様々な検討結果

人口ビジョンに記載する将来展望は、志摩市地方創生推進本部（以下、推進本部という。）における検討結果に加えて、20～30代の若者を集めて地域の将来像を考えた「志摩市若者ワークショップ」及び志摩市在住の生徒が多い4つの高校（県立水産、志摩、伊勢、伊勢工業）の高校2年生を対象に実施した「高校生アンケート」の結果を踏まえて策定しました。

1) 推進本部

推進本部の検討では、過去から現在までの印象としての「まちの勢い」の変遷をグラフ化し、今後予想される勢いの変化と理想とする勢いの変化を描きました。それをまとめたグラフが、図49です。

昭和50年頃から平成5年頃までは、緩やかにまちの勢いが低下してきましたが、平成7年を過ぎた頃から急速にまちの勢いが低下しているという結果がまとめられました。勢いの低下は、働き手世代の人口減少（図3）と同じパターンを示しており、人口減少の影響が、印象としてのまちの勢いの低下として表れているものと考えられます。

まちの勢いが低下を続けるなかでの今後の予想については、このままいくとサミットの開催で一時は盛り上がるものの、その後で急速にまちの勢いは低下するというものです。一方、理想の将来予想は、人口が減少するなかでも、サミットの開催を契機に盛り上げた勢いを、できるだけ長引かせるというものです。

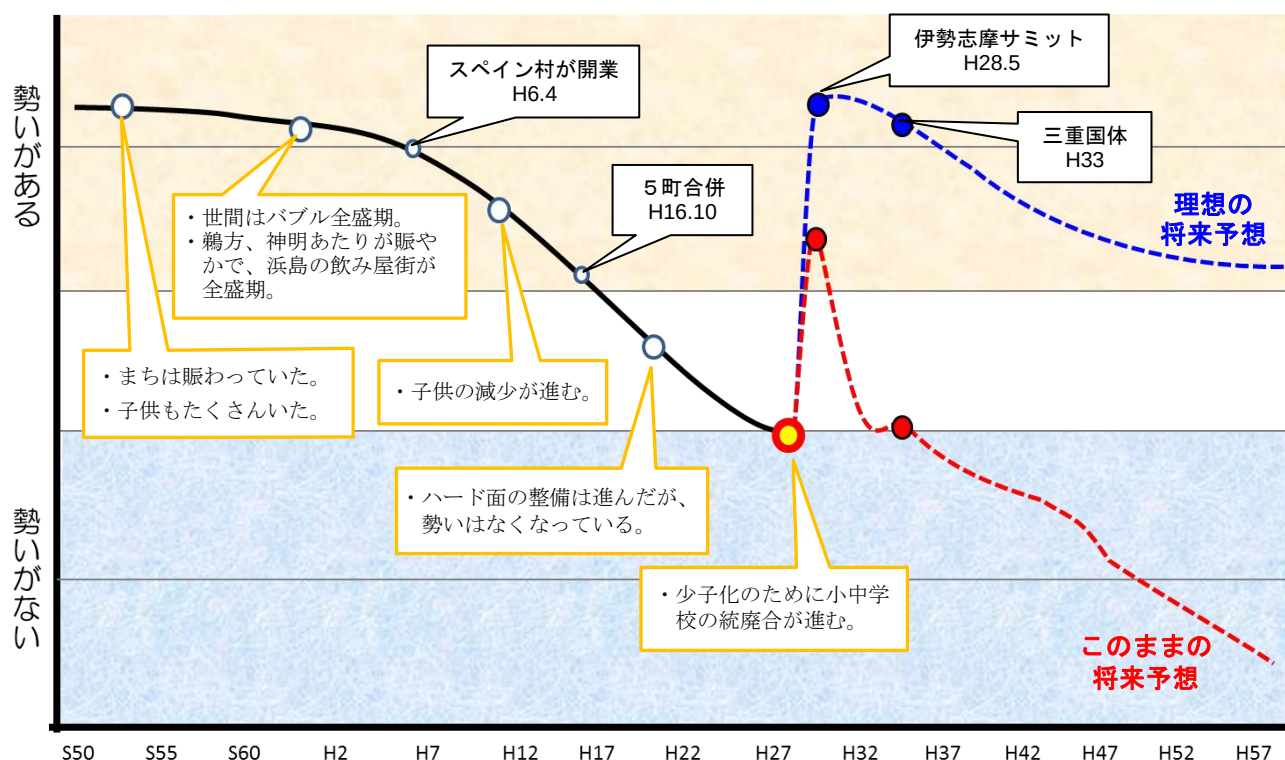


図49. 「まちの勢い」の変遷と2つの将来予想（※点線はあくまで将来予想です。）

推進本部の検討では、志摩市の誇れる「もの」と「こと」も考察し、1) 自然環境、2) 食材、3) 景観、4) 文化・伝統、5) 人のつながり及び6) 観光の6項目が志摩市の強みであるという結論に至りました。

そのうえで、6項目それぞれについて、上記のような理想のまちの勢いを実現させるための基盤となる将来像を、下記のようにまとめました。

自然環境

- ・志摩市の食材を生産する森や海を守り続ける意識が共有されている。

食材

- ・「観光」×「オンリーワンの特産品」が確立され、今以上に豊かな食材の地産地消が構築されている。
- ・志摩ブランド＝世界ブランドになるような品質管理、品質向上、販路拡大がなされている。
- ・志摩のソウルフードである「てこね寿司」や「きんこ」は、変わらずに愛されながら、バリエーション豊富に進化している。
- ・生産量第一位のアオサの漁場環境は保全され、生産量だけでなく消費量も日本一の地域となり、たくさんの人がアオサ養殖に従事している。

景観

- ・美しい自然と、そこで生活する人々の営みが調和した風景が残っている。
- ・人と自然が共生する日本の原風景が残されている。

文化・伝統

- ・地域の結びつきや伝統を大切にしながら若い世代や多くの人を巻き込んで地域の祭りや神事が継続し、誰もが参加できるような開放的な祭りのイメージも構築されている。
- ・社寺仏閣や由緒ある場所が、市民のパワースポットとして生活に溶け込み、大切にされるとともに、そうしたスポットが魅力的な観光資源としても活用されている。
- ・市内の高校に海女漁などを教える学科が新設されるなど、豊かな自然を生かす知恵や技を継承するための仕組みが確立され、志摩ならではの文化が育まれている。

人のつながり

- ・助け合い、分かち合う近所のつながりが残り、田舎の良さを忘れず、「医・職・住」が確保された不自由のない暮らしをしている。
- ・水産高校、通信高校、普通高校の3校で地元のことを学んだ卒業生が、地域を愛し、地域の担い手として活躍し、期待されている。

観光

- ・自然環境や歴史文化など志摩市独自の魅力を市民が観光客に伝えることにより、その価値を再確認できるような関係を構築し、志摩らしい「おもてなし」が確立されている。
 - ・観光地として愛され、様々な人がそれぞれの目的で訪れられる志摩市になっている。
-

2) 志摩市若者ワークショップ

志摩市若者ワークショップでは、志摩市の「暮らしやすさ」と「暮らしにくさ」を整理しました。3つのグループに分かれて検討しましたが（表 20）、別々に検討しても同様の項目が多く見受けられ、それぞれ検討結果は下記のようにまとめられました。

暮らしやすさ

- ・人のつながり・豊かな自然・不安が少ない静かな生活・子育てのしやすさ

暮らしにくさ

- ・交通の便が悪い・仕事が少ない・産婦人科や小児科などの医療が不十分
- ・移住者などの他者を受け入れにくい・遊びや出会いの場が少ない

「暮らしやすさ」だが改善してほしいこと

- ・地域のつながりが強すぎて若い人の意見が通りにくい
- ・豊かな自然を生かした公園などが少ない

当然のことですが、暮らしやすさをより良くし、暮らしにくさを解消することが、目指すべき将来像になります。

	暮らしやすいところ	暮らしにくいところ
グループ1	・世代を問わず、コミュニケーションが図れている。	・交通整備が不十分。
	・静かで住みやすく、時間がゆっくり流れている感じがする。	・身近に安心して遊べる場所が少ない（公園）。
	・前向きな印象の人が多い。	・地域のつながりが強すぎるため、他者を受け入れにくい。
	・まだまだ発掘できる資源がある（観光・食など）。	・若い人の意見が通りにくい。
		・医療体制が整っていない（産婦人科・小児科）。
グループ2		・市外へ出て行った若者に戻ってきてほしい。
	・人（つながり）。	・交通が不便。
	・子育てがしやすい。	・店がない。
	・電車がある。	・総合病院が少ない。
		・仕事が少ない。
グループ3		・出会いが少ない。
	・土地が安い。畑が豊富で自給可能。	・津波が怖い。
	・近所付き合いが残っており助け合える。金銭的に、治安的に、不安が少ない。	・22時以降することがない。
	・温暖な気候で一年を通して住みやすい。	・交通の便が悪い。
	・豊かな自然の中で、子育てや遊びができる。	・ネットのインフラが整っていない。
		・仕事が少ない（選ばなければある。二次産業が少ない）。
		・子育て環境の悪化（自然と子供のつながりが減っていく）。
		・医療機関が充実していない（産科・小児科）。
		・地元への関心が薄く、文化の伝承が危ぶまれる。
		・若者が遊ぶ場所が少ない（映画館・アミューズメント）。
		・移住希望者の受け入れ体制がない。

表 20. 志摩市若者ワークショップでの検討結果

3) 高校生アンケート

高校生アンケートでは、「志摩市の良いところ」、「志摩市の良くした方がいいところ」、「20年後に期待する志摩市の姿」などについて、高校生の声を集めました（表 21～23）。それぞれのアンケート結果は、下記のようにまとめられました。

志摩市の良いところ

- ・豊かできれいな自然・雰囲気が落ち着いた安心して暮らせるまち・優しくて温かい人
- ・新鮮で美味しい魚などの食

志摩市の良くした方がいいところ

- ・交通の便が悪い・カフェやショッピングモールなどのお店の数が少ない
- ・遊ぶ場所が少ない・仕事が少ない・人口が少ない

20年後に期待する姿

- ・まちが便利になり活発になっている・人口が増えて多くの人の心が豊かになっている
- ・自然が豊かに維持されている・交通の便が良くなっている・お店が多くなっている

項目	件数	主な内容
自然	308	自然がきれい・豊か、自然が身近に感じられる
人	130	人が親切で優しい、仲が良い
ま ち	75	平和で安全、まちが静か、まち（街並み）がきれい
雰囲気	70	まちの雰囲気がよい、のどかな雰囲気
食	28	食べ物がおいしい、おいしいものがたくさんある
その他	6	
合計	617	

表 21. 高校生アンケート結果 志摩市の良いところ

項目	件数	主な内容
商店	201	店を増やした方がよい
公共交通	184	公共交通を充実した方がよい、電車の路線を延長した方がよい
人	29	人口（若者）を増やした方がよい
ま ち	29	まちを活性化した方がよい、古い家を壊した方がよい
自然	27	自然を大切にした方がよい、川・海をきれいにした方がよい
公共施設	23	街灯を増やした方がよい、公園を増やした方がよい
観光	23	観光地を増やした方がよい、 まち（観光地）をPRしたほうがよい
娯楽	18	遊ぶ場所（若者が好む場所）を増やした方がよい
仕事	16	働く場所を増やした方がよい
その他	45	
合計	595	

表 22. 高校生アンケート結果 志摩市の良くした方がいいところ

項目	件数	主な内容
人口	206	人口が増えていて欲しい、子どもや若者が増えていて欲しい
まち	121	活性化していて欲しい、より住みやすくなっていて欲しい
活気	75	まちに活気があって欲しい
商店	59	店が増えていて欲しい
自然	26	自然が維持されていて欲しい、海がきれいであって欲しい
その他	64	
合計	551	

表 23. 高校生アンケート結果 20 年後に期待する志摩市の姿

4) 中学校卒業生の進路希望

平成 27 年度に志摩市内の中学校を卒業する生徒の進路希望を示した表が、表 24 です。

志摩市内の高校への進学希望者が 29.3%であるのに対し、伊勢市内の高校への進学希望者が 55.5%と最も多く、2つの地域で約 85%の生徒が進学先として希望していることになります。

また、県内のその他地域にある高校への進学希望者は、13.0%、県外の高校への進学希望者が 2.0%となっています。

	人数(人)	割合(%)
志摩市内の高校への進学希望者数	135	29.3
伊勢市内の高校への進学希望者数	256	55.5
鳥羽市内の高校への進学希望者数	1	0.2
南伊勢町内の高校への進学希望者数	2	0.4
県内他地域の高校への進学希望者数	57	12.4
県外の高校への進学希望者数	9	2.0
就職希望者数	1	0.2
合計	461	

表 24. 平成 27 年度中学校卒業生の進路希望（資料出所：志摩市）

1-2. 各検討結果を踏まえた志摩市のめざすべき将来像

それぞれの結果は、表現に違いはあるものの、志摩市の強みや市民の暮らしやすさ、暮らしにくさという点の認識は共通しています。また、目指す方向性としては、地域の良いところをしっかりと残しながら、それらを資源として上手に生かして地域に仕事を創ることで、市民の暮らしやすさや観光地としての魅力を向上させ、地域の活力を維持するということで共通しています。

そこで、志摩市が目指す45年後の将来像を下記のとおり設定します。

-
- ・志摩市の豊かさの源である自然環境がより良く保全され、人の営みと自然が調和した志摩の景観が広がるなかで、持続的に志摩の多様な食材が生産され、地域内の宿泊業や飲食業などで幅広く大切に消費されている。
 - ・人のつながりに支えられた暮らしやすさが確保され、地域の由緒ある空間やお祭りなどの文化・伝統が、市民の力で絶えることなく維持されている。
 - ・自らの特徴を把握して自立する小さな地域が、それぞれの個性を発揮して、1つの志摩市を構成している。
 - ・「海や里の多様な食材」、「豊かな自然環境」、「美しい景観」、「地域ごとの文化・伝統」及び「人のつながり」が相まって、志摩市の良さを凝縮した質の高い「観光」が世界に向けて提供され、地域の資源を生かした産業で活力ある地域が形成されている。
 - ・地域の魅力に誇りを持ち、自らそれを楽しみ語れる市民の存在で、訪れる人が志摩市に憧れるようなまちが形成されている。
 - ・市内各地区の移動の利便性向上、子どもを産み育てるうえで必要な医療の確保、人が集い語らう場所や新しい娯楽の創出など、市民のニーズを新しい仕事として市民が叶えている。
 - ・市民の理解や事前の備えなど、ハード整備だけではない事前防災が徹底された災害に強いまちが形成されている。
 - ・志摩市の経済を支える産業の労働生産性が向上し、活発な業種間交流と連携により、多様でやりがいのある労働環境が生み出され、様々な域内消費ができるだけ地域で循環している。
-

目指す将来像を一言で表現すると、下記のような将来像にまとめられます。

-
- ・地域の魅力を生かした産業を基礎に、自らの願いを叶える力強さを備えた市民が、つながりあって小さな地域とまちを支え、文化・伝統を守りながら、美しい自然とともに生き活きと暮らしている。
-

2. 人口の将来展望

2-1. 合計特殊出生率の向上

志摩市の人口の将来展望を描くには、まず人口減少に歯止めをかけることが課題であり、解決のために必要な状況が、合計特殊出生率の向上です。

国の長期ビジョンでは、「まず目指すべきは、若い世代の結婚・子育ての希望の実現に取り組み、出生率の向上を図ること」であるとし、平成 32 年（2020 年）までに合計特殊出生率を 1.6 程度まで、平成 42 年（2030 年）には 1.8 程度まで向上させ、平成 52 年（2040 年）に人口置換水準（2.07）が達成されるケースを想定することで、平成 72 年（2060 年）に総人口 1 億人程度を確保するとしています。また、三重県の長期ビジョンにおいても、段階的に平成 52 年までに合計特殊出生率を 2.1 まで向上させるとしています。

そこで志摩市としては、現状の合計特殊出生率が 1.45 であり、国の 1.43 は上回るものの、県の 1.49 は下回っているため、県が提示するペースを目指しながら、長期的には国が示すものと同等程度の水準まで合計特殊出生率を向上させることを展望します。

【自然増減に関する展望】

現在の合計特殊出生率 1.45 は、段階的に向上し、平成 52 年（2040 年）に 2.10 になる。

2-2. 社会減の抑制

志摩市の人口減少に歯止めをかけるためにもう 1 つ必要な状況が、社会減の抑制です。年間の転出者数が転入者数を 400 人ほど超過している状態が続いており、志摩市における人口減少の原因はこの社会減にあります。この状況を早期に抑制しなければ、抜本的に人口減少に歯止めをかけることはできません。

地域の雇用と経済を支える仕事の生産性を向上させ、地域に付加価値の高い様々な仕事をおこなうだけでなく、多様な働き方を可能にするとともに、観光消費などの域内消費を域内で循環させることができれば、地域が活性化することを通じて、志摩市に戻ってくる人、訪れる人または留まる人が増えてくることが期待できます。

本市における転出と転入の現状は、転出者数の多い 20～39 歳の年齢層が転入者としても数の多い年齢層になっており、転出者の転出先と転入者の転入元がほぼ同じであるうえ、転出者の多くは県内近隣市や愛知県、大阪府等に転出するなどあまり本市から遠く離れていません。そこで、これらの現状を踏まえて、今後の 10 年間に集中して、上記のような動きや流れを本市に創り出すことで、10 年間で転出者数と転入者数を均衡させることを展望します。

【社会増減に関する展望】

現在の 400 人程度の転出超過が、平成 37 年（2025 年）にゼロになる。

2－3. 45年後の人口は30,000人程度を確保

合計特殊出生率の向上と社会減の抑制が実現できると、平成72年（2060年）に30,000人程度の人口が維持されることになります。

これは、現在の人口からみれば6割程度の水準で、統計史上過去最低（大正9年の44,000人）を下回る人口規模です。しかし、合計特殊出生率を国が掲げる水準まで上昇させ、長期にわたって続いている社会減を10年間で均衡させるということは、決して容易に達成できるものではなく、現状の人口推計を踏まえると達成可能な最高レベルの目標であると言えます。

一方で、30,000人を維持できれば、働く世代の人口減少は現状の半分程度までに抑えることができると考えられ、加えて、社会減の抑制が期待できる状況を地域に構築できていれば、現状の半分程度の労働人口であったとしても活力ある地域社会が維持されていることも展望できます。また、30,000人を維持できれば出産適齢期の女性人口も3,000人を下ることなく推移することが予想されます。こうした社会状況にあれば、45年後よりもさらに長期的に、合計特殊出生率が人口置換水準を上回ったり、転入超過になったりすれば、人口減少を克服して人口増加への道筋をつけることも可能です。

そこで、市民一人ひとりの今まで以上の活躍を前提に、活力ある地域を維持し、合併によって誕生した市としての機能を堅持することを考えて、45年後の人口は30,000人程度が確保されることを展望します。

【将来人口の展望】

現在51,000人程度の人口が、45年後には30,000人程度になる。

卷 末 資 料

1. 地区別・男女別人口及び地区別世帯数

		平成11年度				平成12年度				平成13年度				平成14年度				平成15年度				平成16年度				平成17年度			
		男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数
浜島町	浜 島	2,270	2,519	4,789	1,532	2,213	2,459	4,672	1,525	2,150	2,402	4,552	1,514	2,121	2,355	4,476	1,510	2,077	2,314	4,391	1,510	2,039	2,265	4,304	1,498	1,993	2,216	4,209	1,491
	南 張	193	208	401	135	189	215	404	136	185	208	393	136	182	198	380	133	182	200	382	136	180	192	372	136	173	185	358	134
	桧山路	110	115	225	61	104	112	216	61	103	114	217	64	101	108	209	63	103	107	210	64	104	106	210	65	97	102	199	64
	塩 屋	92	116	208	66	90	115	205	66	87	112	199	64	87	112	199	64	87	112	199	63	81	108	189	63	80	108	188	63
	迫 子	324	360	684	236	329	360	689	241	319	351	670	234	332	351	683	241	322	352	674	240	326	353	679	244	328	352	680	249
	小計	2,989	3,318	6,307	2,030	2,925	3,261	6,186	2,029	2,844	3,187	6,031	2,012	2,823	3,124	5,947	2,011	2,771	3,085	5,856	2,013	2,730	3,024	5,754	2,006	2,671	2,963	5,634	2,001
大王町	波切	2,729	3,136	5,865	1,998	2,684	3,097	5,781	1,999	2,662	3,044	5,706	2,004	2,654	3,048	5,702	2,057	2,599	2,988	5,587	2,051	2,547	2,937	5,484	2,032	2,501	2,894	5,395	2,040
	船越	1,004	1,171	2,175	786	982	1,154	2,136	776	966	1,130	2,096	770	962	1,123	2,085	777	956	1,122	2,078	782	930	1,108	2,038	771	902	1,089	1,991	769
	名田	161	191	352	117	155	187	342	119	153	183	336	122	143	177	320	123	139	175	314	123	142	181	323	128	137	175	312	123
	畔名	262	326	588	191	266	332	598	197	266	326	592	200	270	327	597	205	270	322	592	207	262	321	583	209	265	324	589	211
	小計	4,156	4,824	8,980	3,092	4,087	4,770	8,857	3,091	4,047	4,683	8,730	3,096	4,029	4,675	8,704	3,162	3,964	4,607	8,571	3,163	3,881	4,547	8,428	3,140	3,805	4,482	8,287	3,143
志摩町	片 田	1,443	1,632	3,075	1,064	1,439	1,606	3,045	1,066	1,416	1,591	3,007	1,073	1,393	1,561	2,954	1,065	1,370	1,530	2,900	1,065	1,354	1,500	2,854	1,057	1,316	1,474	2,790	1,070
	布施田	1,238	1,454	2,692	826	1,223	1,430	2,653	826	1,214	1,421	2,635	833	1,189	1,394	2,583	824	1,171	1,373	2,544	828	1,161	1,354	2,515	835	1,144	1,348	2,492	840
	和 具	2,946	3,386	6,332	1,954	2,915	3,330	6,245	1,954	2,899	3,314	6,213	1,975	2,846	3,259	6,105	1,972	2,832	3,222	6,054	1,977	2,788	3,170	5,958	1,982	2,729	3,121	5,850	1,983
	間 崎	106	121	227	94	102	118	220	91	98	114	212	90	93	107	200	89	88	102	190	89	87	98	185	84	86	90	176	83
	越 賀	1,057	1,228	2,285	733	1,041	1,223	2,264	736	1,021	1,208	2,229	736	1,004	1,199	2,203	739	985	1,162	2,147	740	959	1,142	2,101	735	940	1,110	2,050	737
	御 座	386	455	841	276	373	440	813	273	369	436	805	276	355	418	773	269	344	411	755	268	331	397	728	265	328	376	704	268
	小計	7,176	8,276	15,452	4,947	7,093	8,147	15,240	4,946	7,017	8,084	15,101	4,983	6,880	7,938	14,818	4,958	6,790	7,800	14,590	4,967	6,680	7,661	14,341	4,958	6,543	7,519	14,062	4,981
阿児町	鵜 方	4,172	4,628	8,800	3,088	4,212	4,699	8,911	3,139	4,229	4,733	8,962	3,189	4,293	4,808	9,101	3,264	4,316	4,813	9,129	3,307	4,342	4,823	9,165	3,353	4,373	4,859	9,232	3,435
	神 明	2,067	2,285	4,352	1,591	2,088	2,299	4,387	1,614	2,094	2,298	4,392	1,644	2,083	2,262	4,345	1,658	2,120	2,294	4,414	1,690	2,152	2,332	4,484	1,739	2,170	2,321	4,491	1,774
	立 神	806	861	1,667	504	811	874	1,685	522	818	861	1,679	526	817	868	1,685	531	807	869	1,676	530	803	874	1,677	540	796	862	1,658	543
	志 島	496	545	1,041	304	486	546	1,032	304	477	541	1,018	310	469	531	1,000	305	458	529	987	309	442	522	964	310	436	517	953	311
	甲 賀	1,409	1,539	2,948	955	1,432	1,550	2,982	979	1,430	1,571	3,001	1,003	1,433	1,566	2,999	1,021	1,439	1,576	3,015	1,039	1,426	1,562	2,988	1,048	1,432	1,550	2,982	1,072
	国 府	983	1,077	2,060	734	969	1,085	2,054	757	977	1,069	2,046	764	968	1,050	2,018	755	989	1,038	2,027	772	974	1,042	2,016	785	950	1,026	1,976	771
	安 乗	1,172	1,303	2,475	715	1,160	1,281	2,441	718	1,147	1,265	2,412	725	1,115	1,246	2,361	725	1,096	1,223	2,319	730	1,078	1,193	2,271	726	1,047	1,165	2,212	731
	小計	11,105	12,238	23,343	7,891	11,158	12,334	23,492	8,033	11,172	12,338	23,510	8,161	11,178	12,331	23,509	8,259	11,225	12,342	23,567	8,377	11,217	12,348	23,565	8,501	11,204	12,300	23,504	8,637
磯部町	五 知	88	104	192	58	88	104	192	61	89	104	193	58	90	105	195	58	86	100	186	58	87	99	186	60	84	99	183	59
	沓 掛	85	88	173	52	80	88	168	50	83	90	173	51	83	85	168	53	85	86	171	55	84	80	164	53	84	84	168	57
	山 田	335	371	706	230	329	354	683	227	326	357	683	229	318	345	663	228	300	337	637	230	299	335	634	229	295	327	622	227
	上之郷	244	263	507	158	241	259	500	160	234	259	493	162	230	257	487	161	225	259	484	161	223	259	482	159	221	255	476	156
	下之郷	372	411	783	233	367	410	777	231	365	405																		

		平成18年度				平成19年度				平成20年度				平成21年度				平成22年度				平成23年度				平成24年度			
		男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数
浜島町	浜 島	1,955	2,168	4,123	1,491	1,882	2,117	3,999	1,475	1,849	2,065	3,914	1,473	1,820	2,030	3,850	1,477	1,785	1,990	3,775	1,479	1,755	1,971	3,726	1,470	1,710	1,945	3,655	1,474
	南 張	169	182	351	133	165	178	343	134	157	175	332	133	152	174	326	134	150	178	328	136	151	176	327	139	148	168	316	143
	桧山路	96	99	195	66	90	99	189	68	93	96	189	69	91	97	188	69	91	91	182	69	88	94	182	70	81	84	165	67
	塩 屋	78	103	181	67	77	101	178	68	76	98	174	67	73	95	168	66	73	93	166	68	75	85	160	64	71	85	156	60
	迫 子	322	345	667	248	330	340	670	255	321	342	663	259	322	356	678	276	325	352	677	274	324	351	675	283	313	350	663	285
	小計	2,620	2,897	5,517	2,005	2,544	2,835	5,379	2,000	2,496	2,776	5,272	2,001	2,458	2,752	5,210	2,022	2,424	2,704	5,128	2,026	2,393	2,677	5,070	2,026	2,323	2,632	4,955	2,029
大王町	波切	2,460	2,832	5,292	2,045	2,404	2,783	5,187	2,044	2,349	2,733	5,082	2,067	2,312	2,713	5,025	2,072	2,266	2,670	4,936	2,071	2,205	2,606	4,811	2,067	2,160	2,583	4,743	2,067
	船越	880	1,058	1,938	774	867	1,034	1,901	776	849	1,026	1,875	789	846	1,033	1,879	827	828	1,011	1,839	824	792	983	1,775	817	775	974	1,749	824
	名田	132	169	301	122	132	165	297	121	128	164	292	121	129	157	286	123	122	153	275	120	119	150	269	119	112	145	257	117
	畔名	252	307	559	207	241	298	539	204	232	295	527	204	218	276	494	204	217	264	481	207	216	258	474	203	209	251	460	204
	小計	3,724	4,366	8,090	3,148	3,644	4,280	7,924	3,145	3,558	4,218	7,776	3,181	3,505	4,179	7,684	3,226	3,433	4,098	7,531	3,222	3,332	3,997	7,329	3,206	3,256	3,953	7,209	3,212
志摩町	片 田	1,313	1,454	2,767	1,072	1,288	1,422	2,710	1,075	1,264	1,395	2,659	1,079	1,232	1,345	2,577	1,067	1,204	1,314	2,518	1,071	1,191	1,301	2,492	1,076	1,150	1,269	2,419	1,065
	布施田	1,115	1,320	2,435	834	1,100	1,297	2,397	834	1,090	1,286	2,376	847	1,073	1,274	2,347	853	1,045	1,242	2,287	856	1,029	1,216	2,245	850	1,010	1,205	2,215	866
	和 具	2,681	3,111	5,792	2,007	2,616	3,046	5,662	1,999	2,578	2,970	5,548	2,005	2,539	2,919	5,458	2,026	2,479	2,860	5,339	2,022	2,400	2,786	5,186	2,002	2,340	2,712	5,052	1,996
	間 崎	82	84	166	81	81	79	160	78	78	74	152	77	70	66	136	74	69	60	129	72	63	57	120	69	62	54	116	66
	越 賀	916	1,087	2,003	737	891	1,056	1,947	731	884	1,037	1,921	733	867	998	1,865	723	853	981	1,834	725	833	959	1,792	728	816	939	1,755	727
	御 座	318	356	674	267	308	353	661	265	304	345	649	264	295	349	644	267	284	333	617	259	277	325	602	258	273	322	595	253
	小計	6,425	7,412	13,837	4,998	6,284	7,253	13,537	4,982	6,198	7,107	13,305	5,005	6,076	6,951	13,027	5,010	5,934	6,790	12,724	5,005	5,793	6,644	12,437	4,983	5,651	6,501	12,152	4,973
阿児町	鵜 方	4,376	4,907	9,283	3,527	4,393	4,909	9,302	3,576	4,388	4,910	9,298	3,633	4,367	4,867	9,234	3,654	4,368	4,834	9,202	3,677	4,373	4,872	9,245	3,731	4,369	4,913	9,282	3,804
	神 明	2,202	2,335	4,537	1,818	2,217	2,375	4,592	1,850	2,206	2,353	4,559	1,853	2,200	2,369	4,569	1,874	2,199	2,378	4,577	1,896	2,176	2,378	4,554	1,910	2,182	2,387	4,569	1,936
	立 神	782	854	1,636	545	771	840	1,611	538	770	837	1,607	548	765	826	1,591	555	734	814	1,548	555	724	815	1,539	560	700	797	1,497	560
	志 島	437	507	944	306	425	500	925	311	424	488	912	312	421	480	901	315	409	462	871	321	398	445	843	326	391	440	831	322
	甲 賀	1,450	1,581	3,031	1,091	1,433	1,596	3,029	1,099	1,431	1,605	3,036	1,120	1,415	1,577	2,992	1,121	1,404	1,568	2,972	1,129	1,394	1,558	2,952	1,146	1,386	1,568	2,954	1,173
	国 府	955	1,021	1,976	781	937	1,000	1,937	784	921	1,010	1,931	792	912	993	1,905	797	895	972	1,867	787	886	961	1,847	790	883	938	1,821	789
	安 乗	1,016	1,134	2,150	720	1,026	1,122	2,148	731	1,006	1,103	2,109	745	979	1,058	2,037	730	943	1,044	1,987	726	927	1,024	1,951	730	906	1,005	1,911	730
	小計	11,218	12,339	23,557	8,788	11,202	12,342	23,544	8,889	11,146	12,306	23,452	9,003	11,059	12,170	23,229	9,046	10,952	12,072	23,024	9,091	10,878	12,053	22,931	9,193	10,817	12,048	22,865	9,314
磯部町	五 知	85	97	182	60	85	98	183	62	85	96	181	63	84	96	180	65	80	90	170	62	78	88	166	62	79	88	167	66
	沓 掛	89	88	177	61	86	84	170	61	86	83	169	65	81	80	161	63	76	77	153	59	77	77	154	60	79	76	155	62
	山 田	287	326	613	228	283	313	596	226	277	310	587	227	276	310	586	233	275	306	581	232	264	287	551	225	254	279	533	229
	上之郷	221	252	473	158	217	245	462	159	216	243	459	157	205	236	441	159	206	226	432	158	204	223	427	157	196	218	414	161
	下之郷	350	385	735	239	347	3824																						

		平成25年度				平成26年度				平成27年度			
		男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数
浜島町	浜 島	1,680	1,896	3,576	1,476	1,644	1,841	3,485	1,467	1,611	1,797	3,408	1,470
	南 張	145	161	306	142	145	157	302	144	143	151	294	140
	桧山路	79	82	161	65	79	82	161	66	78	78	156	69
	塩 屋	70	85	155	61	71	81	152	61	68	79	147	59
	迫 子	307	345	652	283	306	343	649	284	302	326	628	280
	小計	2,281	2,569	4,850	2,027	2,245	2,504	4,749	2,022	2,202	2,431	4,633	2,018
大王町	波切	2,084	2,519	4,603	2,058	2,027	2,439	4,466	2,036	1,986	2,409	4,395	2,027
	船越	745	957	1,702	820	748	934	1,682	819	712	894	1,606	793
	名田	113	143	256	119	112	137	249	114	104	132	236	112
	畔名	207	250	457	200	196	237	433	192	186	233	419	191
	小計	3,149	3,869	7,018	3,197	3,083	3,747	6,830	3,161	2,988	3,668	6,656	3,123
志摩町	片 田	1,134	1,250	2,384	1,066	1,100	1,229	2,329	1,062	1,065	1,195	2,260	1,052
	布施田	978	1,184	2,162	854	956	1,150	2,106	854	927	1,127	2,054	857
	和 具	2,287	2,637	4,924	2,006	2,226	2,571	4,797	1,997	2,164	2,492	4,656	1,981
	間 崎	61	52	113	66	53	49	102	60	47	43	90	53
	越 賀	796	898	1,694	709	773	896	1,669	714	744	859	1,603	696
	御 座	261	309	570	247	249	297	546	247	237	290	527	241
	小計	5,517	6,330	11,847	4,948	5,357	6,192	11,549	4,934	5,184	6,006	11,190	4,880
阿児町	鵜 方	4,340	4,862	9,202	3,817	4,335	4,850	9,185	3,842	4,367	4,887	9,254	3,924
	神 明	2,178	2,392	4,570	1,958	2,142	2,389	4,531	1,927	2,126	2,362	4,488	1,946
	立 神	693	783	1,476	557	673	760	1,433	558	667	740	1,407	549
	志 島	378	425	803	323	357	421	778	324	357	417	774	325
	甲 賀	1,398	1,542	2,940	1,184	1,389	1,512	2,901	1,190	1,358	1,490	2,848	1,178
	国 府	883	917	1,800	800	850	899	1,749	789	841	884	1,725	789
	安 乗	887	975	1,862	724	875	951	1,826	713	845	935	1,780	713
	小計	10,757	11,896	22,653	9,363	10,621	11,782	22,403	9,343	10,561	11,715	22,276	9,424
磯部町	五 知	71	82	153	63	72	82	154	65	69	81	150	65
	沓 掛	75	70	145	60	70	67	137	56	66	67	133	57
	山 田	251	282	533	228	241	279	520	227	231	272	503	223
	上之郷	189	208	397	159	186	210	396	160	182	211	393	162
	下之郷	306	364	670	258	304	354	658	257	298	329	627	251
	飯 浜	92	105	197	74	92	102	194	75	89	100	189	75
	恵利原	342	419	761	296	341	419	760	302	336	408	744	295
	川 辺	219	241	460	214	212	226	438	206	214	234	448	216
	迫間一	273	297	570	232	264	281	545	229	253	274	527	227
	迫 間	274	278	552	260	270	275	545	259	271	270	541	267
	築 地	282	281	563	222	277	274	551	217	271	271	542	217
	山 原	102	93	195	78	104	88	192	75	104	86	190	77
	夏 草	96	94	190	67	90	92	182	67	88	89	177	68
	栗木広	84	106	190	63	84	104	188	64	85	102	187	65
	桧 山	46	50	96	29	45	48	93	28	42	44	86	28
	穴 川	548	613	1,161	466	531	598	1,129	461	523	593	1,116	455
	坂 崎	170	194	364	172	166	199	365	183	162	193	355	183
	三ヶ所	146	163	309	132	141	162	303	133	132	156	288	132
	渡鹿野	103	136	239	143	95	129	224	133	90	121	211	127
	的 矢	229	253	482	236	234	253	487	245	230	253	483	244
	小計	3,898	4,329	8,227	3,452	3,819	4,242	8,061	3,442	3,736	4,154	7,890	3,434
志 摩 市		25,602	28,993	54,595	22,987	25,125	28,467	53,592	22,902	24,671	27,974	52,645	22,879

平成 24 年度以降の人口から外国人住民を含んだ人口です。

この人口集計は、次のとおり自治会の合算をしています。
上 之 郷（上之郷、上之郷住宅）
恵 利 原（恵利原、恵ヶ丘）
迫 間 一（迫間一、梶坊、雇用促進住宅）
築 地（築地、銀河の里）
栗 木 広（栗木広、堀切）

資料出所：志摩市 住民基本台帳

		平成16年			平成17年			平成18年			平成19年			平成20年			平成21年			平成22年			平成23年			平成24年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
浜島町	浜島	425	430	855	405	419	824	381	403	784	340	377	717	329	363	692	340	329	669	312	320	632	315	297	612	293	286	579
	南張	31	28	59	28	26	54	26	25	51	24	23	47	20	23	43	21	24	45	19	25	44	21	25	46	19	21	40
	桧山路	26	15	41	24	13	37	23	12	35	20	12	32	25	10	35	26	12	38	27	10	37	23	10	33	22	7	29
	塩屋	12	14	26	12	14	26	9	12	21	6	13	19	6	12	18	5	12	17	7	12	19	7	12	19	9	14	23
	迫子	50	69	119	46	63	109	43	52	95	41	52	93	40	51	91	38	55	93	39	58	97	38	57	95	35	57	92
	小計	544	556	1,100	515	535	1,050	482	504	986	431	477	908	420	459	879	430	432	862	404	425	829	404	401	805	378	385	763
大王町	波切	520	514	1,034	522	506	1,028	522	488	1,010	496	467	963	457	434	891	436	416	852	401	408	809	377	369	746	366	350	716
	船越	173	173	346	157	161	318	152	150	302	143	139	282	139	142	281	135	131	266	126	122	248	122	110	232	111	102	213
	名田	21	34	55	22	31	53	24	25	49	26	22	48	22	21	43	22	22	44	22	22	44	23	23	46	21	20	41
	畔名	51	52	103	52	59	111	47	58	105	43	54	97	40	52	92	37	41	78	35	38	73	36	30	66	34	31	65
	小計	765	773	1,538	753	757	1,510	745	721	1,466	708	682	1,390	658	649	1,307	630	610	1,240	584	590	1,174	558	532	1,090	532	503	1,035
志摩町	片田	241	252	493	224	219	443	224	208	432	212	199	411	198	174	372	187	160	347	169	143	312	156	142	298	143	133	276
	布施田	234	238	472	223	233	456	214	227	441	207	213	420	193	196	389	185	191	376	180	178	358	170	165	335	161	162	323
	和具	554	604	1,158	537	597	1,134	516	583	1,099	491	546	1,037	467	523	990	457	494	951	430	464	894	413	428	841	385	415	800
	間崎	4	5	9	3	3	6	4	2	6	3	1	4	4	1	5	4	1	5	3	1	4	3	1	4	3	1	4
	越賀	174	188	362	166	178	344	176	176	352	158	161	319	155	145	300	147	131	278	137	126	263	133	126	259	122	120	242
	御座	72	60	132	70	53	123	69	57	126	63	52	115	64	51	115	60	57	117	52	53	105	48	46	94	48	45	93
	小計	1,279	1,347	2,626	1,223	1,283	2,506	1,203	1,253	2,456	1,134	1,172	2,306	1,081	1,090	2,171	1,040	1,034	2,074	971	965	1,936	923	908	1,831	862	876	1,738
阿児町	鵜方	1,071	1,163	2,234	1,061	1,175	2,236	1,054	1,180	2,234	1,054	1,154	2,208	1,048	1,138	2,186	1,016	1,110	2,126	975	1,074	2,049	960	1,044	2,004	946	1,031	1,977
	神明	522	563	1,085	540	547	1,087	545	541	1,086	546	546	1,092	540	533	1,073	530	514	1,044	510	496	1,006	511	483	994	510	488	998
	立神	156	170	326	155	170	325	154	168	322	141	156	297	143	153	296	141	145	286	124	143	267	119	136	255	109	126	235
	志島	90	105	195	90	98	188	89	92	181	80	85	165	80	80	160	82	83	165	79	77	156	68	67	135	74	61	135
	甲賀	307	332	639	311	330	641	335	329	664	319	330	649	315	335	650	295	311	606	295	311	606	284	296	580	271	291	562
	国府	211	224	435	200	210	410	198	210	408	194	200	394	182	193	375	179	197	376	180	182	362	175	180	355	181	153	334
	安乗	243	240	483	225	229	454	220	213	433	213	203	416	203	190	393	197	169	366	175	167	342	171	170	341	160	161	321
	小計	2,600	2,797	5,397	2,582	2,759	5,341	2,595	2,733	5,328	2,547	2,674	5,221	2,511	2,622	5,133	2,440	2,529	4,969	2,338	2,450	4,788	2,288	2,376	4,664	2,251	2,311	4,562
磯部町	五知	21	21	42	16	24	40	16	23	39	13	25	38	13	21	34	12	11	23	10	16	26	7	15	22	6	15	21
	沓掛	15	14	29	15	14	29	19	16	35	18	11	29	18	11	29	16	18	34	15	13	28	15	14	29	15	13	28
	山田	74	67	141	75	65	140	77	65	142	75	59	134	69	57	126	63	56	119	58	53	111	58	42	100	57	39	96
	上之郷	50	54	104	48	54	102	48	56	104	47	53	100	45	51	96	43	48	91	44	44	88	37	36	73	32	32	64
	下之郷	74	85	159	74	84	158	78	84	162	75	82	157	72	72	144	76	69	145	76	72	148	67	64	131	59	73	132
	飯浜	25	28	53	21	26	47	18	23	41	19	25	44	17	24	41	18	22	40	14	23	37	14	18	32	12	16	28
	恵利原	72	85	157	80	93	173	77	89	166	76	89	165	67	86	153	70	89	159	71	83	154	74	79	153	69	66	135
	川辺	63	65	128	64	62	126	61	60	121	56	55	111	54	49	103	45	48	93	52	54	106	60	51	111	60	61	121
	迫間一	81	98	179	76	88	164	75	89	164	64	85	149	62	77	139	55	74	129	48	59	107	51	61	112	49	54	103
	迫間	70	63	133	68	62	130	70	61	131	74	58	132	76	56	132	67	56	123	60	52	112	58	49	107	54	52	106
	築地	59	62	121	58	58	116	60	58	118	66	56	122	62	63	125	58	61	119	62	64	126	56	62	118	64	57	121
	山原	26	17	43	26	19	45	27	21	48	22	23	45	25	27	52	25	28	53	22	27	49	18	20	38	14	20	34
	夏草	23	19	42	21	19	40	17	18	35	17	22	39	17	20	37	16	17	33	17	18	35	14	16	30	15	20	35
	栗木広	22	21	43	17	20	37	15	16	31	12	16	28	14	13	27	14	12	26	12	17	29	12	19	31	14	21	35
	桧山	8	11	19	8	20	28	7	12	19	9	13	22	10	11	21	11	11	22	10	10	20	9	10	19	10	11	21
	穴川	139	139	278	126	136	262	123	126	249	123	118	241	114	115	229	105	110	215	99	112	211	93	107	200	92	96	188
	坂崎	44	67	111	42	73	115	37	55	92	34	57	91	29	52	81	27	51	78	23	47	70	21	39	60	25	44	69
	三ヶ所	28	29	57	25	28	53	22	24	46	20	22	42	20	21	41	26	23	49	30	22	52	33	19	52	33	16	49
	渡鹿野	19	36	55	21	29	50	23	24	47	23	23	46	16	25	41	17	20	37	16	18	34	17	18	35	14	18	32
	的矢	36	27	63	30	21	51	38	23	61	31	24	55	30	31	61	32	31	63	33	30	63	36	32	68	32	34	66
	小計	949	1,008	1,957	911	995	1,906	908	943	1,851	874	916	1,790	830	882	1,712	796	855	1,651	772	834	1,606	750	771	1,521	726	758	1,484
志 摩 市		6,137	6,481	12,618	5,984	6,329	12,313	5,933	6,154	12,087	5,694	5,921	11,615	5,500	5,702	11,202	5,336	5,460	10,796	5,069	5,264	10,333	4,923	4,988	9,911	4,749	4,833	9,582

		平成25年			平成26年			平成27年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
浜島町	浜島	269	268	537	259	244	503	254	213	467
	南張	17	20	37	16	15	31	17	13	30
	桧山路	21	7	28	19	8	27	15	6	21
	塩屋	8	14	22	8	14	22	8	17	25
	迫子	32	48	80	34	50	84	34	42	76
	小計	347	357	704	336	331	667	328	291	619
大王町	波切	334	318	652	316	287	603	289	268	557
	船越	110	105	215	109	105	214	101	92	193
	名田	22	21	43	21	17	38	16	14	30
	畔名	38	33	71	36	28	64	31	28	59
	小計	504	477	981	482	437	919	437	402	839
志摩町	片田	141	130	271	141	123	264	129	121	250
	布施田	145	158	303	143	144	287	130	137	267
	和具	369	394	763	342	351	693	322	308	630
	間崎	3	1	4	2	1	3	2	1	3
	越賀	116	112	228	104	112	216	91	101	192
	御座	43	46	89	43	40	83	36	38	74
	小計	817	841	1,658	775	771	1,546	710	706	1,416
阿児町	鵜方	916	960	1,876	892	954	1,846	914	946	1,860
	神明	501	484	985	462	449	911	439	433	872
	立神	104	124	228	102	109	211	101	105	206
	志島	64	51	115	54	53	107	49	51	100
	甲賀	265	281	546	253	264	517	245	256	501
	国府	173	139	312	146	124	270	144	123	267
	安乗	143	150	293	137	142	279	130	135	265
	小計	2,166	2,189	4,355	2,046	2,095	4,141	2,022	2,049	4,071
磯部町	五知	3	12	15	3	10	13	3	8	11
	沓掛	14	14	28	13	16	29	13	15	28
	山田	54	36	90	50	40	90	40	36	76
	上之郷	26	21	47	26	221	247	21	21	42
	下之郷	55	66	121	56	63	119	50	50	100
	飯浜	15	13	28	13	12	25	11	8	19
	恵利原	67	67	134	69	64	133	68	56	124
	川辺	53	57	110	53	50	103	60	53	113
	迫間一	53	56	109	47	47	94	42	41	83
	迫間	52	48	100	44	48	92	45	49	94
	築地	64	52	116	59	44	103	58	43	101
	山原	16	19	35	20	17	37	20	13	33
	夏草	17	16	33	15	16	31	14	13	27
	栗木広	13	19	32	14	17	31	15	16	31
	桧山	9	11	20	9	9	18	8	7	15
	穴川	88	86	174	85	82	167	81	81	162
	坂崎	24	42	66	23	45	68	20	42	62
	三ヶ所	32	17	49	26	19	45	17	14	31
	渡鹿野	14	16	30	14	18	32	11	15	26
	的矢	33	34	67	31	32	63	33	33	66
	小計	702	702	1,404	670	870	1,540	630	614	1,244
志摩市		4,536	4,566	9,102	4,309	4,504	8,813	4,127	4,062	8,189

平成 24 年度以降の人口から外国人住民を含んだ人口です。

この人口集計は、次のとおり自治会の合算をしています。
上 之 郷（上之郷、上之郷住宅）
恵 利 原（恵利原、恵ヶ丘）
迫 間 一（迫間一、梶坊、雇用促進住宅）
築 地（築地、銀河の里）
栗 木 広（栗木広、堀切）

3. 65 歳以上 男女別・地区別人口

		平成16年			平成17年			平成18年			平成19年			平成20年			平成21年			平成22年			平成23年			平成24年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
浜島町	浜島	499	701	1,200	503	710	1,213	519	722	1,241	526	736	1,262	554	736	1,290	566	753	1,319	574	751	1,325	574	773	1,347	584	786	1,370
	南張	65	81	146	68	81	149	66	80	146	67	83	150	65	83	148	63	84	147	61	83	144	61	84	145	61	84	145
	桧山路	18	34	52	16	35	51	18	34	52	18	34	52	19	36	55	18	36	54	19	36	55	20	37	57	19	36	55
	塩屋	35	49	84	33	51	84	33	47	80	38	48	86	33	50	83	32	51	83	30	49	79	30	45	75	29	42	71
	迫子	93	102	195	102	110	212	102	117	219	106	116	222	106	116	222	106	126	232	109	123	232	115	126	241	119	129	248
	小計	710	967	1,677	722	987	1,709	738	1,000	1,738	755	1,017	1,772	777	1,021	1,798	785	1,050	1,835	793	1,042	1,835	800	1,065	1,865	812	1,077	1,889
大王町	波切	646	1,011	1,657	662	1,045	1,707	679	1,047	1,726	691	1,048	1,739	692	1,067	1,759	703	1,077	1,780	695	1,067	1,762	706	1,070	1,776	717	1,101	1,818
	船越	282	399	681	282	400	682	293	401	694	292	393	685	282	406	688	290	447	737	278	441	719	271	438	709	277	452	729
	名田	47	72	119	44	72	116	43	75	118	43	76	119	43	75	118	47	73	120	46	71	117	45	76	121	43	75	118
	畔名	65	115	180	69	120	189	72	121	193	72	117	189	73	120	193	71	115	186	74	110	184	74	107	181	79	115	194
	小計	1,040	1,597	2,637	1,057	1,637	2,694	1,087	1,644	2,731	1,098	1,634	2,732	1,090	1,668	2,758	1,111	1,712	2,823	1,093	1,689	2,782	1,096	1,691	2,787	1,116	1,743	2,859
志摩町	片田	387	544	931	397	560	957	413	574	987	419	577	996	436	581	1,017	438	572	1,010	434	567	1,001	442	578	1,020	449	581	1,030
	布施田	292	443	735	304	460	764	306	472	778	310	475	785	322	495	817	330	501	831	326	493	819	331	498	829	334	512	846
	和具	666	901	1,567	675	933	1,608	690	975	1,665	693	991	1,684	705	998	1,703	711	1,003	1,714	702	1,009	1,711	719	1,001	1,720	745	1,021	1,766
	間崎	53	68	121	53	69	122	52	68	120	52	66	118	50	66	116	44	58	102	43	52	95	39	49	88	38	48	86
	越賀	256	412	668	260	421	681	251	427	678	262	416	678	267	410	677	272	403	675	273	401	674	268	400	668	281	408	689
	御座	78	137	215	74	140	214	75	133	208	77	134	211	81	131	212	84	128	212	79	123	202	80	128	208	84	129	213
	小計	1,732	2,505	4,237	1,763	2,583	4,346	1,787	2,649	4,436	1,813	2,659	4,472	1,861	2,681	4,542	1,879	2,665	4,544	1,857	2,645	4,502	1,879	2,654	4,533	1,931	2,699	4,630
阿児町	鵜方	719	998	1,717	760	1,035	1,795	801	1,075	1,876	812	1,101	1,913	826	1,135	1,961	857	1,152	2,009	868	1,152	2,020	889	1,185	2,074	927	1,239	2,166
	神明	391	519	910	398	554	952	429	588	1,017	439	597	1,036	453	613	1,066	465	630	1,095	468	642	1,110	484	664	1,148	507	687	1,194
	立神	219	263	482	228	269	497	228	277	505	231	280	511	234	291	525	232	292	524	222	300	522	222	308	530	225	311	536
	志島	113	168	281	108	174	282	110	174	284	117	173	290	120	170	290	116	165	281	115	159	274	115	165	280	116	167	283
	甲賀	316	436	752	328	434	762	332	441	773	332	450	782	344	466	810	352	471	823	344	470	814	357	478	835	369	484	853
	国府	245	305	550	249	312	561	250	313	563	255	327	582	254	327	581	253	315	568	248	321	569	249	322	571	268	325	593
	安乗	243	379	622	252	378	630	268	387	655	270	395	665	271	394	665	266	378	644	254	373	627	262	377	639	258	382	640
	小計	2,246	3,068	5,314	2,323	3,156	5,479	2,418	3,255	5,673	2,456	3,323	5,779	2,502	3,396	5,898	2,541	3,403	5,944	2,519	3,417	5,936	2,578	3,499	6,077	2,670	3,595	6,265
磯部町	五知	29	40	69	29	37	66	29	38	67	30	37	67	33	40	73	31	42	73	31	42	73	29	42	71	31	41	72
	沓掛	19	25	44	19	24	43	19	24	43	19	23	42	19	24	43	16	21	37	16	19	35	18	18	36	17	20	37
	山田	61	95	156	68	94	162	66	98	164	69	95	164	69	97	166	73	102	175	72	102	174	75	101	176	74	99	173
	上之郷	55	72	127	55	75	130	59	78	137	61	79	140	66	79	145	64	78	142	64	74	138	67	73	140	69	79	148
	下之郷	84	111	195	85	112	197	88	112	200	86	112	198	89	117	206	92	121	213	88	121	209	84	119	203	79	122	201
	飯浜	31	43	74	31	43	74	34	44	78	36	45	81	36	44	80	36	43	79	37	38	75	36	37	73	35	38	73
	恵利原	97	138	235	95	142	237	94	140	234	95	143	238	95	146	241	102	146	248	101	140	241	107	138	245	105	142	247
	川辺	37	77	114	38	75	113	44	77	121	46	73	119	45	78	123	47	78	125	47	76	123	48	79	127	48	81	129
	迫間一	66	93	159	73	99	172	75	100	175	76	102	178	74	102	176	76	108	184	74	107	181	79	107	186	83	107	190
	迫間	55	69	124	57	73	130	59	71	130	64	79	143	72	81	153	74	85	159	72	86	158	72	87	159	72	84	156
	築地	54	74	128	56	71	127	61	71	132	62	74	136	63	75	138	67	76	143	65	77	142	67	80	147	70	80	150
	山原	26	33	59	27	35	62	29	34	63	28	38	66	30	37	67	28	37	65	28	38	66	27	37	64	26	36	62
	夏草	26	35	61	27	37	64	27	36	63	27	35	62	27	38	65	27	36	63	26	35	61	26	36	62	28	37	65
	栗木広	20	27	47	20	26	46	23	28	51	2	28	30	25	32	57	25	32	57	27	33	60	27	34	61	27	34	61
	桧山	10	14	24	10	14	24	10	13	23	11	13	24	9	15	24	10	16	26	11	16	27	10	17	27	10	15	25
	穴川	152	178	330	153	183	336	154	193	347	157	198	355	152	208	360	162	212	374	160	224	384	159	224	383	162	230	392
	坂崎	48	83	131	49	85	134	49	86	135	52	83	135	53	79	132	57	80	137	58	80	138	58	77	135	65	77	142
	三ヶ所	46	84	130	42	84	126	44	85	129	46	84	130	45	86	131	43	84	127	41	80	121	40	77	117	38	78	116
	渡鹿野	51	72	123	51	72	123	52	70	122	48	67	115	49	63	112	50	64	114	47	63	110	48	62	110	45	67	112
	的矢	60	88	148	60	88	148	61	88	149	61	92	153	63	93	156	63	93	156	64	96	160	66	97	163	72	101	173
	小計	1,027	1,451	2,478	1,045	1,469	2,514	1,077	1,486	2,563	1,076	1,500	2,576	1,114	1,534	2,648	1,143	1,554	2,697	1,129	1,547	2,676	1,143	1,542	2,685	1,156	1,568	2,724
志 摩 市		6,755	9,588	16,343	6,910	9,832	16,742	7,107	10,034	17,141	7,198	10,133	17,331	7,344	10,300	17,644	7,459	10,384	17,843	7,391	10,340	17,731	7,496	10,451	17,947	7,685	10,682	18,367

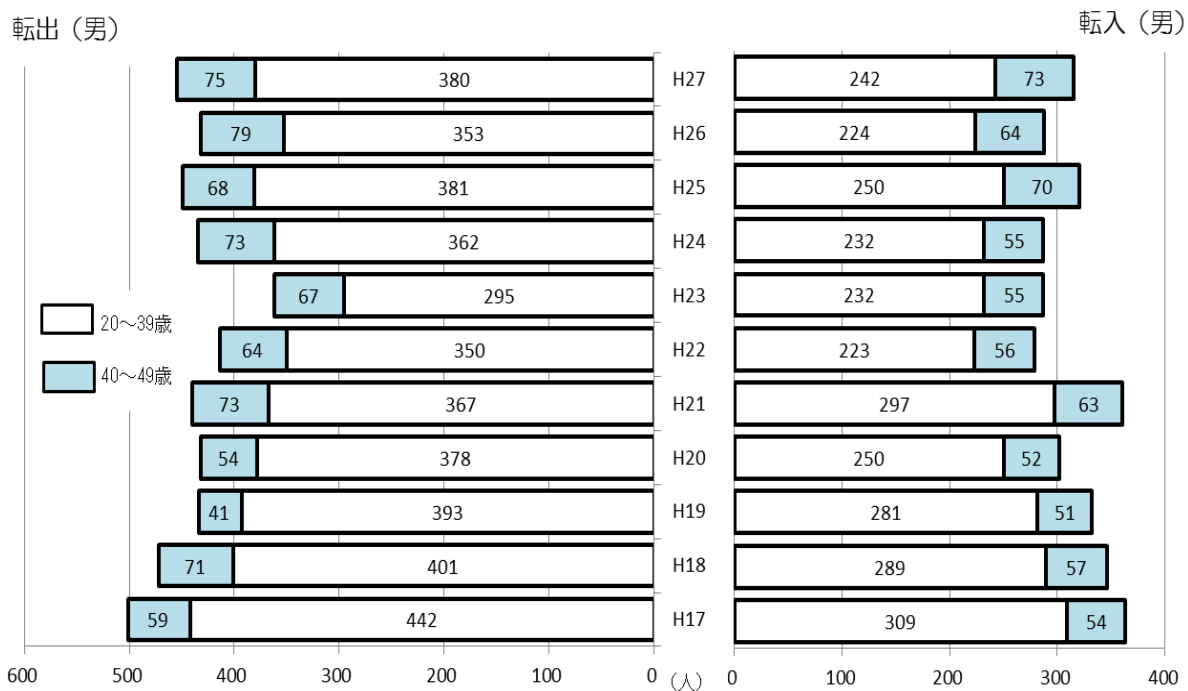
		平成25年			平成26年			平成27年		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
浜島町	浜島	601	812	1,413	607	816	1,423	609	828	1,437
	南張	63	86	149	65	89	154	67	91	158
	桧山路	22	36	58	21	38	59	23	38	61
	塩屋	28	43	71	30	40	70	25	37	62
	迫子	122	137	259	125	138	263	131	142	273
	小計	836	1,114	1,950	848	1,121	1,969	855	1,136	1,991
大王町	波切	722	1,127	1,849	746	1,133	1,879	757	1,151	1,908
	船越	284	450	734	299	446	745	287	436	723
	名田	43	72	115	45	72	117	45	73	118
	畔名	76	116	192	71	107	178	71	108	179
	小計	1,125	1,765	2,890	1,161	1,758	2,919	1,160	1,768	2,928
志摩町	片田	459	593	1,052	458	594	1,052	461	605	1,066
	布施田	321	520	841	321	517	838	324	520	844
	和具	755	1,029	1,784	777	1,039	1,816	779	1,043	1,822
	間崎	37	46	83	34	42	76	29	37	66
	越賀	290	406	696	296	410	706	304	401	705
	御座	88	128	216	88	126	214	87	125	212
	小計	1,950	2,722	4,672	1,974	2,728	4,702	1,984	2,731	4,715
阿児町	鵜方	978	1,265	2,243	1,012	1,298	2,310	1,037	1,344	2,381
	神明	514	695	1,209	523	720	1,243	547	753	1,300
	立神	228	313	541	222	316	538	228	308	536
	志島	128	172	300	127	176	303	132	184	316
	甲賀	385	493	878	392	502	894	411	518	929
	国府	290	343	633	290	348	638	293	357	650
	安乗	268	385	653	280	383	663	284	383	667
	小計	2,791	3,666	6,457	2,846	3,743	6,589	2,932	3,847	6,779
磯部町	五知	27	41	68	29	42	71	28	44	72
	沓掛	17	21	38	16	19	35	15	20	35
	山田	78	96	174	82	98	180	82	100	182
	上之郷	68	80	148	67	84	151	65	84	149
	下之郷	85	120	205	91	124	215	95	120	215
	飯浜	38	39	77	40	38	78	38	40	78
	恵利原	109	148	257	107	152	259	107	154	261
	川辺	47	85	132	46	83	129	46	84	130
	迫間一	90	106	196	93	108	201	92	112	204
	迫間	76	88	164	77	89	166	80	94	174
	築地	68	85	153	67	86	153	67	87	154
	山原	25	33	58	24	34	58	24	34	58
	夏草	29	37	66	28	37	65	29	38	67
	栗木広	28	36	64	30	39	69	31	36	67
	桧山	10	15	25	10	15	25	10	14	24
	穴川	164	236	400	157	234	391	157	234	391
	坂崎	67	74	141	69	75	144	71	76	147
	三ヶ所	39	77	116	44	76	120	47	73	120
	渡鹿野	46	66	112	43	69	112	41	64	105
	的矢	73	111	184	78	120	198	79	120	199
	小計	1,184	1,594	2,778	1,198	1,622	2,820	1,204	1,628	2,832
志摩市		7,886	10,861	18,747	8,027	10,972	18,999	8,135	11,110	19,245

資料出所：志摩市 住民基本台帳

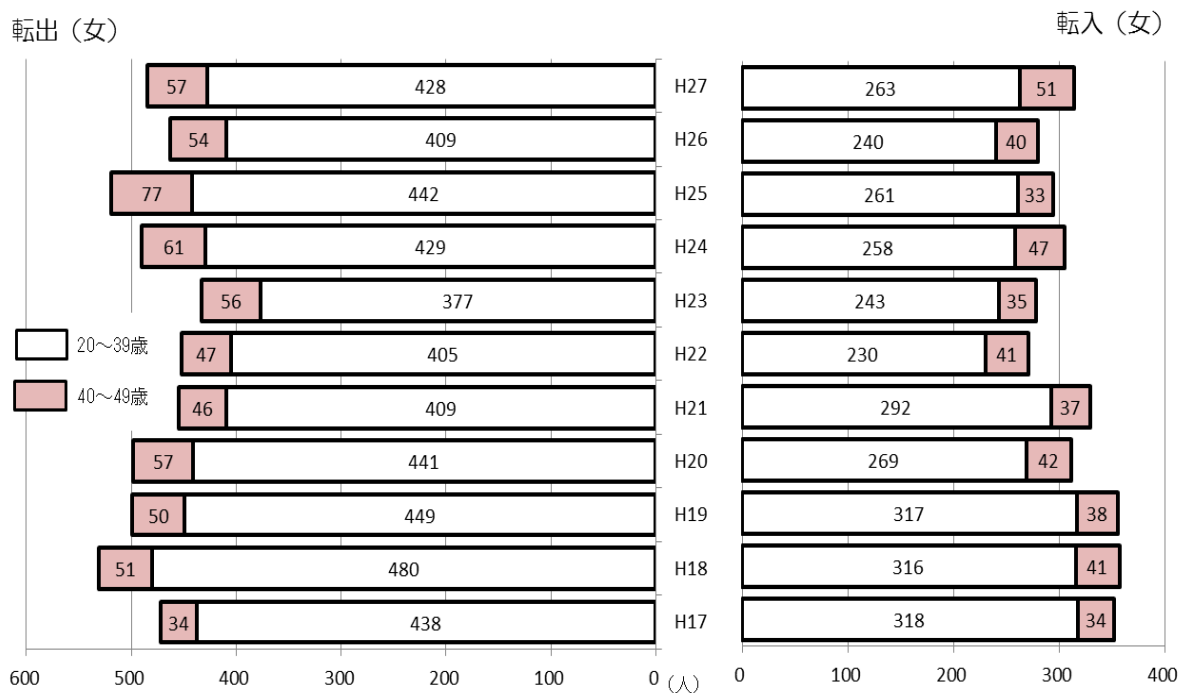
平成 24 年度以降の人口から外国人住民を含んだ人口です。

この人口集計は、次のとおり自治会の合算をしています。
 上 之 郷（上之郷、上之郷住宅）
 恵 利 原（恵利原、恵ヶ丘）
 迫 間 一（迫間一、梶坊、雇用促進住宅）
 築 地（築地、銀河の里）
 栗 木 広（栗木広、堀切）

4. 20～39 歳・40～49 歳 男女別転入転出数



資料出所：志摩市 住民基本台帳



資料出所：志摩市 住民基本台帳

志摩市人口ビジョン（第2版）

平成 29 年 月 日

【お問い合わせ先】

志摩市 政策推進部 総合政策課

〒517-0592

三重県志摩市阿児町鵜方 3098-22 市役所 5 階

TEL : 0599-44-0205

FAX : 0599-44-5252

E-mail : sogoseisaku@city.shima.lg.jp

ホームページ : <https://www.city.shima.mie.jp/>